大正六年九月十四日（第三種郵便物認可）
昭和六年七月一日發行（毎月一回一日發行）（第拾四輯第七號）

建築と社會



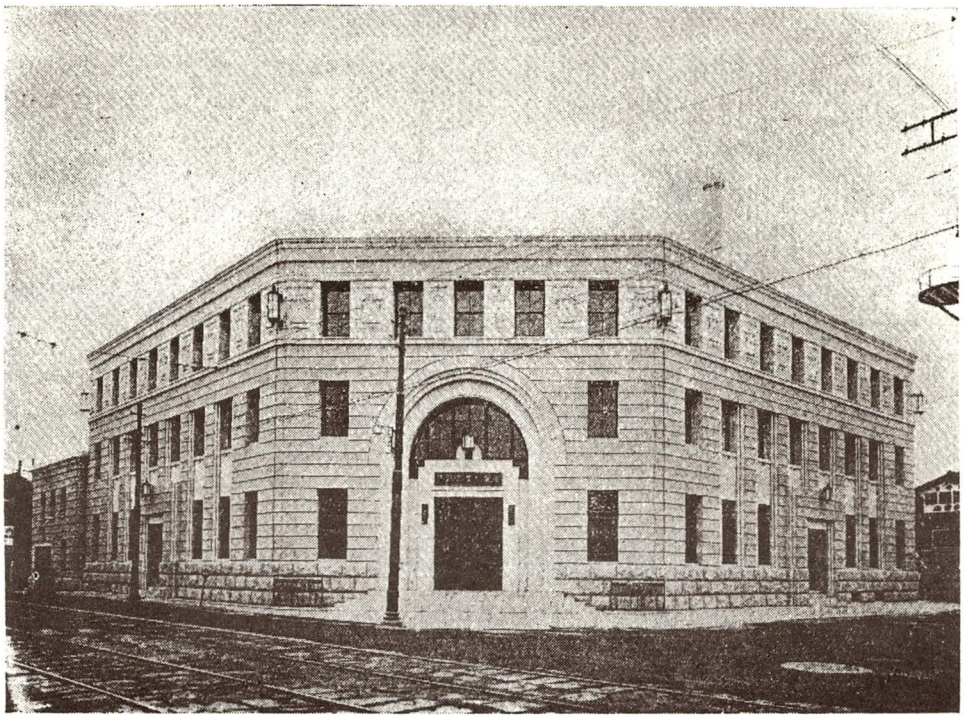
特輯　記事

新興建築

第十四輯第七號
昭和六年七月一日
日本建築協會

三建—製造

三機—販賣



（寫眞は三建式サツシ ドアー，シヤツター，間仕切御採用の廣島縣農工銀行）

竣	工	昭和六年四月
設	計	增田建築事務所殿
施	工	竹中工務店殿

三建工業株式會社

總代理店

三機工業株式會社

本店　東京市麹町區有樂町一丁目一〇(三信ビル內)
電話銀座 (57) 5140 (10)

支店　大阪市東區備後町二ノ二一(野村ビル內)
電話本町(24)1166・1167・1525

取扱店　各地三井物産株式會社支店出張所

（型錄贈呈）

神戸鈴蘭臺ニ於ケル
住宅設計圖案

懸賞募集

本協會發行雜誌『建築と社會』六月號ニテ小住宅設計圖案懸賞募集發表致シマシヌガ今回神戸新聞社ヨリ賞金副賞ノ寄贈申込ガアリマシタカラ賞金追加並締切期日ヲ左ノ通變更シ改メテ御知ラセ致シマス奮ツテ應募下サランコトヲ希ヒマス

生活改善健康住宅展覽會

社團法人 **日本建築協會**

小住宅設計圖案懸賞募集規程

一、神有電鐵沿線鈴蘭臺(元小部)ニ建ツヘキ山莊的住宅ノ設計圖案

二、應募設計要件

1. 位置　丘上及山腹ノ平地
2. 敷地　百坪內外
3. 建坪及所要ノ室　延三十坪以內トシ室數、室ノ大サ等任意
4. 構造　木造建タルコト
5. 建築費　四千圓以內タルコト

三、應募圖面及書類

1. 平面圖　五十分ノ一
2. 立面圖　五十分ノ一
3. 斷面圖　主要部分一面以上
4. 透視圖　可成添附スルコト
5. 簡單ナル仕樣書又ハ說明書

四、圖面ハ原圖紙ヘ墨仕上ケトシ陰影着色等任意

五、各圖面並ニ書類ニハ暗號ヲ附シ別ニ暗號並ニ住所氏名ヲ記シタル紙片ヲ封筒ニ入レ添附スルコト

六、賞金

一等　一名　金壹百圓
二等　一名　金五拾圓
佳作　若干名

神戸新聞社寄贈賞左ノ如シ

佳作十名　金拾五圓宛

副賞トシテ一等、二等、及佳作十名ニ對シ賞牌

七、締切期日（左の如く延期せり）

昭和六年八月十五日

八、審査及當選發表

1. 審査ノ結果ハ『建築と社會』並ニ神戸新聞紙上ニ之ヲ發表ス
2. 審査員ノ氏名ハ左ノ如シ

日本建築協會會長　工學博士　片岡安氏
同副會長　古宇田實氏
同副會長　日高胖氏
同住宅委員會委員長　葛野壯一郎氏
京都帝國大學教授　工學博士　藤井厚二氏
生活改善健康住宅展覽會副會長　加藤源次氏

3. 當選圖案ハ神有電鐵沿線鈴蘭臺ニ於ケル本年九月ヨリ開催サルル生活改善健康住宅展覽會ニ開期中陳列ス

九、審査ノ結果ニ對シテハ說明ヲ求メ又ハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

一〇、應募圖案ハ之ヲ還附セス

二、應募圖案發送先

大阪市西區土佐堀通一丁目大同ビル
日本建築協會宛

香里園
改善住宅

設計圖案懸賞募集（御注意●締切期日延期）

今秋改善住宅展覽會開催ニ際シ、弘ク懸賞ニ據リ設計圖案ヲ募集ス、新人ノ應募ヲ期待ス。

香里園改善住宅展覽會

主催　大阪時事新報社
　　京都日々新聞社
　　神戸新聞社

後援　社團法人 日本建築協會
　　京阪電氣鐵道株式會社

▼敷地概況▲

香里園住宅地は香里停留所東丘陵にあり、北より東へかけての一帶は松林に圍まれ南は遙かに生駒、金剛の連峯を一眸のうちに收め、西は展開して攝河の沃野を瞰下す、高燥にして眺望絶佳實に都人士の理想的住宅地なり。

▼募集規程▲

一、京阪電鐵沿線香里園ニ建ツヘキ改善住宅建築設計圖案

二、應募設計要件

1. 位置　京阪電氣鐵道株式會社經營土地香里園（香里驛附近）
2. 敷地　百坪以內
3. 建坪及所要ノ室　延三十坪內外トシ室數、室ノ大サ等任意
4. 構造、樣式　木造建トシ樣式ハ任意トス
5. 建築費　參千五百圓以內タルコト

三、應募圖面及書類

1. 平面圖　各階　縮尺五十分ノ一
2. 立面圖　四面　縮尺五十分ノ一
3. 斷面圖　主要部分一面以上　縮尺五十分ノ一
4. 見取圖　可成添附スルコトヲ望ム（此分ニ限リ仕上方法隨意トス）
5. 簡單ナル仕樣書又ハ說明書

四、圖面ハ原圖紙ヘ墨仕上ケトシ陰影着色等任意

五、各圖面並ニ書類ニハ暗號ヲ附シ別ニ暗號並ニ住所氏名ヲ記シタル紙片ヲ暗號ヲ表記セル封筒ニ入レ添附スルコト

六、賞牌及賞金

一等賞　一名　賞牌　副賞　金壹百圓
二等賞　二名　賞牌　副賞　金五拾圓宛
三等賞　三名　賞牌　副賞　金貳拾五圓宛
佳作　若干名　賞牌

七、締切期日　**昭和六年七月十五日迄　八月十五日迄延期**

八、審査及當選發表

1. 審査ノ結果ハ『建築と社會』並ニ大阪時事新報、京都日日新聞及神戸新聞ノ三新聞紙上ニ之ヲ發表シ更ニ適當ナル場所ニ於テ陳列公開ス
2. 審査員ノ氏名ハ左ノ如シ

日本建築協會會長　工學博士　片岡安氏
同副會長　古宇田實氏
同副會長　日高胖氏
同住宅委員會委員長　葛野壯一郎氏
京都帝國大學教授　工學博士　藤井厚二氏

九、審査ノ結果ニ對シテニ說明ヲ求メ又ハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

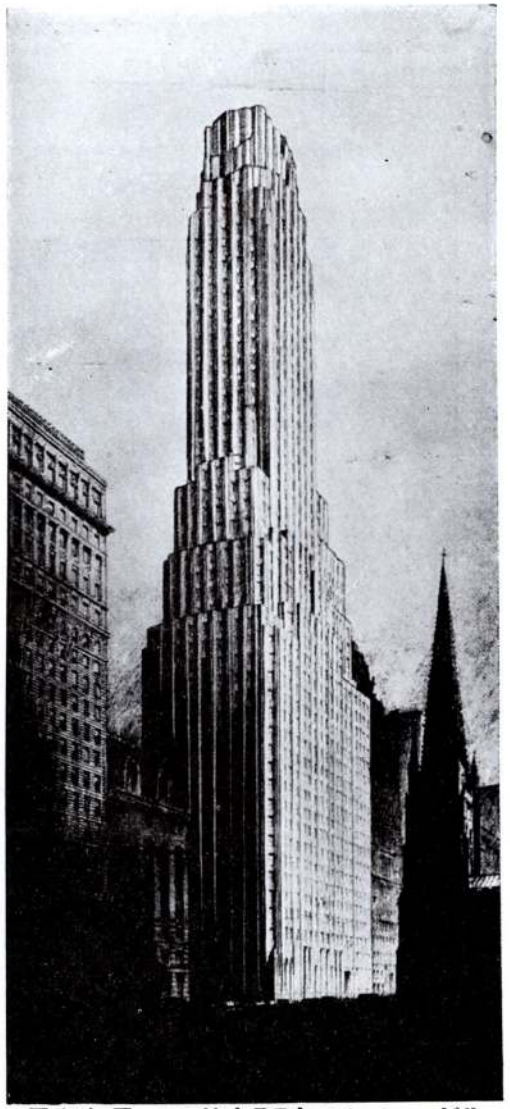
一〇、應募圖案ハ之ヲ還附セス

二、應募圖案發送先ハ左記ノ如クニシテ必ス應募圖案タルコトヲ明記スヘシ

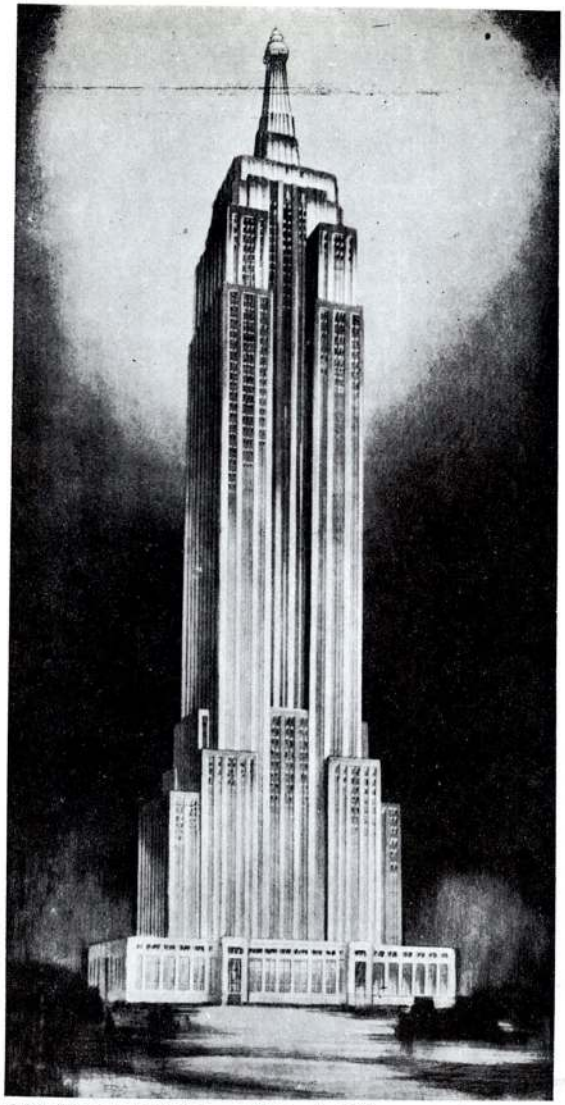
大阪市西區土佐堀通一丁目大同ビル日本建築協會內
香里園改善住宅展覽會係宛



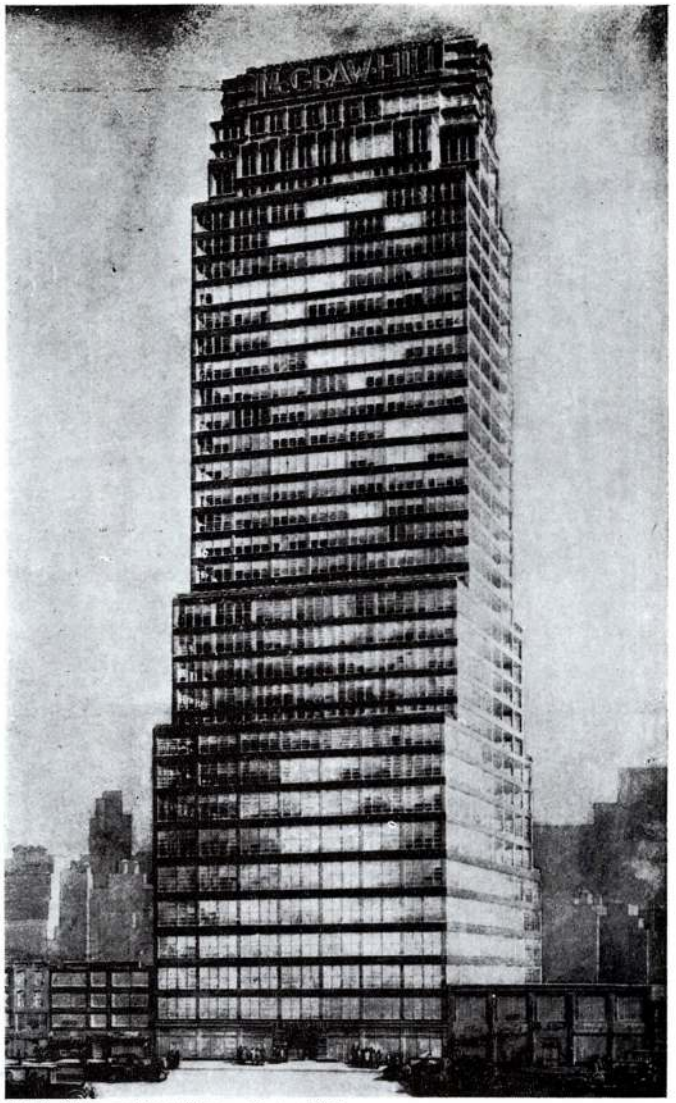
米國 紐育・ニユース・ビル　　ハウエル＋フツド氏設計



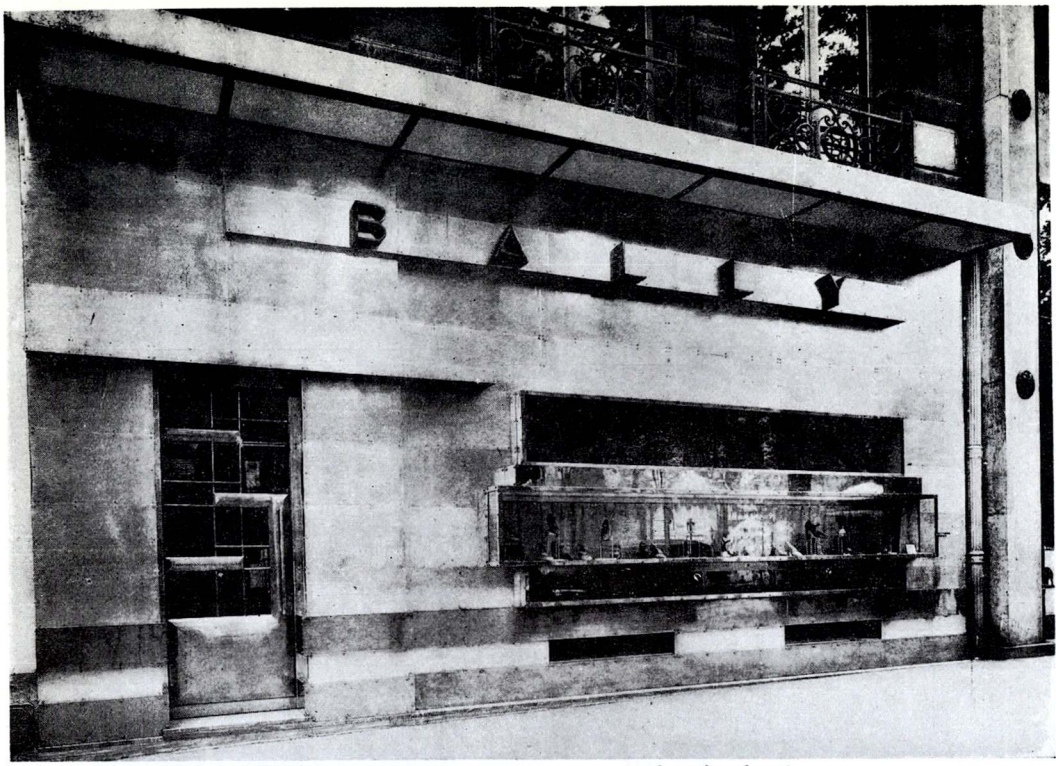
米國 紐育・アーヒング・トラスト・コンパニー・ビル
ヴールヒー＋グメリン＋ウオーカー氏設計



米國 紐育・エムパイヤー・ステート・ビル
アール・エッチ・シュレーブ氏設計



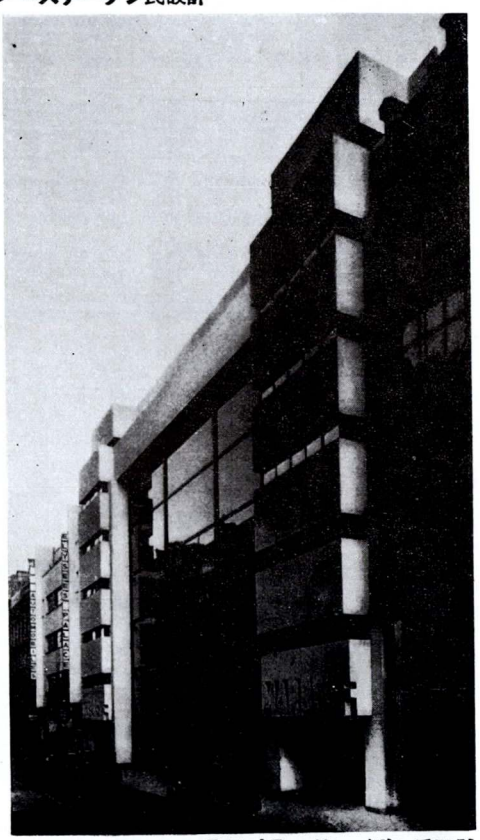
米國 紐育・マックグロー・ヒル・ビル
フット＋ゴッドレー＋フイルフー氏設計



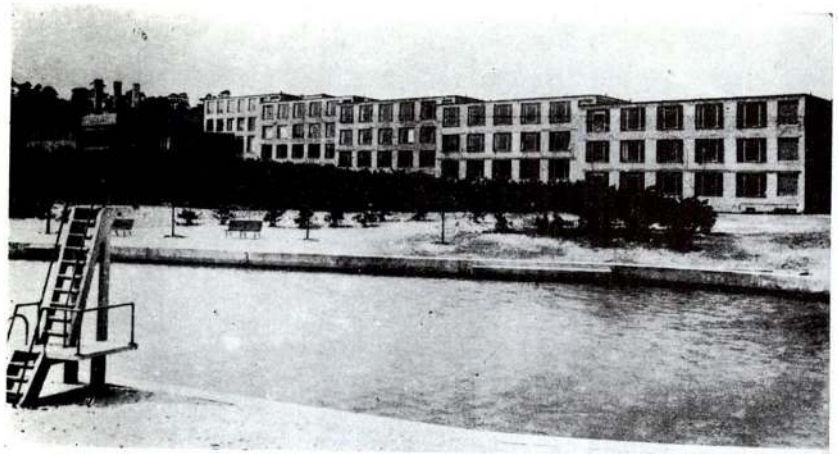
佛國　巴里　マガザン・バリー　マレー・スチーブン氏設計

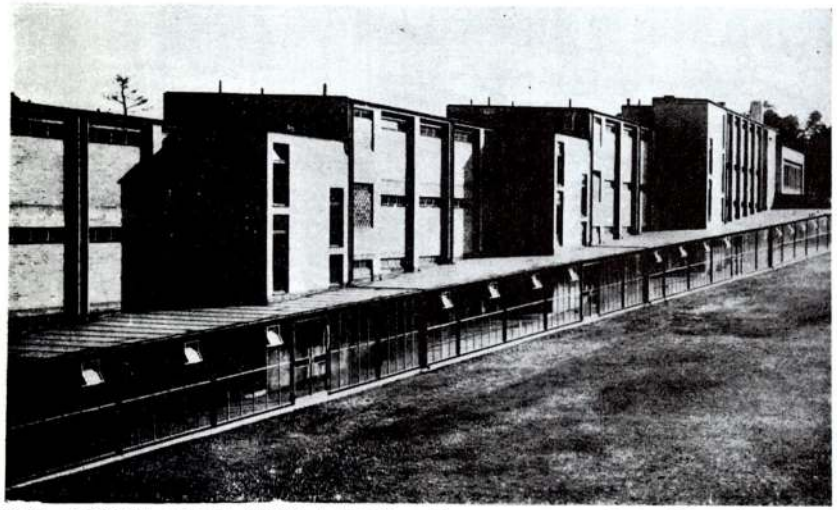


（新興建築譜）　佛國　巴里　マルブウーフ街自働車商

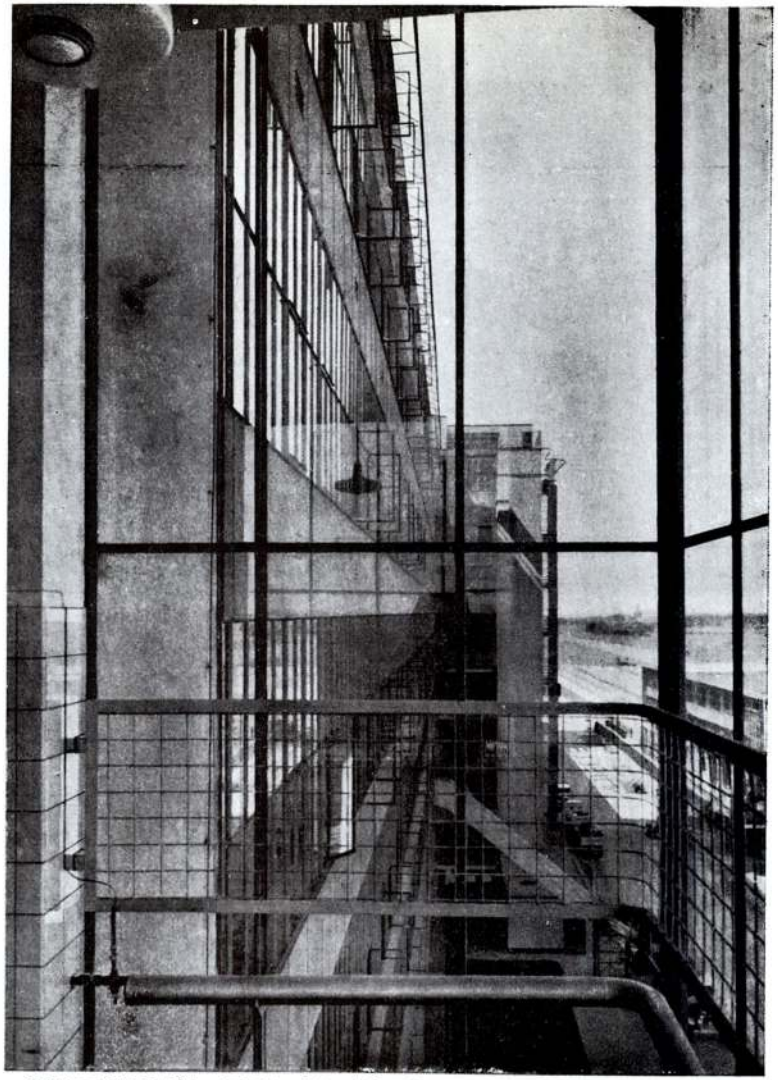


ラツプラード＋バザン氏設計

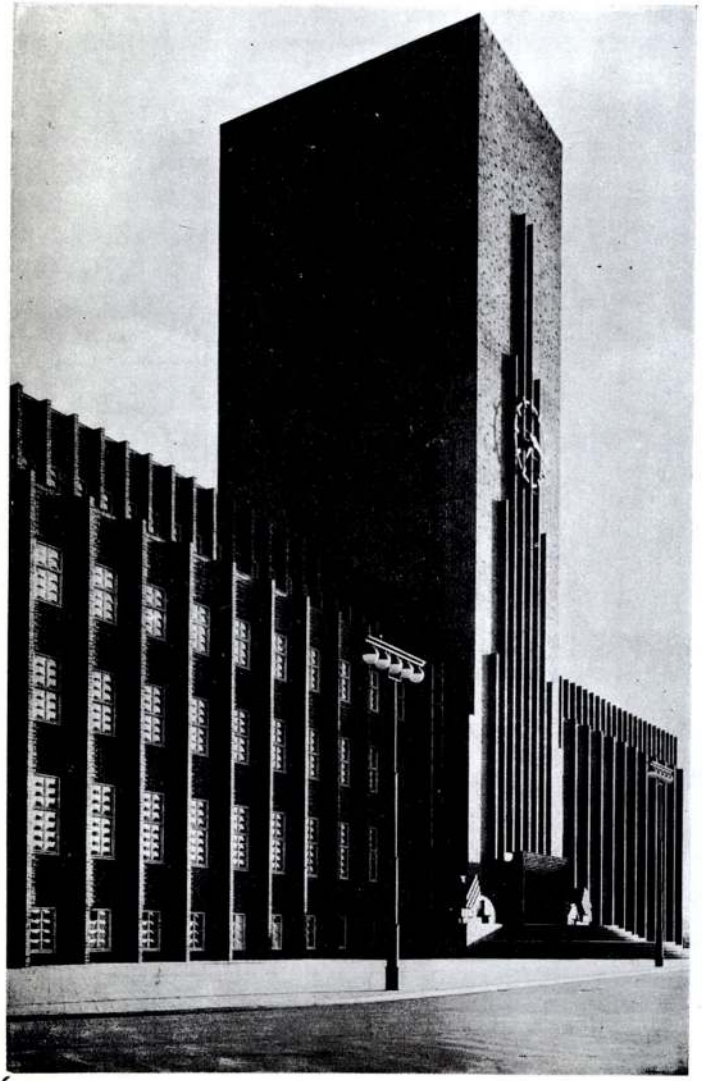




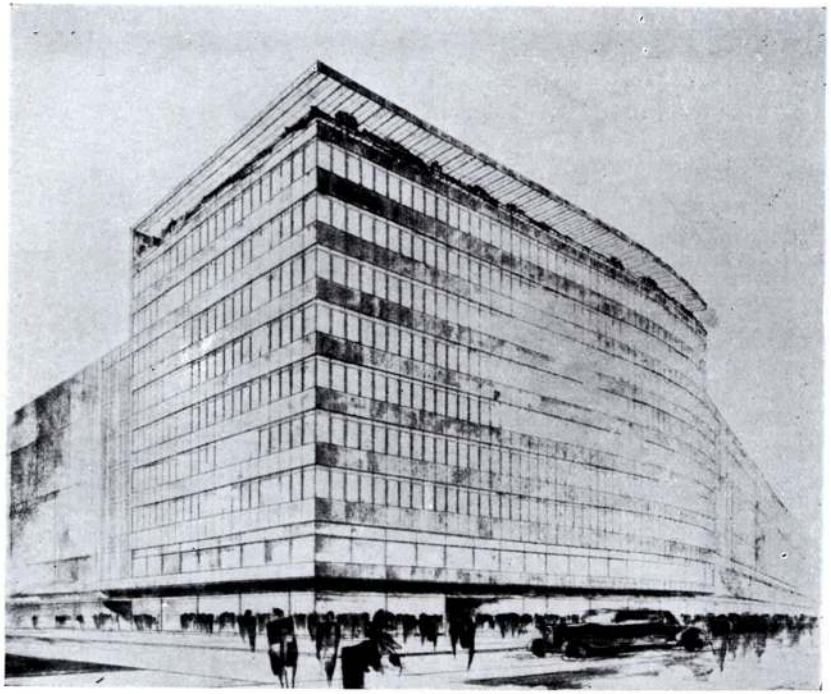
獨逸　伯林郊外ベルナウ 勞働組合學校（上・下）　ハンネスマイヤー氏設計



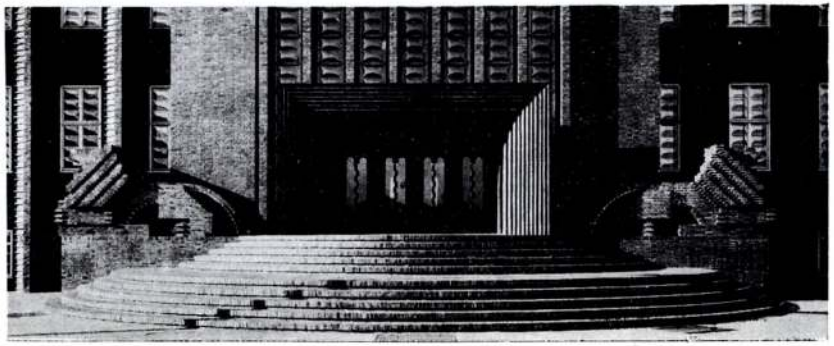
和蘭 ロツテルダム　フアン・ネレブリンクマン＋フアン・デル・フルート氏設計



（新興建築譜）　獨逸　ハンブルグ　リユストリンゲン市役所(左・右下)
フリツツ・ヒユーゲル氏設計

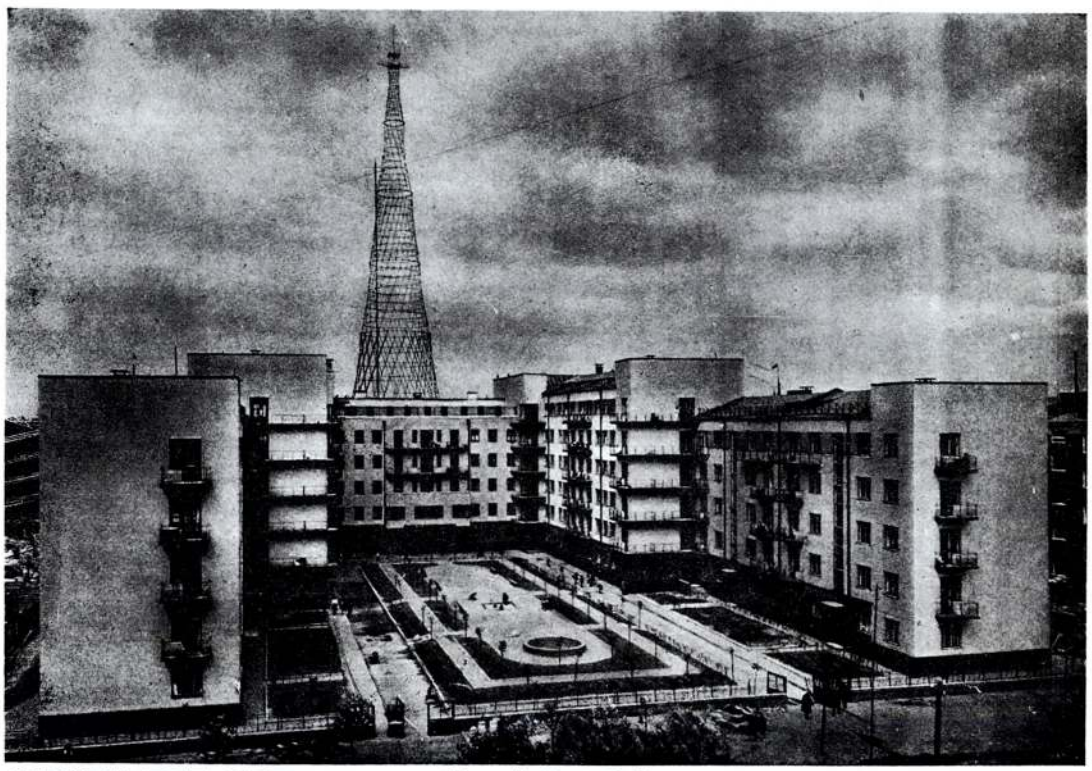


獨逸 伯林ポツツダム廣場　コロンバス・ハウス　メンデルゾーン氏設計





露西亞 モスコー　　共産勞働者組合倶樂部



(新興建築譜) 露西亞 モスコー　　第一共産ハウス

社團法人

日本建築協會々報

住宅委員會第三分科會

時　五月十八日午後五時三十分―同八時
所　ライオン食堂
出席者　魚田、木野山、增山、山田
記事一、模範住宅の平面圖に當はめるべき臺所設備のプランを次回分科會迄に作成することを申合せ、魚田、山田兩委員に其の作成方を依頼せり

法制委員總會

時　五月二十日午後七時―同九時三十分
所　森永キャンデーストアー二階
出席者　幹事　今林　委員　佐藤正、山田、吉田、玉置、石川、浦、佐藤松、酒井、武田、久保田、竹中、松井、松久保
記事一、各分科席を異にして分科會を開きたる後今林幹事座長となり總會に移る
一、先づ元委員林豪藏氏が今回大阪府廳を辭せられ横濱高工教授となられしこと及び新たに吉田信武氏に委員を依囑せしことを報告す
一、各分科の經過報告終り質問、意見の交換等あり、第二分科會に於て昇降機取締規則に關し緊急に研究を始むることを決議せり

住宅委員總會

時　五月二十五日午後五時三十分―同八時
所　ライオン食堂
出席者　委員長　葛野　幹事　淺野、南、小山、小林、樋口、渡邊、岩尾、酒井、中村、丹藤、木野山、末澤、增山
記事一、從來每月一回開催し來りたる總會は今後必要に應じ臨機之を開催することを諒り之を可決す
一、各分科會には各員出來得る限り時間勵行の上御出席ありたきことを委員長より希望ありたり
一、次で各分科の經過報告に移り、各員の意見の交換、並委員長よりの希望等あり懇談の後散會す

住宅委員會第一分科會

時　六月一日午後六時―同九時
所　ライオン食堂
出席者　幹事　淺野　主査　富士岡　委員　佐々木、中山、渡邊、赤松
記事　前回五月四日開會の分科會に於て材料に付天井迄研究を進めしを以て引續き左官工事に至る迄の研究をなしたり

法制委員會第二分科會

時　六月一日午後五時三十分―同九時十分
所　本協會事務室
出席者　幹事　今林　主査　玉置　委員　浦、佐藤(松)、武田、毛利
臨時委員　日本エレベーター製造會社　多田默郎、藤川　保　オーチスエレベーターコムパニー　大阪製鎖所　木村　菊川　三郎
記事一、今林幹事座長となり開會を宣し今回昇降機取締規則を當分科會に於て研究を始むるに至りたる經過を報告し且各會社より專門家の御出席を願ひたるを謝し直に第一章より逐條審議に移り、本夕は其の第一章を終りたり

法制委員會第一分科會

時　六月二日午後五時三十分―同九時三十分
所　本協會事務室
出席者　主査　鳥井　委員　椎原、山田、加藤
記事一、鳥井主査より前回迄の經過報告をなし次回の研究問題に付左記の通決議す
(一)工業地域内特別地區設置の件
(二)都市の下水問題

法制第二分科會

時　六月五日午後五時三十分―同十時
所　本協會事務室
出席者　幹事　今林　主査　玉置　委員　石川、浦、小川、毛利
臨時委員　日本エレベーター　多田　オーチスエレベーター　菊川　大阪製鎖所　木村
記事一、前回に引續き第二章構造設備より研究を始めたり、構造設備に關しては製造業者側にも種々なる希望、意見多く、本夕は第二十二條を終りたり

住宅委員會第二分科會

時　六月八日午後六時―同九時
所　ライオン食堂
出席者　主査　酒井　委員　岩崎、小林　中村、丹藤
記事一、氣象年報に關し調査をなす
一、大日本氣象學會より全國氣象年報(昭和三年分)を購入すること
一、各地氣象年報に付各員分擔して次回迄に研究することゝす

災害强度委員會

時　六月九日午後六時―同九時三十分
所　住友倶樂部二階談話室
出席者　委員長　增田　幹事　大野、古川　委員　佐野、堀田、大西、篠原
記事一、電弧鎔接に關し各員意見の交換をなす
一、鎔接に關する見學をなすことを申合せ大西委員の都合を待つことゝす

法制委員會第二分科會

時　六月十五日午後九時三十分―同九時三十分
所　本協會事務室
出席者　幹事　和田　主査　玉置　委員　佐藤、武田　日本エレベーター　多田　オーチスエレベーター　菊川　大阪製鎖所　小島
記事一、昇降機取締規則に關し引續き逐條審議をなし本夕を以て大體の修正案を得たるを以て尙今一回會合を重ね、二三保留の點等に付研究することを申合せたり

住宅委員會第三分科會

時　六月十五日午後六時―同九時
所　ライオン食堂
出席者　魚田、木野山、增山、山田、鈴木
記事一、增山委員座長となり當委員會第一分科に於て作成の平面圖第一案及第二案間取圖に對しての臺所設備圖（山田委員作成のもの）に付研究協議の上修正を加へ成案を得たり
右は山田委員の手許に於て淨書の上青寫眞となし總會に提出することゝせり

法制委員總會

時　六月十七日午後七時十分―同九時二十分
所　森永キヤンデーストーア二階
出席者　委員長　池田實
第一分科　池田、加藤、椎原、山田
第二分科　石川、佐藤（松）、武田
第三分科　楠瀨、竹中、松久保
記事一、例に依り各分科委員より分科會の經過報告をなす（各分科會記事參照）
一、右に關し委員長より種々質問並に希望等あり、當委員會の總會及び分科會の定例日變更に付協議し左の通變更せり
第一分科……每月第一火曜日（從前通）
第二分科……每月第二火曜日（從前通）
第三分科……每月第三水曜日
委員總會……每月第四水曜日

資料委員會

時　六月十八日午後六時―同八時
所　ライオン食堂
出席者　第二分科　山田、高岡
第四分科　山中、城口、須賀
記事一、第二分科は前回に引續き疊、莫蓙及其の附屬材料の見本に付研究を進めたり
一、第四分科は衛生器具の圖面に依り引續き研究を進めたり

轉勤轉居

會　員

平尾小三郎君　兵庫縣川邊郡小田村今福
太田一七（東洋紡績株式會社神崎工場）
中村源太郎君　兵庫縣武庫郡大庄村西東ノ口三八
佐藤清八君　中河內高井田村字森河內舊川北社宅
杉浦喜三郎君　東淀川區十三西ノ町一ノ二二二（大阪驛構內官有地阪急第三期工事竹中工務店出張所）
前內文二郎君　東淀川區本庄西通一ノ二四
八尾良藏君　住吉區住吉町一〇二五
福田勇雄君　兵庫縣武庫郡鳴尾村濱甲子園健康住宅地內
平井英一君　神戸市熊野町二丁目三一
會　員（地方在住）
林豪藏君　東京府下大井町庚塚四七
三一（橫濱高等高業學校教授）
阪口正雄君　三重縣三重郡富洲原町東洋紡績株式會社富田工場
森正藏君　鹿兒島市池ノ上町八
普通贊助員
德光久次郎君　西淀川區姬島町中通三丁目一三三
大野竹一君　東京市牛込區矢來町二九
古谷氏方
阪本敏克君　愛媛縣今治市黃金通清岡氏方
伴仲信次君　西淀川區御幣島町三一一（村上徹一建築事務所）
瀧川榮亮君　西宮市常盤町九
前田佐太郎君　府下三島郡千里村字天道二三七七
折田義雄君　神戸市德井町字前內九
石川清一君（舊姓緒方）　山口縣厚狹郡厚狹町大字鴨ノ庄第五一九番地（日本火藥製造株式會社厚狹作業所）

逝去



會員下浦光衛氏昭和六年五月二十九日逝去さる、茲に謹んで照肖と略歷とを掲げて哀悼の意を表す

故下浦光衛氏略歷

明治二十一年八月二十三日　德島縣名西郡神領村に生る
明治四十二年三月　德島縣立德島工業學校卒業直ちに京都高島屋の建築技手となり次で東京高島屋に轉ず
大正四年五月　竹中工務店に入店
主なる施工建築
夙川廣岡惠三氏邸
大阪高島屋
大同ビルデイング
大正十一年一月　日本建築協會へ入會す
大正十四年九月　外遊翌三月歸朝後關西學院
昭和三年十二月二十二日　日本建築協會評議員に當選同五年十月二十七日任期滿了退任
昭和四年末より靜養中なりしも遂に起たず昭和六年五月二十九日死去

寄贈雜誌

建築雜誌　每號　建築學會
日本建築士　每號　其　會
建築世界　每號　其　社
建築新潮　每號　洪洋　社
建築學研究　每號　其　會
建築畫報　每號　其　社
建築　每號　中央建築會
住宅　每號　住宅改良會
インターナショナル建築　每號　其　會
滿洲建築協會雜誌　每號　其　協會
新建築　每號　其　社
朝鮮と建築　每號　朝鮮建築會
國際建築　每號　其　社
土木建築　每號　其　社
土木建築材料商報　每號　其　社
土木建築工事畫報　每號　其　社
臺灣建築會誌　每號　其　社

都人　每號　其社
大阪工業倶樂部　每號　其社
建築業協會々報　每號　其協會
東京土木建築業組合報　其組合
大阪土木建築業組合報　每號　其組合
庭園と風景　每號　日本庭園協會
日刊工業新聞　每號　其社
東洋建材時報　每號　其會
名古屋工業會々報　每號　其社
日本建材新聞　每號　其社
木材彙報　每號　大阪木材協會
木材新聞　每號　關西木材商報社
工業評論　每號　其社
工業　每號　大阪工業會
工業要錄　每號　其發行所
大阪　每號　大阪都市協會
都市問題　每號　東京市政調査會
學士會月報　每號　學士會
工政　每號　其會
國立公園　每號　其社
關西園藝　每號　其社
塗料　每號　日本ペイント株式會社
塗工の魁　每號　其社
鍍工　每號　其會
電氣學會雜誌　每號　其會
超科學　每號　大阪網島工業會
電氣評論　每號　其社
帝國鐵道協會報　每號　其會
朝鮮鐵道協會會誌　每號　其協會
鐵道軌道經營資料　每號　鐵道同志會
趣味の園藝　每號　關西園藝會
每號　日本ポートランドセメント同業會
セメント界彙報

エンヂニヤリング　每號　其社
經濟資料　每號　東亞經濟調査局
通俗衛生　每號　大阪府衛生會
京都の實業　每號　京都商工會議所
都市創作　每號　其會
產業　每號　其會
日本美術協會報告　每號　其社

役員

會長	理事 評議員	片岡安
副會長	理事 評議員	古宇田實
副會長	理事 評議員	日高胖
監事		波江悌夫
監事		光安梶之助
常務(主記)評議員		小川陽吉
常務(主記)評議員		小川安一郎
常務(主記)評議員		阪井米吉
常務(主記)評議員		松本儀八
常務、主記)評議員		森本藤吉
常務(主計)評議員		大原芳知
常務(主計)評議員		岡部顯則
常務(主計)評議員		德政金吾
常務(編輯)評議員		小西一眞
常務(編輯)評議員		高橋榮治
常務(編輯)評議員		本間乙彦
常務(編輯)評議員		村野藤吾
評議員		池田實
評議員		岩尾保術
評議員		岡本新次郎
評議員		籠田定憲
評議員		久保田筆雄
評議員		酒井勇三郎
評議員		芝田知重
評議員		須川廉太郎
評議員		武田經一
評議員		永田三次郎
評議員		前內文二郎
評議員		村上徹一
評議員		山田頃平
評議員		山中茂一
評議員		伊東宗太郎
評議員		小笠原銅
評議員		加藤誠二
評議員		木村寬一
評議員		小寺彌一
評議員		白石登喜男
評議員		篠原太郎
評議員		須藤隼人
評議員		高田利一郎
評議員		原科準平
評議員		三木來三
評議員		八木幸次郎
評議員		山田初次
評議員		渡部圭吾

委員

法制委員會

委員長 池田實
幹事 今林彦太郎
幹事 古塚正治
幹事 和田貞治郎

第一分科(都市計畫に關する事項)

委員 池田唯一
委員 加藤善吉
委員 北垣熊之介
委員 佐藤正次郎
委員 島田良譯
委員 椎原兵市
委員 鳥井信
委員 永田三次郎
委員 野呂長四郎
委員 山田頃平
委員 吉田信武

第二科分科(建築法規に關する事項)

委員 石川寬三
委員 浦英之助
委員 小川久市
委員 梶垣寬
委員 工藤榮治郎
委員 久保田廉
委員 佐藤松太郎
委員 作間日出生
委員 酒井藤一郎
委員 武田經一
委員 高木眞太郎
委員 玉置豐治郎
委員 毛利泰三
委員 矢木英夫
委員 杜貞雄

第三分科(時事問題に關する事項)

委員 久保田筆雄
委員 楠瀨澈
委員 篠原清孝
委員 竹中景一
委員 津田敏雄
委員 高田利一郎
委員 牧野忠
委員 樋口辰太郎
委員 松井清之助
委員 松久保敬三
委員 八木幸次郎

教化委員會

委員長 小笠原銅
幹事 池田谷久吉
幹事 姫野武

委員 岡本新次郎
委員 木村寬一
委員 澁谷五郎
委員 山本春水

資料委員會

委員長 野村一郎
幹事 須川廉太郎
幹事 三木來三

第一分科(石材、セメント、防水布類其他)

委員 大澤幸平

第二分科(木材、人造板材、疊其他)

委員 高岡與三吉

第三分科(ペイント類、硝子、鐵其他)

委員 谷隆夫

第四分科(衞生器具類、煖房其他)

委員 伊東宗太郎

災害强度委員會

委員長 增田清
幹事 大野直平
幹事 古川豐

第一分科(强度計算に關する事項)

委員 大野直平
委員 加藤善吉
委員 關場茂樹
委員 永澤毅一
委員 增田清
委員 山本久吉

第二分科(災害に關する事項)

委員 青柳貞世

委員 白石登喜男
委員 田中村源太郎
委員 山田初次
委員 吉田實
委員 水原大造
委員 山本勝
委員 秋田喜代治

委員 大西良一
委員 岡田初太郎
委員 芝田知重
委員 藤枝良一

住宅委員會

委員長 葛野壯一郎
幹事 淺野金藏
幹事 南信

第一分科(平面、外觀、構造、材料等に關する事項、實行の促進に關する事項)

委員 黑田茂
委員 篠原太郎
委員 古川豐
委員 渡部圭吾

委員 淺野金藏
委員 伊藤正文
委員 小林武夫
委員 早良俊夫
委員 中山榮太郎
委員 樋口辰太郎
委員 渡邊金藏

第二分科(採光、通風、煖房、衞生等に關する事項)

委員 岩崎勇
委員 小林三造
委員 中村源太郎
委員 南信

第三分科(設備、裝飾等に關する事項)

委員 魚田常治
委員 末澤周次
委員 增山新平

委員 川口一二
委員 塘路惣吉
委員 中島智喜
委員 三浦尙史

委員 赤松修
委員 小山源次郎
委員 佐々木莊一
委員 篠崎彙二
委員 富士岡重一
委員 山脇友三郎

委員 木野山照雄
委員 鈴木總作
委員 山田昭



大 阪 • 水 邊 風 景 （東横堀川）

建築と社會新興建築號

昭和六年七月發行　第十四輯第七號

目次

口繪・新興建築譜……(一)
卷頭插畫・水邊風景(大阪東横堀川)……片岡安……(九)
新興建築に就いて……前田松韻……(一一)
現代の日本建築……岸田日出刀……(一四)
新興建築時感……八洋生……(一五)
このアナクロニズム……S O生……(二一)
日本に於ける新興建築……モトノ・セイゴ……(二三)
建築姿態の根本觀念……山田守……(二四)
新興建築問題中の或ものに就いて……伊藤正文……(二六)
新興建築概說……村野藤吾……(三三)
商業價値の限界……葛野壯一郎……(三五)
新興建築材料としてのアルミニユーム……(上)……(三七)
フリツツ・ヘーゲル氏の近作……(三九)
新興建築座談會……渡部圭吾……(五三)
建築工事の計劃と實施……(2)……佐藤武夫……(五七)
都市・建築・音響……(10)……中野勉……(七一)
新刊紹介……關塲茂樹(特附六三)
電弧鎔接仕樣書準備案……關塲茂樹(特附六八)
電弧鎔接並瓦斯切斷仕樣準備案……(附三三)
國際新建築集……(附四一)
京阪神新建築集……(附一五)
全日本新建築紹介……

新興建築に就いて

工學博士 片岡安

新興建築とは何を意味するか、恐らく人々それぞれその解釋を異にするであらう。或人は最近の『インターナショナル』式の獨立派を意味するかも知れぬ、或は最近の『アメリカ』に於ける高層建築の移入を考へるものもあらう、要するに最近我國に於て日新しく感ずるものを以て、新興建築と總稱する如くにも思はれる。若しそうとすれば余輩のこゝに言はんとする新興建築は全然意味を異にするのである。我國に於て過去五十年間國際關係に於てその必要上歐米の建築樣式を採り入れ、石造或は木造の新しき建築を盛んに造り上げたのであるが、何れも我國の文化が生んだものでなく、徒らに他國の樣式を摸倣したものであつた。固よりその意匠に於て又實用に於て相當に深き研究を積み、可なり洗練されたものもあるが、その根本に於て歐洲文明の移入であつて我國の文化に根ざしたものでなかつただけは確かである。これ即ち伊東博士の所謂我國に於ける建築の暗黑時代である所以である。丁度近代文明が生るるその前提として中古時代の暗黑時代が相當期間連續し、その間に各種の方面に革新の氣運が熟成し、一擧に近代文明が現はれて來たと同樣に、我國の建築も今や永き暗黑時代を經て、その間、各方面に革新の氣分は漲りつゝ具さに黎明期に到達したのではないかと思はしめる幾多の證左が現はれて來たのである。言ひ換ふれば新興建築の氣運鬱勃として起り、眞實に我國の文化に根ざしたるその雄姿を現はさんとするようになつたのである。

過去半世紀を顧るに、我國の建築界は歐米の移入に其重心を置いたことは事實であるが、今その是非を批判するの要もなく、又その沿革や模倣の順序を詳にするの必要もない。唯我建築界は、何時までもそれで滿足するものでなかつたことを知れば十分である。明治時代より大正年間に入り、我建築界の有力者特に少壯の建築家の間に從來の摸倣主義打破の一大氣運が起り、希臘、羅馬時代の古典式或は近世復興式に建築樣式の範例を見出さんとする多數の建築技術家にその反省を促すのみならず、進んで獨、墺諸國の最新傾向たる『セセッション』式の推賞をもなし、或は更に我國獨特の獨創樣式の急要なるを唱へたのである。而して、その運動は理論的に甚だ根強き根據があつたから、少壯建築家のみならず、有力なる教授及經驗ある老大家の間にも支持されて漸次有力となつて來たのである。然しながら、其主張は大體に於て一致するに過ぎずして、さて其說くところの部分に就て之を見れば可なり大なる距りがあると同時に實現性に乏しき理想、或は抽象論に走るの嫌が濃厚であつた。

そもそも、建築は大體に於て實用性を基礎とするものなるに拘らず、その實用は二次的のものであつて、建築本來の使命ではないから其の意匠には全然藝術的表現を中心とすべしと說くものもあれば構造そのものを最も明確に表現することが建築美である、從來の傳統的樣式を追ふことは全く無意味なりとする論者があり、或は建築はその機能を最も完全に發揮することそれ自身が眞實の建築樣式であると說き、それ等の間に可なり大きな相違があると同時に、國民の固有藝術或は傳統的の趣味に餘り重きを置かざるやの嫌があつた。斯の如く我國の建築界は西洋各國に培はれて來た樣式をその儘に採り入れることを以て滿足せざるようになつて來たけれども、其半面に我國固有の藝術を如何にして現代の建築に織込まんとするやに就ては、未だ何等確固たる方針

を見出さないのである。新興建築勃興の氣運は熟成したとは言へ、眞實の新興建築は未だ其形態を現はさず、所謂黎明期に於ける彷彿低迷の狀況である。

然らば眞實の新興建築とは如何なるものであるか、之を豫想し、之を期待すること必ずしも難事ではない。先づ以て現代の構造技術が大體の形態を支配し、壁體内外の被覆材料の變遷と實用の要求と相待ち、其實體を形成することは言ふまでもない。而して建築の外觀樣式は東洋趣味を基調とするものであり、内容の意匠も亦其外觀の樣式と調和を保つものであることを基礎的條件とする。最近十年間、新興建築勃興の氣運と共に各種の建築に試みられたる新しき樣式なるものは、何れも設計者の貴重なる努力の結果ではあるが、吾人の期待に添ふものは甚だ稀である。甚だしきはその期待を裏切るのみならず、我國民性を超越し且つ一切の過去文化を無視し、全然獨立の樣式に生きんとするものもある。建築の樣式は摸倣に墮落することを排斥せねばならぬが、同時に偏狹、突飛なる主觀的獨創は又時代の建築樣式をなし得ざることを知らねばならぬ。況してや我國に實例少きの故を以て、歐米の地に於ける新しき試みを摸倣して自からの獨創なるかの如き態度を誇る擬建築家の現はるゝことは、新興建築勃興の氣運を阻害する虞がある。新しきもの、或は變つたもの即ち新興建築なりと考ふるものに至つては到底之を評論することは出來ぬ、西洋各國の藝術の過去帳を繰り返し、その摸倣移入をなすものと何等擇ぶところなきのみならず、寧ろそれよりも甚しく劣れるを覺ゆる。

最近新興建築勃興の氣運を最も良く指導せんとする方法は、何と言つても懸賞による設計公募であることは否定出來ない。之を批難するものは、或は審査員の批判力を疑ひ、或は審査の方針及方法を不十分なりとするけれども、その方針や方法は今後十分に改訂し得ることであり、又審査員の撰定も漸次變更出來るのであるから、多少の批難はあつても、懸賞による設計公募はたしかに新興建築の勃興を正しく導くものであると考へられる。唯最近實行されたる四五の大建築物の設計に際し、懸賞の結果、その當選案が孰れも期待に添ふものであつたかどうかといふ點に至つては、吾人も相當に異見を有つのであるが、我國の現代文化に即したる眞實の建築樣式を生み出さんとする難問題であるから僅かに數回の懸賞の結果に依つて直ちに適切なるものを得んとするは餘りに性急な考方ではないかと思はれる。敢て審査の辯護をなす意味ではないが最近の審査の方針は、むしろ等級に重きを置かず、集まれる多くの圖案中より佳良なる設計は成るべく多く之を選入せしめ、それ等の考案の長所を廣く公表せんとするように努めて居るのであるから、最近僅かに數回の懸賞により、已に可なり多數の圖案が斯界に展開され、專門家はもとより、一般民衆の新興建築觀に多大なる進展を與へたのである。吾人は必ずしも懸賞萬能論を唱ふるも ではなく、又現時盛んに行はれる懸賞の手段にも多少の異見を有するものであるが、唯徒らに西洋の新しきものを摸倣して獨創と稱したり、或は建築を流行物の如く取扱はんとする新しがり家の無責任なる行動よりは、懸賞の方法により、廣く公平に多數の考案を採りそれ等を十分に比較審査して、その長所を發表することを喜ぶものである。

要するに眞實の新興建築勃興の氣運は正さに熟成し、漸次その實現期に近づくを覺ゆるのであるが建築家たるものは、此の重大時機に臨み、徒らに輕擧妄動自からの快を貪るが如きことを愼み、現代の我建築界の總能力を綜合して、一日も早く我國の建築樣式を完成すべく努力せねばならぬのである。（了）

現代の日本建築

工學博士 前田松韻

今少時く吾等の祖先の爲したる藝術のあるものを顧みやう。何れの場合に於ても其の生活を基底として作られたる品物の適當に處理されたることを見るのである。先史、原史時代に於ける繩文、直弧文、及一種の唐草のうまみのある、奈良、飛鳥時代の外國輸入の佛殿、及服裝に於てある日本味を表せる優雅なる形、殊に奈良時代の婦人通常服が實用に於て、形體に於て洗練されたる性質のあるのは、現代婦人服改良のあるものを暗示して居らぬであろうか。

平安朝の住宅、阿彌陀堂、草假名、和歌は當時の生活より生れて高雅なる精神を發見するのである。固より限られたる階級の、餘り平和すぎる狀態の爲め、一面遊樂的ではあつたが、而もよりよき自然物の愛好と、宗教生活の多き傾との中より、彼等に內在する好學と道義と懇弱の美はしき精神のもとに、表はされたる形は健かである。鎌倉時代に於て、特に多くの繪卷物には、當時の生活と密接の關係の存するものがある。法然上人、一遍上人の繪卷は、當時が要求せし民衆宗教生活より造り上げられ、其の作品の明晰にして、繪自身の物語れる表れには、多くの廣さと、深さを發見するのである。

室町末、桃山、及江戶初期の茶室と庭は、何れも大自然より出でて、而も禪的主觀により統一構成され、人間の作れる一大出現物たるは言をまたぬ。江戶時代の住宅と錦繪は一般民衆の生活其自身に要する藝術として表はれ、而も其の各方面の考慮より爲されたる全體と、部局的の要點を獲取して構成されたるは、其の時代と作品を對照して、優れたるものと云はなければならぬ。

此等は其僅少なる數例に過ぎないのであるが、よく此の國土と夫々の時代にピツタリ合致し、特に吾國民性の一である自然物愛好の內にありて、而も必ずしも、所謂自然主義では無くして、一定の精神のもとに、ネジレたる傾は無かつたとが、作品に表されて居る。

現代日本文化の對象は歐洲文化である。天平時代に於ける唐の文化との關係とよく似て居るが、異れる點は、現代は過去に於て別種ではあるが、ある優れたる文化を有せる歷史のあることである。爰に於て吾人は歐洲文化の精華に常に伍すると同時に、吾國獨特文化の優點を忘れずに、之を發揮して、同時に世界の人類にある範を示さねばならぬ。即ち世界の文化に貢獻せねばならぬ。

近世歐洲の十九世紀に於ける世態の變化、其の中にも建築、繪畫彫刻等の移り變りは可成激しきものであつたが、殊に其末即西曆千八百九十年以後よりしては、新說特に多く其の實行も影響も各國に存するものが多いのであつて、現今新興建築、又は彫刻、繪畫と稱するものは、此の系統のものを意味するのは言をまたぬ。

此等の說を言ふ人々は眞面目であり、其の說は多くの眞理を含み、現代を基調として、其の生活の上に建つものを要求し、而して實行しつゝあるのである。然れども其の表れたる作品は大なる過渡的性質を有して居ることだけは明かである。また其の變遷の早いだけ、それだけ未だ完成せるものでは無い。

此の點に於て、吾國に之を採ることに於ては、充分眞意を知りて解せねばならぬ。即ち誤りを來たさぬ樣、採取することによりて、吾國の文化の進步を助くるものとして、大なるものがあろう。

此の國土の有せる條件に合致し國民を眞、善、美の向上に導き、以て現代日本文化を代表するあるものがほしい。此の國土に相應し

く完成せるものは自ら世界獨特の形體を有することになるとは明らかであつて、此の國土に幸福なる適したるもの其れ自身の完成に進むことは、やがて世界人類の幸福である。吾人の先祖がより其の生活の基調に合致したる作品を爲したるが如く、現代にもあるものがほしい。

現代の說の中にて機械的産業の方向と同樣に、建築の機械化と稱することがあるが、此は一面理由のあることである。然るに『住宅は住む所の機械である』以下同樣の解釋を有せる人が中にはあるやうであるが、此は恐るべき誤解であつて、斯の如き純唯物觀は當然消滅するのである。また歐、米等の新說者に斯の如きものを單一に固守して居る人は無い。そこに前後の文章の關係を抜きにしてはならない。此の關係は次の式によりて示されやう。

1＋1＝2……機械
1＋1＋α＝2＋β……建築

αよりβに變るには、人間に計量のできないある要素が建築の平面なり、形體なりに含んで居つて、之がまた重要なる性質である。機械の考案に於てさえ尙之のα、βの關係は存して居ることも云はれる。

傳統の破壞……此れは要するに惡しき傳統の消去を意味するものであつて、言語を強調する目的と反動的意志に於て事實革命的の手段を用ひたことは、歐洲の過去の例に於て固より數回共例を見る。世の變化と共にこゝに惡しき傳統の多く來れるは言ふまでも無いが今一度此の傳統を見返へすときはそこにまた偉大なる眞理を發見し反て世の發達を助くるもの多いのである。惡しき傳統を除去する考へと同時に傳統を研究、考察する必要がある。

偶然であるか、また有意であるかは知らないが、現代の歐、米新興建築、尙共の他繪畫、彫刻の新說及作品中には、哲學的形體の性質に於て、また技工的手法に於ても、吾國の建築、住宅及繪畫、彫刻の眞髓に合致せるものが多い。形體の單純化、有効なる線と面を用ひ、色彩の手法のあるもの、自然を主觀に見て之を客觀的主觀に表すこと、尙又空氣と光線の採取の方法、庭園の如きがそうである。此の現象は眞理のあるとである。吾國民が傳統せし形體、內容、また諸種の風俗に於てもそうである。例へば日本婦人服は實用に於て到底現代に適せないのであるが他方面に於て形體、一種の裁ち形、と仕立換へ等の經濟的優點も存するは、見逃すべからざるところであつて、此れは實用を最も主として、吾國人の有せし形體と裁縫の手法の、ある獨特の長所を加味せねばなるまい。住宅に於て同樣の多くのものを發見するがこゝには之を述べない。

單純化……現代を通じて動く大なる要素であるが、此は最も健全なる主張である。但し單純化と粗惡とを混同してはならない。單純にして健全なる內容を有せねばならない。原始人の有せる單純は明晰であり、人類の直覺的の情を示し、地方の田舍に表れたる單純は靜さと滋味を有し考古的の情を起さしむる。此れは少くとも善良の性質であるが、都會人の趣味はそこに精練されたるある情の働きがある。吾國子弟が小學校、中、女學校に於て自由畫、音樂、體操、觀賞の諸課目、文學、乃至詩、歌、花、茶を教養されつゝあるのは高雅なる品性を陶冶さるゝ目的であつて、此等の民衆教育化されたのは十九世紀末より現代に通ぜる一つの特徴であつて一方科學的研究と同時に一般の人類の必要と考へられしは現代文化の要素である。

單純化が此の意味に於て精練されたる趣味の上に建たなければ、其れは一般の生活と相容れないものになる。

裝飾物の附加禁忌……は最も新しき系統の說殊に大戰後のある傾向を含む一派に稱せられて居る。此の主張が假りに實際普及したならば、世は恐ろしきものになるであろう。人類の本質より背馳したものである。一定の適當なる裝飾は人類の生活が要する主なるものである。原始人の作品を見ても明であるが如く、人としての附加裝飾藝術の表れが常に見らるゝのである。而も一般民衆の教養の標準に對しても、自らそこにあるもの

が無くては生活の悲哀を感ずることになるであらう。たゞ其の量に於て質に於て充分なる考慮を用ひなければならない。

同時に全部此の種の裝飾物を用ひず、均衡と色彩と統一を以て、純主觀的の形體を構成し、そこに最も高雅なる表現を得ることは美はしき一つの體であると言ふことが出來得るが、而も一般に裝飾物を附くる事を絶體禁忌すると云ふ法はない。

例へば高臺寺の傘亭、時雨亭は其の無造作なる如く見ゆる內に、靜寂と強勁なる感を與ふる利久其れ自身を思はしむる已ならず（利久の作か否やは必ずしも明かならねども）大德寺の僧侶珠光のある俤さへ浮び出だされゝのである。更に大德寺孤蓬庵を見るときは、そこに靜寂と強勁の內に、より優雅なる分子を多く見出されゝのである。前者は自然の內にありて主觀を以て構成し、後者は此の主觀を當時の社會に應じて客觀化し、斯て寂さと勁さの中に優しきある分子が加はつたのであつて、茶道と茶室はより多く普及したと見ることが出來る。庭園に於ても室町末に於ける禪味多い石組、若くは桃山時代の朝霧風の強き組立が、そこにより多く溫雅なる手法により再成されて、より多く普遍的性質を有し、こゝに江戶時代の住宅と庭園の樣式三百年間の根柢を造つた。小堀遠州の天才は此等に與つて最も力あるものと言へやう。

傘亭、時雨亭はより個性のあつただけ、萬人好みのせないのであるが、其れ自身の有せる本質は、茶道よりして、最も高雅なるものであることは言をまたぬ。此の例は最も多く近世純主觀的建築のあるものを說明せられて居る。

歐洲最近の新興建築家は何れも美術要素を決して度外せず、常に之を重視し、寧ろ純眞なる基礎に立つものを求めて居るが、一八九〇年以後の急激なる變化は、眼玉の轉々として變れる樣であつて、而も其の各派の潮流が常に吾國に來つて居る。此れは一つに精神的統一の無き爲めであつて、吾國に於ては、之を國土の神に求めたい。たとへ神社の形式に之を求めずとも、たゞ念念、常に神を思ひさえすればよいのである。

古歌がある。

なにごとの、おはしますかは、
しらねども、かたじけなさに、
なみだこぼるゝ。

これだけで理屈を考ふる必要は無い。各種夫々の信仰と共に吾國民は之を念じて居れば、そこにあるものを得て、自然に表はるゝ處がある。此の心を保ちつゝ歐洲の建築に、風俗に諸般の事項に入りて攻究採取し、行つたならば、轉々として變ずる、彼の急激なる諸態に對して、また誤ることも少いであろう。

合法的合目的に構成しつゝ、之を統一して一形とまとめる人間の情の貴重なることは、殊に建築には必要なものである。但し此の方面のまとめには合法では出來ぬことがある。此れは此の方向の藝術の本性であつて、平面作製に於ても、形體に於ては言ふまでも無く、科學的不合理、不合目が部局に生ずるにも不拘、事實は結果の優れたるものを來すことが多いことを忘れてはならぬ。

あるものは下品であり、あるものは高雅である。此れ等を來せる素因として、專門的には美的修養、或は品性の練達が必要でなければならぬ。普通教育に於てはそれ相等に、人としての修養の爲めに倫理以外に繪畫、音樂、體操、旅行……の如く專門的にはより高き程度の修養方法がほしい。

其の最もよき材料は自然と過去の優れたる高雅なる作品である。自然に接し其の精髓を感得することである。自然其の儘を表すのでは無い。『ゾラ』の小說を讀んだ後は必ずしも好感を殘さないが、源氏物語は同種では無く一種の味ひを知るのである。後者は自然、又は事實を其の儘に寫せる中に主觀を有せるからである。『フイデヤス』系の群像と、觀心寺等にある佛像の有せる形體と、眞の精神。『パーセノン』と法隆寺中門、又は藥師寺五重塔が示せる合法なる組立て上にある單純にして勁く而も其の間に高雅なる表れを見るときは、一種の力を感得し吾々自身は甚だ多く修養せらるゝのである。此の種類の觀賞は專門的所得があるのみならず、同時に人間自身の偉大なる品性の修練にもなるものである。

此等は單に一例ではあるが、建築專門家には科學的素養と同時に缺ぐべからざるものとして、斯かる準備を要する。例へばこゝに小經濟階級の『アッパート・メント』を合法的、合目的に切り詰めてある科學的構成をしつゝ、こゝに高雅なる心性を以て形に於て統一し其の建築物の表せる意味が、見る人をして、自から一種高雅なる感得を爲さしめたならば、蓋し世を益すること甚だ大であらう、都市に櫛比せる幾多の建築群はそれだけ多く、社會教育の役目を爲しつゝある。此等の意匠上の根柢は修養されたる設計者の心性にある。此れは新興せんとしつゝある日本の現代建築に於ける一要素で無くてはならない。

上記は現代割合注意の少き方面を、考へに隨て書いたのであるが其の他甚だ多くの重要なる事項のあることは言ふまでも無いのであつて、此れを列舉すれば……

用途、目的特に平面圖の合法

材料の適用の合法

合理的構造……防火、耐震、耐久

保健的合理……音響、照明、上下水、煖房、冷室、換氣機械的及電氣設備の適用の合法

即之等の事項は日本新興建築の重要なる要素とならなければならぬ

即健全なる建築は藝術と科學との巧なる融合であらねばならぬ。

上記を更に統合記載すれば

(1)科學的に諸項を充分に研究すること。

(2)各自の宗教と共に國土の神の前には自然に頭の下がること

(3)過去の藝術的優良なる作品を以て專門的にまた人間としての修養を爲すこと。

(4)現代の諸社會相を健全に了解すること。

更に之れを自由に言へば各人は眞、善、美の標準を以て自由に熱心に進むべし。

更に又た言ひ換ゆれば、各人は自由に汝の欲する處に邁進すべし。但し常に此の國土の神を念じなければならぬ。

（昭和六・六・一四記）

新興建築時感

工學博士　岸田日出刀

（一）

新興建築の歴史は、歐洲に於いては大約四十年、日本に於いては約十五年の歴史をもつ。

過去の歴史に徴するも、建築上の一樣式の完成には少なくも數百年を要するものなのだから、今日の新興建築が僅か三四十年の歴史しか具體的にはもたないといふことは、新興建築が樣式的に如何に未熟のものであるかを示すものだと思ふ。しかし新興建築はかく短い歴史の故を以てその價値を毫も減少しないものである　むしろその新生のものであることが、今後の發展を裏書するのだと思ふ。古いものには伸びる力が少ないか、または全然ないが、新しいものには將來があり、展びる力が滿ちてをる

今日建てられる建築が今日の建築でなければならぬことは言ふまでもない。新興建築は、最早や、是非の理論を越してをり、今日ではそれの具體的實現といふことだけが殘された問題であるばかりだと考へる。

新しい建築が興り、それが滿帆に風をうけて華やかに發展して行くといふことは、最も自然な眼前の事實で、この眼前の事實は何人もこれを拒むことはできない。

（二）

フランス、ドイツその他歐洲各國は勿論　アメリカや日本も、何れも、新興建築の大波に搖られながら進んでをる。正に國際的の傾向であるが、今日日本に於ける新

建築はどんなものだらうか。過渡時代の觀を深うする。理論では問題なしに過去建築を壓倒してをるけれど、實際上の勢力では遠く過去建築に及ばない。しかしこれは新興建築の理論が誤つてゐたり、その技術が未熟の故だからではなく、新興建築、從つてその建築家が、猶未だ社會的支持を過去建築、從つてその建築家程えてゐないためである。あるものから他のものに移り變る過渡の時代にあつてはかやうな現象も當然起ることでまた止むをえないことでもある。

かやうな現象は單に日本だけのことではない。フランスやドイツの建築といへば、そこに建てられるすべての建築が新しい形式手法で作られるやうに考へられるかもしれぬが、實際は日本と大してその事情を異にしてゐない。即ち、新しく建てられる建築の僅か數パーセントだけが新しい建築であるに過ぎないのである。丁度東京中を歩いて、新しい建築は指を屈する位しか出會はないのと同じやうな經驗を、今日の巴里や伯林でも經驗するのである。アメリカの建築はみんなスカイスクレーパーだと思ふことが誤りであるやうに、ドイツやフランスの建築といへばみんなコルビュジエやグロピュースの建築のやうだと考へたら大ちがひである。

かやうに歐米と言はず、日本でも、新建築のもつ社會的勢力は、過去建築のもつ隱然たる勢力には敵すべくもない。新興建築家のなすべき責務はこゝに益々倍加されるわけである。

(三)

一口に新しい建築と言つても種々の種類がある。例へば同じフランスの新しい建築のうちにも、似て非なること甚しいものがあり、過去建築以上に建築を濱してをるものがある。日本にしてもさうである。唯過去樣式から離れさへすれば、それが新しい建築だと考へることの誤りなのは改めて言ふまでもない。

現代は新しい建築を求める。而もそれは正しいものでなければならない。唯變つたものであればよいといふのならこれ程容易なことはないのだが。

新興建築には過去建築にみるやうな、形式上の嚴重な規則や束縛が全然ない。それだけ自由だといへば自由なのだが、また他面それだけ難かしいことだと言へやう。理論上また技術上に深い知識と經驗がなければ、似て非なる新建築ができてしまひ、過去建築以上に建築を濱す建築ができ上つてしまふことになる。かやうな新建築には屢々出會ふ。そして過去建築によい口實を與へてしまふことになる。新建築また難いかなである。しかし社會の建築が一人の完全者によつて作られるものでない以上かゝる事實もまたやむをえないことである。

時はすべての清算者である。過去建築に代つて新興建築の世となる。これは過去の時代の次に現代があると同じやうにまちがひのないことである。帝冠式的日本趣味で、建築の時代が逆行する程日本の建築家は無智であり無暴であるとは思へない。また新興建築家は無力でもないだらう。

このアナクロニズム

八洋生

造幣局の煤煙が發動機船や曳船のひつきりなしに、行き交ふ淀川沿ひに流れて大阪城跡のある丘にぶつゝかる。其丘の上に今年の暮には一世の風雲兒である武將豐臣秀吉が築いた大阪城天主閣の白亞の雄姿が、大阪全市を俯瞰して市内の何の建物よりも高く聳え立ち西曆千九百三十一年の文化と思潮とを前にして復興再建されようとして居る。然も是れが昭和の帝の御即位の記念事業である。自分は



健康住宅(米國ロス・アンゼルス) ノイトラ氏設計

日本趣味を加味する事を條件として居る。そして此意匠設計に決定的の運命を與へる一條項は、現代思想界建築界の一般的傾向を表徴したものではなくて、此等意匠競技と云ふものに常に職業的に携はる常連の、時代を達觀しない一時的の出來心や皮肉な惡戯から加へられたものと見られる點が多い。こゝに於てか壯年建築家の一團であるインターナショナルの諸君の如く、主義主張に潔癖な建築家は不應募を決議したりなどして勇敢に反對して居るものもあれば、嘲笑を以て默殺して居る多數穩健なる建築家もある。之れに應ずるものゝ中には、生きんが爲にのみ萬一の僥倖を期するものもあろう。又強いらるゝが儘に製作する機械の如き建築家もあろう。然し其中の幾何が其意匠の生命、惹ひては競技の運命を支配する此氣まぐれな條件に共鳴して應募して居るだろうか。

巷間傳ふる處によれば、日本趣味を加味することは現代社會の滔々たる險惡なる思想を矯正する指導精神によるものであると云ふ事であるが、果して然りとせば其本末を顚倒せることの甚だしきを思はざるを得ない。

人類の古き歷史には種々の時代があつた そして其時代の思潮、風物は其殘された種々のものによつて窺知する事が出來る。文學然り、美術然り、建築の藝術的方面である樣式亦然り、此等は總て人間の其時代に於ける思想なり社會の狀況の反映であり陰影であつて時代の思想の本體ではない。然して陰影であるが故に些の欺瞞をも止めない。爲政者、道學者は此正直な自己の像體を見て本體をも善導する指針とすべきであらう。然し時代の姿を反映する影像をためて、本體である思想を他へ導く事が出來ようか。我々の過去の時代に於ける文學、美術を見るに、悉く其時代の社會の在りの儘の姿を些の技巧もなく欺瞞もなく正直に反映して居るではないか。社會の思潮が淫靡なる時代にあつては文學、美術も卑猥となつて居る。浮華輕佻なる時代に於ては又其文學、美術も輕薄になつて居る。建築の樣式に於ても精神的に之れを觀察すれば眞正直に其時代の思想を反映して居る。尤も文學、美術は其時代の反映であると共に、其時代の思潮の進みを加速度的に助成すると云ふ事も出來よう。爲之には世相の影像の一つである文學を、在りの儘の姿で表現する事を避けて、正道への歩みに導くと云ふ事も出來よう。然も之れは極めて消極的であつて、滔々たる時流の大勢を堰き止むるに幾何の効果があり得るか。況や建築の樣式は建築全體から見れば極めて一部分に過ぎない。然も文學の如く其時代の思潮の映像となつて且之れを加速度的に助成するには其質が餘りに間接的であるではないか。此點から見て社會指導の意味に於て、建築設計競技に此重大なる一項目が加へられたとするならば、其無意味なることを叫ばざるを得ないのである。

假りに一步を讓つて建築の樣式

設計競技が、意匠の條件として、其完成の曉に於ける建築の樣式や現代の思想から見た計劃そのものゝ價値に思ひを致す時、之れを企劃した人々の頭の良い皮肉と惡戯心とを思ふて苦笑せざるを得ない。

此惡戯的計劃が發表せられ、實行にかゝつてから、之れとは何等關係はないかも知れないが、偶然にも其後行はれた建築の重要なる

が時代思潮の反映であると云ふ消極的の見地を捨て、積極的に其淨化が思想善導の價値あるものと假定しても、果して競技關係者の思考せらるゝと一般に傳へられて居る如く、日本趣味を加味する事によつて其目的が達し得らるゝか否かは疑問である。否、寧ろ日本趣味とは如何なるものであるかゞ第一に解決せらるべき問題ではあるまいか。今日一般に建築界に於て日本趣味と稱せらるゝものは、千餘年の昔佛教と共に輸入せられたる隣邦の建築の流れを汲んだものではないか。假令それが永い間に我國民の趣味性に同化せられたるものであるとは云つても、最近一世紀の間に過去數十世紀を重ぬるも尚及ばざる程の、異常な變化を宗教上、思想上に見た現在の日本人の日本趣味と云へようか。或は競技當事者は、日本趣味とは破風や九輪や蟇股や偉大なる瓦の屋根を意味するものではなくて、現代の日本人の趣味性を抽象的に言つたのであると、云はるゝかも知れない。若し、然りとすれば其云ふ處は實に立派である。然し、それは一の詭辯に過ぎない。少くとも現今の一般建築技術者間に於ける建築の日本趣味と云ふ字句に對する認識、觀念は、此等の傳統的の手法を使用した社寺建築の流であることは爭はれない。又其詭辯である事は審査の結果に於ても實に明白に之れを認識する事が出來るではないか。中には技巧上興趣のあるものもないではないが、然し之れを現代思潮の表現と云ふ點から精神的に内觀する時に、其意匠の内容の憐れさは涙なくして見るに忍びないではないか、又其殆んど全部が現代の思想とは何等の關聯する處のない手法、形、細部の紋様、雜然として統一なき有様などは、惡趣味に勇敢に無關心であり得る者の外は、手を染むるに躊躇せねばならぬものである。是れ誰れの罪であらう？努力數旬、與へられた方針の下に案を練つて應募する有名、無名の建築技術者の罪であらうか。



健康住宅(米國ロス・アンセルス)　ノイトラ氏設計

最近、此の日本趣味を加味したる意匠と云ふ事を條件とした設計競技は、現代を代表する建築を實現し得べき好機會を與へ得べき質及び規模のものであつた。建築の競技に於て此程のものは、一面から見れば無名の隱れたる天才を世に出し得べき唯一の機會を與ふるものである。然してそれは、又現代の世相を表現する代表的の意匠更に進んでは確立したる様式を得る一階梯をなす好機會であると考へらるゝのである。それに斯の如き氣まぐれな指導方針を設計競技の條件に加へられる事は、折角の好機會を逸するものと甚だ遺憾に思ふのである。

此等最近の建築の競技の中で此條件の附加せられたものゝ内、東西兩都に於ける博物館に關し、其理由として又傳へらるゝ處は、内容が東洋美術であるから建築の意匠も外觀も日本趣味を加味して、内容との調和を期するにあると云ふものもある。然し日本趣味と云ふ言葉に對する現代の建築家の認識が上述の如くなる時に當つて、斯くの如き意匠のみが内容と調和し得る意匠の様式であらうか。社寺、堂塔の手法、紋様を意匠とした建築のみが、内容と調和するものと考へらるゝならば、そは此條件を附加した一部の人のとらはれたる主觀論であると言ふも過言ではあるまい。建築意匠が内容と調

和することは、設計の一條件としては勿論不可ではない。それも一部の人の主觀にのみよつて斯くの如き條件を附して局限し、結果を拘束する事は、我國に於ける建築樣式の健全なる發達を期する點に於て一種の罪惡ではあるまいか。斯くの如く意匠を具體的に拘束しなかつたならば、更に更に內容と調和し得た隱れたる天才の意匠を得る事が出來たかも知れない。少くとも斯くの如き天才的意匠の出現に對する機會を與へ得たことゝ信ずるものである。又一面、內容と建築意匠との調和も必要ではあるが、現代の建築は更に重要なる運命の岐路に立つて居るものであつて、斯くの如き條件が建築樣式の健全にして自由なる發達を阻止する癌となるのであるまいか。

世の中には又斯くの如き條件の附せられたのは、將來の我國建築樣式の進路を示し、取るべき路を指導する爲であると傳ふるものもある。然し自分は斯くの如き巷間の說は信じたくない。之れを信ずるには餘りにも此等競技に關與せる人々の賢明なるを知つて居るからである。競技の衝に當つて此條件を附せられた人々は、殆んど我々大多數の、今の世の建築技術者と等しく建築意匠の考案に對しては甚だ天分に惠まれざる憐れむべき技術者であつて、美的觀念の豐かな美術家ではない。然し學者として、又建築の意匠上の技能を除く點に於ては、大に尊敬すべき幾多の技能の持主であり、又頭腦の明快なる先輩又は知人のみであるからである

抑も建築樣式の發達と云ふものは、斯如き一部の人々に依て指導し支配さるゝには社會其ものと餘りに根柢深く關聯し過ぎて居る。

建築の樣式は其時代精神の表現である。而して確立せられたる樣式は、或は思想的に、或は宗教的に、時代精神が安定し確立せられたる時代に出現するものである。思想界の混沌たる時代にあつては建築の樣式も確立せらるゝ事は望むを得ないのである。而して思想界の常に動いて居ると同樣に、建築の樣式も其程度の大小こそあれ常に移動して居るものであるが、新しい樣式から次の新しい樣式の出現までには、兩者の間に介在する無數の確立せられざる段階的のものがあつて、幾星霜、幾世紀の試練を經て特色ある次の樣式に推移するものである。決して確立せられたる新しい樣式は忽然として出現するものではなく、此點は一國、一種族の政治とは大に趣を異にして居るものである。即ち或る種族に特有なる建築の樣式は、レボリューションによつて突如として現るゝものではなく、エボリューションによつて漸進的に出るものである。建築の樣式は決して發明ではあり得ない。建築意匠の新しい個人的發明は、極めて天才的にして且時代精神と合致した場合の外は、新しい樣式の出現までの數多い出來事の中の一つとして刺戟となり、一時的の興趣となり、一階梯となるに過ぎないのであつて、建築と云ふものゝ性質上、樣式は發明、發見では出來得ないのである。確立した樣式と云ふものは、必ずや建築意匠の連續せる推移の一部を指すものでなければならない。而してそれは其時代を支配する精神の反映なのである。歷史は之れを雄辯に物語つて居る。有史以來、何時の世に一時代を風靡する確定せられたる建築が、忽然として出現した事があらうか。クラシツクからゴシツクに移る數世紀の間にも、其間に無數の兩者の間に介在する中間的のものがあつた。ゴシツクからレネツサンスに移る間に於ても同樣である。要するにクラシツクと云ひ、ゴシツクと云ひ、レネツサンスと云ふも一つの大きな波動の頂點を指すに止るのである。此波動は其時代の思想精神の極めて自然的な發露であつて、微々たる一二建築家の力を以てしては、其波動を左右し矯正し得る事は出來得ない程の大きな惰性と底力とを持つて居るものである。

我國の過去の歷史を見るに、今日、日本趣味と稱せらるゝものの初めは千餘年の昔佛敎と共に隣國より渡來した。然し之れは既に隣國に於て永い間に養はれた完成した一樣式であつた。爾來幾星霜、其間に我國は政治的に文化の輸入と鎖國とが殆ど周期的に繰返されて來たが、開國の度に建築の樣式



ノイトラ氏設計 (ロスアンゼルス・ロス國米)宅住康健

上に影響を受くるものは、最初に得た建築様式の多少變化したものに過ぎなかつた。而して明治初年に泰西の文化の輸入せらるるまでの長き間、建築の様式は之れが國狀に對する同化と局部的の變化とはあつたが、一つの様式として、歐洲の建築に於けるクラシツクとゴシツク若しくは其中間に位するルマネスクの如きものの間に見るが如き隔絶せる様式上の變化は見ることが出來なかつた。即ち千數百年の昔の飛鳥朝の文化に於ける建築の様式と、德川末期に於ける所謂日本建築の様式とは、大局觀よりすれば、其間に思想上、政治上の大變化のあつた割合に、殆ど同一様式と見らるるまでに變化して居ない。其様式上の推移は是れ程緩慢である。或は佛教文明移入前の建築と其後の建築の様式に對し、又德川時代の建築と泰西文明移入後の建築とに對し之れを稱して様式のレボリユーションなりと稱ふるものもあらう。然し之れはレボリユーションなるものの主體を何れに置くかによつて解釋を異にする。慢然と當時の建築を、國家を主として見る時は建築様式のレボリユーションかも知れない。然し様式自體から見れば決してレボリユーションではあり得ないのである。何となれば、それは完成せられたる様式の移植に過ぎないからである。又それは建築として見る時は、一つの様式に間違いはないが、決して民族性と時代思想とを經緯とした其國民の様式ではあり得ない。斯かる場合に於ても、それが國民の様式となるには時運の歩みにつれて行かねばならず、爲之には相當の年月を要し、人力を以てしては之れが歸向を左右する事は出來ないのである。

我國の現狀は如何であるか。海には優秀快速なる汽船があり、空には旬日にして世界を一週し得る飛行船がある。一世紀前の一里は今日の百里或は數百里に相當するしかく世界が狹少となつたのである。爲之には昔は影響を受くるには餘りに距離のあり過ぎた處の文明、從つて建築の様式にも容易に影響を及ぼして來る。明治初年の泰西建築の輸入以來、世界各國の様式が混沌として我國の建築界を襲ふて來る。思想上に於てもその通りである。今日の我國民の思潮、信念を誰れか統一せられたるものと云ひ得よう。我國有史以來今日の如く思想、信念の上の不統一なる時代があつただらうか。そこに根幹をなす一脈の流れとなるものの面影をすら窺知する事が出來得ないではないか。斯かる時代にあつて、我國の建築様式が如何に進むべきかを豫知し得るものがあり得ようか。又建築様式の推移、歸向を人爲的に左右し得るものと考ふるは餘りに無暴ではないか。

最近の建築競技の條件として、日本趣味を加味すると云ふ事が我國現時の建築様式に對する進路を左右せんと企圖せられたるものなりとせば、以上の理由によつて其企圖の餘りに無暴且大膽なるを思はざるを得ない。

假りに一歩を讓つて、其指導方針が様式の正に進むべき路を示して正鵠を得たるものとしたならば或は様式の確立に對して幾分貢獻する事もあらうが、時代の歩みと云ふ强力なる潛勢力に運命付けられたるを見る時、其程度は九牛の一毛にも値しない。況んや其方針が時代精神の進路と餘りに懸隔せる場合、百害あつて一利なきものである事を誰か否定し得よう。

我國、否殆んど世界各國の現在

の世情は實に混沌として居る。今迄に各地に封建的に發達して居たものが雜然として入り亂れて來た。そこには世界を通じて精神的の中樞となつて居るものを見出すことが出來ない。斯くの如き時代にあつて、我國の建築の樣式が、混沌として居るのも誠に止むを得ない。一面から見れば混沌として居るのが自然であり、且現代を最も良く表徵して居るものと考へらるゝのである。

今日の我國の建築樣式は思想界と共に混沌として居る。然し思想界の安定が來れば、自然建築の樣式も之れを反映して安定するに違ひない。

今日の世情として、或は從來の日本趣味を將來の我國の樣式の辿るべきものと考へるものもあらう。又歐風の建築樣式を基礎として進むべきものと考ふるものもあらう。更に又、此等の何れにも拘はれず、新たなる構成によつて進むべきものと考へ努力するものもあらう。今日の混沌たる時代にあつて、此等各種の主張を有するもの〳〵雜然として存在する事は、誠に止むを得ざる事であり、又之れが當然の事と思ふのである。最近行はれたる建築の競技は、前述の如く、我國現代の思潮を代表し得べかりしものである。斯くの如く重大性を有するものであるが故に吾人は斯くの如く種々の異りたる主張の混沌として存在する時代に樣式の自然的の歸趨を制限する條件の附せられたることを遺憾とするものである。

社會の狀態と云ふものは一日も停止するものではない。建築の樣式も自然的に推移するものであつて、且總ての建築家は時代に適合する樣式の發現に意識的に又無意識的に努力して居るものである。然し天分に惠まれざる凡百の建築家に對しては、自然的の到達を待つ以外には餘りに達し難き一つの理想に過ぎない。爲之或るものは、其努力は潛在的にあつても自己の能力を自覺して、在來の樣式を踏襲するものもあらう。又樣式上の舊套を脫せんとし、樣式の獨立不羈を叫びつゝも、尙コルビュージエやメンデルゾーンの如き泰西の新興建築家の手法を眞似るものもあらう。建築樣式については實に百鬼夜行の狀態である。是れは現在の我國の建築界の大勢であるが然し又是れは社會の混沌たる狀況を反映したものであつて、今日の世情としては是れが自然であり、亦赤裸々な處でもある。只根抵に於て理想に進む努力があるならば自然的にエボリューショナリーに社會の安定に伴つて樣式の確立安定の時機が來るのである。斯かる時機にあつてアナクロニズムな指導は、反つて、健全なる發達を阻止するものと見る外ない。

茲に吾人の羨ふものは建築意匠に對し、時代を正解し、獨創的の技倆を有する天才の出現である。一天才建築家の樣式の確立に寄與する處は、百千の天分に惠まれざる憐むべき者に比し幾百倍であらう。樣式の確立はエボリューシナルである事は原則ではあるが、偉大なる天才の出現は、或は樣式のレボリューションをも來し得ようか。最近數回に行はれた建築界に於ける重要なる意匠競技は、斯かる天才が假りにあつたとしても、其發見を無意味なる一條件の爲めに、完全に封鎖してしまつて居る。若し斯くの如き條件なかりしならば、或は混沌たるが現代の世相であるとしても、其根幹を透視し、其精神を劃一して、現代を反映し得た天才的意匠を得たかも知れないではないか。

自分は建築の樣式は世相の反映であり、世相の安定なくして其時代の建築樣式の確立を見ることの出來ぬことを述べ、且樣式の確立はエボリューショナルであつて、レボリューショナルでなく、二三の建築家の指導によつて其推移を左右することが出來ぬ事、最近數回の重要なる建築競技に附せられた、日本趣味を加味すべしと云ふ條件の現代に於ける矛盾を說いて識者の批判に訴へんとするものである。(了)

日本に於ける新興建築

S O 生

◇

財界不況の現在に於ても、必然の要求に應ずべき建築はどん〳〵新築されつゝあることは誠に御同慶に堪へない次第であるが、テンポの早い實世界の前途は殆んど瞻視すべからざるものがある。從つて將來の建築が如何なる時代の要望に醇化さるべきかについては充分の考察と熟慮に據らなければならぬ事は誰しも考へさせられる事柄である。殊に近代の玩弄な鐵骨構造や鐵筋コンクリート造の建築にありては時代の進運と相伴はざる事情を惹起した時には一朝一夕に之を改造する事は殆んど不可能であるからである。處が大正の初期に建築された建物でも昭和時代の要求に合致されぬ内容外觀を保つ場合には、忽ち之を滅却して大改造か大新築を斷行せらるゝ向も少なくない。

かういふ時世には百年の將來を考へたと稱する建物でも僅々四五年の間に時世遲れとなる場合が甚だ多くなつた事は、大いに活目して理解するの要がある。一例を擧ぐれば地下鐵工事に着手して以來從來の地下室一層の建物は既に都市の大通に於ては既に時世遲れとなつて居るではないか。今日地下階は二階、三階を要求して來た事は大正時代には夢にも考へられなかつた事である。

又或事業會社の如きは大正初期の建築に狹隘を告げ大正中期に增築をやり、大正末年に第三期の增築をなして見たが昭和も六年の今日更に第四期の建增しをする場合に立到つて居る。しかも此年代の設計は僅々二十年間であるから五年毎に增築をやつた事になる。しかも今の時世は五年毎に世情が變つて居るから、大正初年に出來た建築の内容外觀は昭和時代のものとは似ても似つかぬものとなる場合が多いから改造された建物は皆チグハグな形となつて統一的内容を保てぬ事となつて來る。

斯くの如き時世に統一あり重厚味あり醇化せる藝術的建物を望むのは、望むもの〵無理であらうから四五年にして其新調味を失ふものを要求されるのも又止むを得ぬ事であらう。

近代の新興建築の内容外觀が稍ともすれば淺薄に傾き流行を追ふて轉換する風格の盛られる事や、四五年にして古臭くなる程の覺悟で急造するの場合が多くなりつゝある事は、蓋しこれも時世の然らしむる事であらうか。

建築は長い月日と巨額の金と勞力とを傾注して出來上るものであつて、流行を追ふて百貨店頭に並べられる程の新衣裝とは餘程其趣を異にして居るものである。故に銀行會社の大建築が、重厚味ある復興式建築を喜ばれる傾向のある事は一面其間の消息を語るものではあるまいか。

建築家が此の造形美術の創作に當つて百世の後に範を垂れる程の覺悟に立ちて大建築を設計する場合ありとすれば時流を追ふて轉化する現代建築の趨勢に大觀的洞察を下し、斷じて不動の信念から溢るゝ重厚なる建築を建立するの研究と準備とそして實行のあらん事は今日の様な時世に尤も必要ではあるまいか。

◇

建築の内容外觀や其表現の形式が國情や氣候や風土や國民性の如何によりて渾然として美しき藝術の殿堂を建立されるものとして極東の日本が要求する將來の建築には、日本と申す世界稀有の御國柄から產れ出る新建築につきては何うなると申さうより時勢の要望に順應して尚且數十年の將來を洞察するものとすれば、必ずしも新しい意匠（しかも數年にして時世遲れとなる）のみを以て其要を得た

建築姿態の根本觀念

モトノ・セイゴ

るものとする事は出來ない樣にも思ふ。近時東洋風又は日本風の樣式を轉化して永久的建物に活用せんとする試みや努力に對しても又相當の敬意を拂ふべきであらう。それは過去に於ける外國風の重要味ある建築樣式の採用並に研究に對して拂はるべき敬意と日を同じうして語り得るものであらう。

要は我國風土の還境に理解を保ち急テンポに迎合するあはたゞしい今の時勢を達觀して此混亂の思想界を洞察して少なく共數十年の歲月を經るも其新し味を失はぬ表現を含蓄すべき建築こそ吾等が最上級の新興建築ではあるまいか。

さあれ時流の急潮は沈靜なる思索さへも許されない、止まる事も考ふることもあまりに時を俟つ事を許さない。時々刻々として進む今の世情を達觀して東西逆流の大渦の眞唯中に嚴の如き信念を樹立して、急がずして着實なる牛歩を續けることは吾等の偉大なる使命であり、且つ此目的を果すには絶大な努力と研究と鍛鍊とを要することであらう。（了）

此の項で私は建築姿態に對する觀念の基本を述べて、新興建築に對する觀點の根本を明にし樣と企てる。

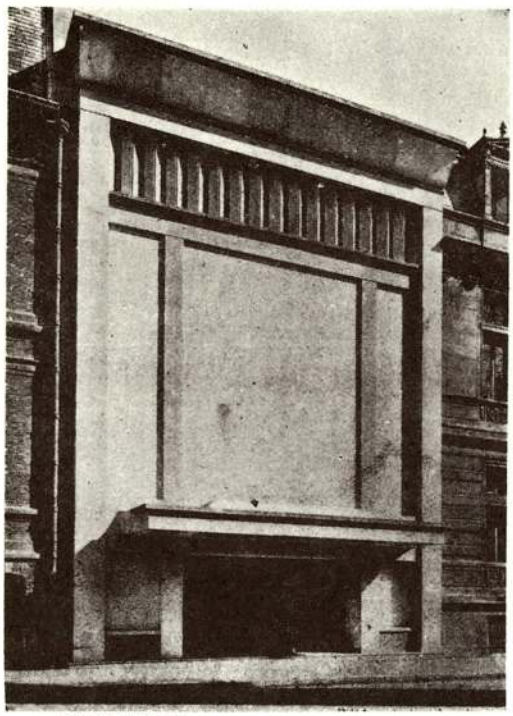
機能と姿態との關係——機能が建築の根柢を形造るに重要なる要素の一つである事は云ふ迄もない事柄である。從つて機能の表現が、建築姿態の根本をなすと云ふ事に誰しも異論はない筈である。然し乍ら、機能は建築姿態の最終迄を決定するや否やと云ふ點に純粹機能主義の論究さるべき餘地が存する。世界の現代を代表する建築家は、大體に於て、純粹機能主義の色調を持つと云へる。中でも純粹度の高き人々としてグロピウス。ル・コルヒジエ。リヒヤルド・ノイトラ。ヲストラナード等を擧げたいと思ふ。殊にノイトラはその純粹度に於て斷然他の人々を拔いて居る事を感ずる。彼の近作ロスアンゼルスの郊外に於ける醫者の家——彼はこの家の說明をし乍ら自分の建築思想を述べて居た。（日本へ來た時）それでその寫眞は去年インターナショナル建築誌上に紹介された——この家の基本構成を觀察すると全く純粹機能的構成以外の何者でもない。姿態の上に何等の企もない機能其者丈である事を見る。彼はこの考を建築の內部構成に迄押し擴めて居る。內部は唯完全に人間生活を包擁する容器である。そうしてそこには何等形態の上の企がない。色彩の企も全くないらしい。彼は形態の上の企なき事を現代建築の中心思想であると云つて居た。彼は建築は一つのビジネスであり、それ以外の何者でもないと云つて居た。建築家は大衆の生存と繁榮とを可能ならしめる爲めの容器を構成するビジネスマンであらねばならぬと云つて居た。

私は彼の考の全部を共儘には肯定しない。けれども其の中に重要なる眞實性を認める。今この事に就て結論を引き出す迄にこの項に餘裕を持たぬ。それ故に之れと相對してブルノー・タウトの例の扇形の家を引き出して來て、現代建築思想上の一つの疑問を提出するに止める。タウトの家も純粹機能に終始して居る事はソノ自らの記錄に依て明かである。けれども唯色彩に關する取扱ひが、全く獨特であり色彩の取扱ひに異常の興味を持つて居る事は、彼自身の家に關する著書に依て明かである。此の點は前のノイトラとは正反對の立場に居る。私は今機能と姿態とに關する記述を之れで打ち切つて結論を引き出す事なしに問題として提出するに止め樣と思ふ。

構造と姿態との關係——材料と構造とは機能を完成する。ソレ故

に材料と構造とは表現さるゝ姿態の上に重要なる役割を演ずる。之が即ち純構造主義の根柢である。然し乍ら機能の根柢なしには構造はソノ第一歩を踏み出さぬ。云ひかへれば機能を考へる事なしには構造と云ふ事は何等の意味を持たぬ。構造はあくまでも機能を完成する手段であらねばならぬ。ソコで次に來る問題は構造と姿態との關係である。

純構造主義者（コウ云ふ者が具體的にあるかドウかは疑問であるが或一部にこの考がある事丈は確である）――この種の考が常に先頭に振りかざして自分の論據に裏書し様と試みるものはフレイシネーの仕事である。彼れの格納庫以後、多くの橋梁に現れて居る美しく滑かなる線の流れは、全く構造の合理性其者の表現である。私は此の點に就て純構造主義者と考を一つにする。然し乍ら、茲に尚問題が殘る。ソレは純粹構造の合理性のみが表現の全部であるべきか否やの問題である。私は大體に於て建築表現の根柢を純粹構造の上に置く事を肯定するけれども、之を以て其の全部とし其以外に何等の企をも許さないと云ふ考を其儘に受け入れる事は出來ない。茲で私は再びノイトラを引き出す。彼の建築は構造表現の上から見ても全く純粹なる合理性其物の表現であつて、ソレに何等の企をも加へて居ない。純粹度に於てそれ位高いものは他にあるまいと思へる。けれども、私は之れを以て表現の全部であるとする事には贊成し兼ねる。人間が詩をも歌をも歌はない境地にとぐかない限り、人間は純粹構造の合理性表現のみを以て滿足する事は出來ないと思ふ。『建築は結晶せる音樂なり』と云ふ已に云ひ古されたる言葉は、今又新らしき姿を以て現代の建築の上に現はれて來る。ノイトラの建築には詩も歌もない。彼はあつてはいけないと云ふ。之れに對してコルビジエやグロピウスの建築は歌であり詩である。コルビジエのウルバニズムを詩人の夢と笑ひ、グロピウスのデツサウをラスの遊戲と嘲る前に、彼等の持つ豊かなる詩情を人間性の貴き一面として拾ひ上げる事を忘れない方がよいゝ様である。



音樂堂（街ネヂーカー里巴國佛）設計ーレー氏ベ

私は此の事に就て、今は已に一つの歷史的建造物として數へ擧ぐべきライトの帝國ホテルを引き出して、一つの注意を呼び起さうと企てる。彼は廿世紀の初頭に於て現代機能主義の根柢を植へ附けたる唯一の偉大なる存在である。彼の建築の本質的價値は彼の夢幻の如き表現の特殊性にはなく、却て機能的要素の根柢にある事は彼の建築を眞實に研究する時に發見する事柄である。ソノ夢の如き豊かなる姿態は彼が持つ詩の表現である。茲に構造は機能と詩情との蔭に全くみじめに踏みにぢられてある。彼にあつては構造は彼れの詩を實現する爲めの單なる手段である。彼れの近作に就ては餘り多くを知らないから確かな事は云へないけれども、彼の仕事が偉大なる紀念像として已に歷史の中に繰り入れられ様として居るのは全く此の爲である。彼にして構造の合理性に對する明確なる觀念が存在したならば、彼れの建築は現代に於て更に大なる光を放つであらう。ノイトラとライトとを並べて考へる時、現代の中に二つの兩極を發見する。この二つを連結する線こそ、現代に存する主要なる總てを含む線であらねばならぬ。（終）

新興建築問題中の或ものに就て

山田守

過去から現代へ、現代から將來に發展せんとする建築の歴史的過程の内に於て其一部分を占有する一區域、即ち恒に運動しつゝある原點なる現在を觀點とし其最近の過去より現在に來り更に將來に向つて伸びようとする範圍こそ新興建築と呼ばるべき客觀的存在であらう。

この建築の歴史的發展過程、特に最近の範圍の正確なる觀察と正しき吟味批判とによつてこそ新興建築の本質を把握することが出來よう。

この正確なる觀察と正當なる吟味批判によつて根底の怪しき似而非的新興建築と本格的新興建築とは斷然區別さるゝであらう。本流と支流、惡流と正流とは正しく清算さるゝであらう。

この建築の發展過程そのものは社會の全體的發展過程そのものゝ部分を構成するものである以上其正確なる認識は其全體的社會の發展過程の正確なる認識と相俟つて可能であり、新興建築の適確なる認識とその確實なる把握とは、新興社會の適確なる認識と其確實なる把握とによつて初めて可能であらう。

かようにして得たる新興建築の正しき觀念形態なくして正しき新興建築を實踐する事は望み得べからざると同樣に、正しき建築技術を獲得することなくして新興建築の實踐は不可能であらう。

私はこゝに新興建築の本質を闡明にし、その技術の全般に涉つて論ずるを必要としないがこゝには新興建築の問題に關して適材建築家達により多方面より適切なる議論が進められゝ事と信ずる。私の下に述べんとする所は新興建築の多々ある傾向中の或ものに就てに過ぎない。

新興建築の問題を論ずるに當つて日本趣味の建築、これに對して國際趣味の建築を問題とするはあまりにも通俗的な、あまりにも不徹底な所を持出す嫌はあるが、世間に大金を見せびらかして所謂日本趣味建築を蟻集せしめんとする一團に對してこれに反旗を飜す國際趣味の建築家現れ、其何れに立脚し何れに左袒するかを闡明にする事を强制さるゝ事さえ起る。

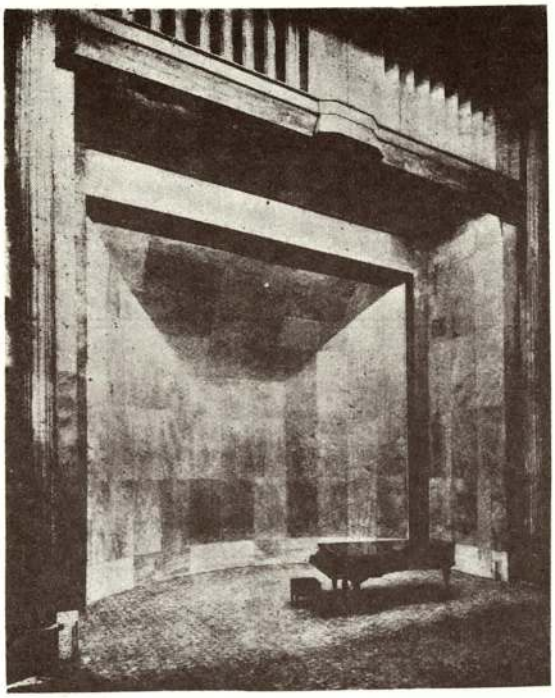
伊勢の大神宮の建築が當時の國際趣味の建築であつたかそれともあれは日本趣味の建築であつたか大和の法隆寺金堂があの當時の國際建築であつたか、それともあれも日本趣味の建築か、日光廟の建築はあれもあの當時の國際建築であつたか、それとも日本建築であつたか、帝國ホテルは國際建築かそれとも日本趣味の建築か、歌舞伎座は國際建築であるか、それともあゝした日本趣味の建築があるものか。今度の美術館にしてもあれは一體國際建築か、それとも日本趣味の建築であるのか。これはそう簡單に自分勝手に斷定してもよいものか。これは問題である。

今日、日本に生活してゐる建築家が本當の意味で純心で、建築をつくつたとすればそれは必ず今日の日本趣味へと結果する、同時に今日の立派な國際的建築へと結果するに違ない。少くとも私はそう信ずるより外にない。

今日迄に日本内地に存在した建築が屋根を持つてゐた。又組物や柱を持つてゐた。だから屋根や組物のある歌舞伎座の建築は日本趣味の建築であると斷ずることは出來まい。今日の日本人が過去の日本建築の形骸を傳統することは勿論今日の日本建築でも何んでもない。あれにはどことなく日本人的情緒が溢れてゐると云ふならばこれは又別であり、作者が日本趣味

の表現を意識してゐたか否かも問題にはならない。

今日の審査員の方々には勿論過去の日本に存在した建築形骸への類似を以て、今日の日本建築也日本趣味なりと心得てゐる様な方々は一人もあるまいとは私も信じたい。しかし世間では日本建築とは屋根の付いた建築であると審査員が思つてゐるだらうとの評判で懸賞ならば何はさておいて、その賞金を獲得することゝなり澤山所謂日本趣味の建築が集つて來たのでないかと思はるゝ。



臺舞・堂樂音佛國巴里カーヂネ街（ペレー氏設計）

交通の不便な時代は同じ日本の國内でも建築は變つてゐたに違ない。それが次第に共通になつて來た。共進會でもあれば尾州の賣店には名古屋城を眞似ねて金の鯱が屋根にのつかつてゐるとか、信州のはどうと云ふ様な事もあつたがどこでも走る汽車のハコは東京で見ても京都で見ても大して變りはない、そして大した變りを必要としない。停車場だつて名古屋だから屋根を高くして金の鯱を置く必要はなくなつて來た。又名古屋の人も夕には大阪に泊り翌朝は東京に赴くと云ふ様な事にもなり、三年を信州に五年を大阪に六年を東京に七年を北海道に住う様な人も出來て來る。こうなれば何も地理的必然に基く以外の無意義な傳統の相違を整理する必要が生ずることになる。日本國内に於ける整理が自然に發展して今日になつたと同様に世界文化の交流は世界の建築の不必要な傳統の整理を餘儀なくした。日本畫家も洋服を着て散歩に出で、大力士も選手權を爭ひカツプを頂く様になつて來る。

科學的文明によつて整理され統一されて行く運命は定つてゐる。たゞ地理的條件等の如きものが相互に殘る各地の特色となりこれに基いた感情が純粹ににじみ出たものがあるならばそれは日本趣味と云つてもよい、しかしそんな建築は同時にほんとうの國際的建築と云つてもよいものであるべきだ。ほんとうの日本趣味の建築はほんとうの國際的建築でなければならない筈だ。それなら兩者が對陣して我々中間建築家に態度決定を迫る必要などはない筈だ。私は最近日本趣味云々を條件とする懸賞に應募する暇がなかつた。又國際建築の反旗に同意した覺もない。しかしこの先所謂日本趣味などが問題に現れ來ない事に信じたい。

建築が科學的に一層發展することは大體信じらるゝ。そして科學は一層分化發展し、廣汎なものとなると同時に其各部分が益々深められて行く。建築も又科學の一分科ではあるが、全科學の分化發展に伴ひて其全科學的全局面に於て建築が吟味され修正さるゝ事となる。過去の建築家が時に立派な圖案家を以て自他共に許してゐたのが、來るべき建築家の第一條件は科學的綜合を可能とする者でなければならない。

前にも述べた通り建築家の觀念形態はそれに向つて綜合せんとする目的方向である以上、勿論それなくして建築家として立つことも出來ないが、建築家として立つて其目的に向はんとする第一歩としての條件は科學的綜合の可能と云ふ事になるであらう。

過去の建築ゴシツクやルネサンスの建築形態よりは今日の建築は單純に向つて來る様に見えるが、これは形態の無駄を整理したのに

過ぎないので其目的に對する働き機能なるものは日進月歩であつて止つてはゐない。建築圖案の退化と共に建築内容の進化がある。

今日迄日本に輸入された洋風建築特に最近の鐵筋コンクリート、鐵骨構造の建築は、主として耐震、耐火、耐久の點に於て研究され發展しつゝ來た。そして木造建築に代るべき新經濟的大量生産的長所を發揮せんとしてゐる。

か樣に新建築を論ずる人は鐵、コンクリート、ガラスの三大材料を振翳して其新鮮にして活潑なる圖案を以て宣傳に努めてゐるが、明日の建築には一層この宣傳を超越した形態、一層單なる靜力學研究を止揚したものの、一層ハン科學的なもの。

鐵筋コンクリート構造を以てした四角い固定した函が昨今盛んになつて來た今日、我々の不安はその三百有餘年の天壽を持つた固定鑄造されたる形態と我々生活の進化發展との間の矛盾である。

洋服は三年にして、靴は一年にして、大體天壽盡き、木造建築は三十年にして腐朽するは不幸中の幸である。お爺の帽子が三百年も持ち、洋服や靴が五百年も持つたらばお爺は自分の生活に適合させ自分の身體に適合する樣に仕立させて出來た當時は得意であらう。しかし彼も老年は少々いやいやながらもこれも若き日の思出と諦もつくであらう。併し之を繼承した吾々子孫は迷惑なものであらう。

生物にはそれ特有の新陳代謝と云ふものがある、これは勿論そのまゝ我々の建築には望めない。我々の子供の數が增すたびに室の幅や天井が膨れ上る、チヤブ台も一廻り廣くなる、そんな龜の甲が年々大きくなる樣に建築も中味につれて成長して行つてくれても惡くはないがそう簡單には行かぬ。併し、今日の建築の樣にコンクリートで固めて上へも横へも容易に伸びられない固定的なものもあまり感心出來ぬ。將來の建築の構成に於て、其詳細部分に於て、時々の進化發展に伴ふ爲の可變性を相當考慮することは非常に必要な事であるまいかと私は思ふ。

（一九三一年六月一六日稿）

新興建築概說

伊藤正文

目　次

一、新興建築とは何か
二、新興建築の理論的見解
（イ）機能主義的見解
（ロ）合理主義的見解
三、新興建築の形式
四、新興建築の發展
五　新興藝術形式への發展

（一）

劇と文學とに、新興と云ふ字が冠せられると思ふと、じきに建築の上にもそれが、冠せられる樣になつて來た。一九二九年以來の新熟語であらうと考へてゐる。では何が新興建築か、如何なる建築が新興建築か、何が故に新興かと云ふ點に立入つて調べて見ると、却てこの言葉の使ひ道が、頗る漠とした意味になつて來はせぬか。

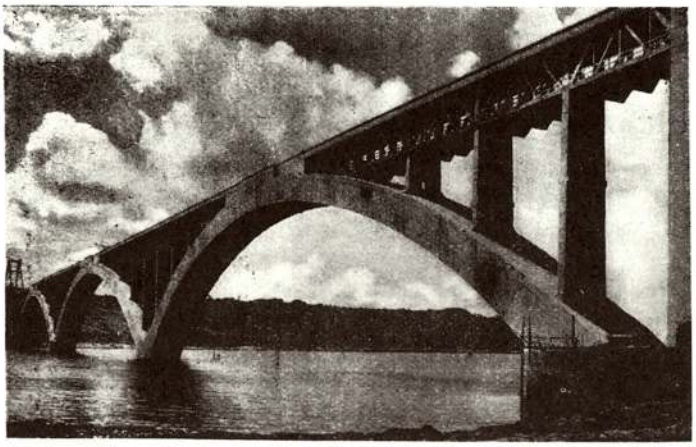
Modern Architecture を近代建築とか、現代建築とか譯して使用するのを通念上許されるとするならば、或は Neue Baukunst を新建築と云ふ譯語で表してゐるならば、新興建築とは何を指して呼ぶ言葉であらうか。ノイエバウならば新興と云ふ意味よりももつと輕い云ひ表し方であつて、只、新しい建築と云ふ位の事になるのではないのか。

新興の社會階級の建築といふ意味ではないかと云ふ見解もあつたが、未だ、新興階級の建築と云はれる樣な建築計畫の組織も、建築をも、世界事情の特殊的な場合にしか見聞するを得ない現狀に於ていきなりこんな言葉を概念表示の意味に使ふことは意味がない。

そこで只新たに興つた建築形式

と常識的に解釋して置くことが、最も無難なのかも知れぬ。それも文藝の分野に於ける新興形式へのタイトルと同じ意味で、建築の上に冠せた文字であると云ふ表面的な考へ方でよいのかも知れない。

石本喜久治氏の說く所によると新興建築、即ちインターナショナル建築であるとされてゐる。通俗的に說明する場合は勿論それで間違ひないのであるが、之を少しく立入つて文字の表現の內容を檢討するならば、新興建築と云ふ言葉の中にインターナショナル建築も含まれる性質のものである様に考へられて來る。逆に、インターナショナル建築とは國際化しつゝある新興の建築であるとも云へることになり相である。だから、インターナショナル建築と云ふ場合は形式も內容も共に共通な條件下に限定されて來るし、こんなものであるといふことも、タイトルによつて明かにされ得るのであるが、新興建築と云つたり、新興藝術と云つたのでは、はつきりした概念にまでまとまつて呉れない。從つて、それを使ふ人々の心持の程度や意識する態度の様様なまゝに、それへの解釋も様々であることになるのも止むを得ないのであらう。



エローン川の橋 (佛國プルーガステル)

けれども、現代の文藝、美術、建築のいづれにも新興といふ文字の冠せられたものは只の新しさと云ふものがあると云ふ以上に過去を抹殺しようとする意識的なあらはれが見えてゐる様に思はれるが如何か。

『新しき』と云ふことは只古きに對しての新しさであり、時代の差異を現象的に客觀した形容語の意味から餘り出てゐない。けれども『新興』と云ふ時には、新しく興つた力、努力、過去の形式から離脫する爲への鬪爭、と云ふ様な積極的な働きの暗示を受ける。

建築形式の上からは終に合致するとしても『時代の進展に伴つて國際化しつゝある文化に並行して發展する建築』と云ふ意味のインターナショナル建築を主唱する立場と、新興藝術の一つとして建築を主張する立場とは必然に異つた山の頂點から見てゐるものの様に思はれるが如何か。

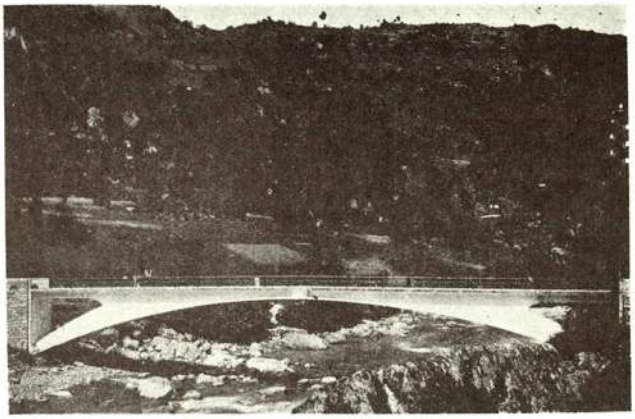
がしかし共に、時代の函數的要素を摑んで、建築構成の理論的見解への態度が一致して來ることはその終局から見て當然でなければならぬ事である。

時代の函數的要素を、確かに摑むことによつてのみ、眞に新興建築の理解に入り得る。だから、新しげな、或は獵奇味のある形式が新興建築の眞の姿ではない筈である。新味のある形式は時代の表皮に表れた一つの斑紋であるだけのものであつて、時代の象徵的な一つの現象とはなり得ても、時代に呼吸する生命が汲み取られてゐない。新しき時代に生きる者の血が脈うつてゐないでは、新しき流行的形式であるに過ぎない。

それは新興建築と呼ばれるものの眞の姿では決してないのだと思ふ。新しき姿は、何によつて生れて來たか、それを分析し、それを檢討し、認識されてこそ、新しげな影の形と、新しき力の姿とが見別けられるのではないのか。

新しき皮囊に、古き酒を盛るとか、古き皮囊に、新しき酒を盛れぬとか云はれるが、多くは過去の文化形式のカテゴリーの中で考へられてゐる思想であつて、それが時代を認識してゐることにはならぬ。新しき袋に古酒を盛らうとする考へが、現代日本の建築家の總意であるかの様に思ふとも、この點の錯覺から生れた謬想である。

時代とは時の動きに伴ふ生活の動き、その形式の發展、それによ



タバナサ橋（瑞西ガリソンス）

つて育成せらるる意識の働きであり、それ等の科學的な認識によつてのみ、時代に即する文化の建設にたづさはる指針が獲らるる。即ち、建築行爲の主體的變遷に關する社會性の認識、一般社會の經濟關係から規定されて來る構造材料手間供給の形式、それによる意識的發展、それ等は新興建築の時代的函數となるものでなければならぬ。

新興建築は新しき美を粧ふだけのものではなくて、新しき時代の生活に百パーセント應じようとする。更に新しき時代の生活形式をリードしようとする。そういふ動きは時代の基礎を爲す函數的要素から抽き出され、又あらはれて來る。であるから、そういふ認識のある者の眼には、古き皮囊のサケ目から新しき酒のこぼれ出ることが鮮かにうつつて來る。新しき科學の酒は古くコワ張つた樣式の囊から惜しげもなく流れてしまふ。

それは古き者と、新しき者との見解の相異ではない現實の認識と、謬想とのへだたりである。

從つて認識不足の立場からではいくら新興建築を呪咀して見ても現實の動きを病的な感情で支配出來るものでは斷じてないだらう。

某新興建築家のいふ樣に新興建築は動く。樣式建築は個定されたものである。新興建築は社會の動きにつれて動いてゆく。

そして形式的な新しげな新興建築の形骸のみが、過去の樣式と一所に殘されてゆく。

しかし現代では、新しき生命も、新しきロボツトも一束に新興の冠詞が附せられてゐる。合理と機能から創造せられる新しき形式美も表皮の美しき新鮮さを化粧で模造したものも、共に一つの範疇の中に見られてゐる。

何が眞の新興建築か、何れが、眞の新興建築の姿か、見る者の眼には、まどはしき限りでもある。

（二）

新興建築にはそれがよつて立つべき理論的な根據がある。インターナショナル建築にも實際の仕事の基礎となるべき思想と理論とがある。のみならず、過去數十世紀に涉る樣式建築にも、それぞれの思想があり、精神があつた。意識にまで上つてゐないまでも、精神のない仕事は樣式にまで發展してゐなかつた。

新しき時代——現代——の建築としての登場者にはどんな精神的基礎があるか。現代文化は科學文化である。機械の文化だ。そして又建築も科學的な理論を精神として發展しつゝある。

此世紀に於ては、すべてが科學的な討究を巡つて處理されてゆきそういふ時代の動きを否定することは、建築に於ても不可能である。建築も亦、科學的理論的な處理を受けつゝのび上つて來た。

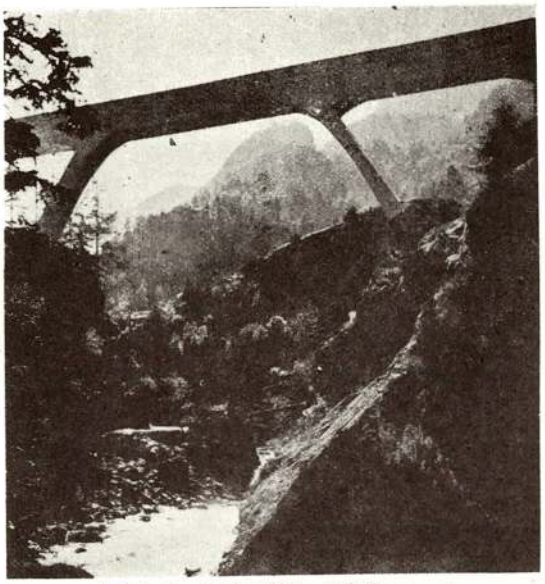
建築を構成する精神的な側面からは、機能主義が叫ばれ、工學的側面からは、合理主義が要求せられる。又社會經濟の立場からも合理、機能を强要されて來る。それは最も必然な建築的發展の動力である。

過去の歷史的建築も今は古美術として、時代のついた美しさにのみ、その生命をとどめてゐるものも、それが建てられた時代の文化の中では、生き生きとその生命の機能と合理とを誇つたものであつたに違ひない。時代の生活樣式、社會關係の動きの間から生れ出た建築は、その時代の文化の中にのみ生き長らへることが出來る。しかもその文化の具體的な表象として、後世にまで歷史的價値をも保つことが出來る。

天平の建築は、奈良朝文化の華として現代にまで賞美されるが、天平の昔に於ては、形式美のみに

精神的、信仰的な機能が求められたのではなかつた。都市文化の權威の象徴ともなり、社會施設的な動機をもつものもあり、あらゆる當時の社會生活、政治經濟の中に織り込まれた糸のあやであつたと云ふことは明である。

希臘の建築も然り、伊太利の建築も然り、スペイン、アメリカの建築も然りである。それ等は漠とした大衆の喜びを目あてにするものでもなく、建築主個人の希望から出たものでもなく、政治的な力こそ、主要な條件を決定し、施工せしめたものであつたのだ。歴史建築の著名なもの、それは現代に於ては一個の美的存在としてのみの形骸であるが、それが建築としての存在ありし頃は、美しき姿の文化支配者であつたとも云へよう。中世紀の西洋に於ても、宗教は政治力を共有したが爲に、現代の資力が政治力を有すると同様に建築の機能を支配し、それの存在を、その機能の意味に於て價値づけてゐた。



シヤトラールの水道橋 (ーレバ西端)

現代新興建築の機能主義は、之を更に強調し、意識化したものである。國際的資本主義の發達した社會は當然に此社會の政治力の下にその形式に適應する文化形態を作る。建築もその一つである。世界經濟の活動の機能に百パーセント順應する建築形態それこそ、現代新興建築の機能の主體となるものである。アパートメントの勃興、最小限度の住居、簡素なるコンクリート構造形式、日本木造茶室の手法の應用による簡素なる美的効果の追求、等々、それ等は、同じく世界大資本社會の一面にあらはれる現象に對する施設的動きが、機能化されて建築の中に盛られて行くのである

それ等の機能の強調は、現代新興建築の特色であり、又同時に現代社會の生産形態の特徴でもあるのだ。新興建築の機能は、都市の家庭生活様式の簡易化が先づ一つの目標、世界的商工業取引の爲のビルディングと銀行と工場の能率高度化がその二つ。斯くして新興建築は、此等の强度化された機能を極度に追求すべく建てられてゆくが、此高速度の事務化された生活から短時間に解放され慰められる設備としての享樂機關の建築機能も亦第三に求められて來る。カツフエ、ダンスホール、スポーツ競技場、そう云つたもの〻大規模な組織の要求。建築の機能的見解による新興建築の動きはそれ以上に出てゐない。けれども、それ等の機能的高度化は、構造的工學的合理主義の發展と相俟つて、新しき建築の形式を必然的に作りつ〻ある。構造の合理性の追求も亦、現代新興建築のみの特質では決してない。

國際的に文化の發達を見ない昔に於ては、世界の各地方、それぞれの自然に順應して、それぞれの土地の産出による建築材料を以つて、最大限の工學的知識と技能とによつて建築することは當然であつた。バビロンの聖壇は日乾煉瓦と彩色タイルで積み上げられた。エジプトの神殿は大きい切石で積んだ。イタリー、ギリシアでは大理石を愛用し、又主要材料とした。ゴチツクの寺院は小さい石片をつみ重ねて作つた。しかし此時代には、歐洲各國にゴチツクの建築文式が普遍化し、様式的に國際化を來した爲に、遂には、形式的には共通し、構造手法や、細部裝飾模様に於ては地方的なものをもつてゐた。日本に於ては木造を唯一の建築構造手法とし、その形式は世界稀に見る洗練の高度を示した。

茲に天候、地質等の風土的條件並に社會の經濟的關係に、何等拘

束を受けない場合を想像するならば、建築程、樂な仕事はないがしかし實際に於ては、寧ろ、その逆であつて、その拘束をうけ、牽制をされる爲に、却てその構造機能、更に形式美の上に洗練が加へられ、遂に地方的特色をもつ形式、時代的特色を一つ樣式も生れて來るわけである。

新興建築の構造に於ける合理性は經濟的能率の高度化に從ふ工程材料の節約、あらゆる强度の最大應力をもつ材料の選定、之を主眼として進む爲に、現代のそれは當然、鐵とセメントとの構成に力がそゝがれて來る。

即ち鐵骨、鐵筋、コンクリート構造、架構形式による力學的構成、出來得る限りの輕構造への躍進、一般工學の進展が、鐵の應張力度、セメントの應壓力度を更に高く許容出來るまでに、それ等の製造技術を高め、もつともつと生産率が上つて、經濟價格が下げられるならば、新興建築の合理性は更に飛躍して、構造形式建築樣式も亦更に變化するに違ひない。現に第一材料の鐵、セメントに次ぐガラス板の製法の進歩によつて、ガラス板は窓としてゞなく壁材料、更に床材料に進出し初めてゐる。それは新興建築の變態的現象だとのみ見られやうか。

單なる形式的新奇を好む、新しいロマンチシズムとのみ解釋すべきだらうか。

或は試みもあらう。或は好奇的な手法もあらう。材料生産の異常な進歩にセンチメンタルな感情も手傳つて單に禮讃的な使用を爲すものもあらう。が、それを以つて直に、新興建築の合理性追求の一大動向を否定することは出來ないと思ふ。新しき建築構造の合理化された眞の姿は、未だ懷疑的な建築家の胸には、不安の幻であるに過ぎぬかも知れない。飛行機の形式は忘想から、恐る〳〵合理的な姿の印象を遂に獲得した。鐵もガラスもジエラルミンも、古いカテゴリーの花園の安逸の中から眺めるのでは結局、下品な道樂にしか見えぬであらう。

新興建築の理論的見解は、一に機能主義的見解、二に合理主義的見解である。共に經濟的條件、風土的條件によつて決定される。

(三)

新興建築の形式は、自働車と飛行機の形式と、內容的に共通性を持つ。飛行機や自働車や軍艦が、上品でもなければ下品でもないのと同じに、新興建築の眞の姿は上品でも下品でもない。飛行機や軍艦がその形式を特に尖端的にしようと考へるのでないと同樣、新興建築も、よく云はれる樣に尖端形式でも何でもないのだ。

新興建築の形式は、一に機能型であり、二に合理型である。

又一面 經濟型であり、風土型でもある。インターナショナル建築の形式の要素は玆に於て一般新興建築と共通となる。又、新興建築の形式は、右の合理、機能の型の純化への强調である。思想的にも構成技術の上からも、形式の些細な點すらタルミを許さない。緊張した美の獲得を主張する。コンクリートの地肌を表した仕上げは合理型の形式であり、それを壁と窓と柱と屋上床版に區切つた四角の構成も亦、經濟型の合理型である。がしかし、若し、之に日本瓦をパラペツト上端に並べて、柔か味を得たと思ふならば、それは錯覺である。屋根と空間の緊張した區切りの美しさを、故意にタルマセたが故である。全傾向、全主張に裏切るエレメントが散見する程不快なことはない。が現代では、否現代日本の建築界では未だ、それをも新興建築であるとする傾がないでもない。

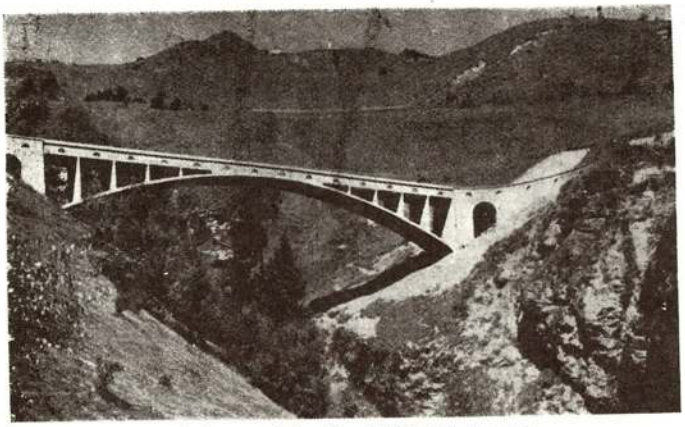
建築の形式を見る眼と、新興の機械美を見る心とは、日本人の中に、未だに矛盾を殘してゐる。

新興建築の形式美は、樣式美の樣に既成の型をもつてゐない。それを既成の建築美の判斷力、或はカテゴリーから見てゐるならば、何時迄經つても、新しき美はわからぬ。と同時に、日本の茶室や、民家の眞の姿のよさをハツキリ知ることも出來ない。と云ふのは、木造の茶室建築は澁く上品で、鐵やガラスで同じ感覺に徹したものでも之を下品だ、と一概に觀念してしまふ樣なナンセンスすらあると云ふことであるからだ。

新興建築の姿には緊張した線の他に何者もユトリがないかと云ふにそうでもない。建築のすべての細部迄、科學的な理論と、工學的な處理によつて出來るとは考へられぬ。それは時代によつて、段々

とその方向へ進んでゐる筈ではあるが、現在に於て、ドツチデモヨイ、と云はれる部分が澤山に殘される。例へば長い横窓でもよいし四角い窓でもよいと云ふ様に他の理由から拘束されぬ形式の局部が多々ある。之を何によつて處理するかと云ふ問題が一つの大きな未定系數として殘されてゐる。

そういふ部分の構成が、或程度迄、主觀的に或は個性的に取扱はれてゐる。



パルシールバツハ橋（瑞西ガリソンス）

けれども、それも、全體の緊張した工學的構成の基調を破る様なものや、矛盾する様なもの、つまり、ダラケタ裝飾や、餘りにも時代離れのしたエレメントをつけることは、新興建築の形式を破壞にみちびくに過ぎぬ努力だと思はれてゐる。

之まで、インターナショナル建築の立場にある建築家ですら、個人の作風や個人の主觀を、やゝもすると、主張したがつた傾向もあつたのであるがそれは新興建築家として如何なる立場にあらうと、眞の建築の進路への逆行である。であるから深い個人主義を通して新なる、普遍的な思想にまで飛躍することに於て、初めて、朗かな新興建築の形式に徹し得られると思ふ。

その心境に於ては、藝術的個性、藝術的創作、日本趣味、東洋趣味、さては國際趣味等々を超えて、誠の建築的美を獲得することが出來る。

建築の形式は趣味によつては斷じて正しく表れない。再び云ふが趣味は鑑賞者の感情であり主觀であり、第二義的に、作物に對して後から勝手に感ずる感情である。趣味は賣り物にも、看板にも、標語にもならぬ。個人感情であるからだ。

新興建築は新しい趣味の形式の建築では決してあつてはならない。

インターナショナル建築も勿論同様で、國際趣味に流れてはならぬ。

若しギリシアのパルテノン神殿を『あの家はギリシア趣味の建築だ』と批評するものがあつたとしたら如何うか。

又、唐招提寺の建物を『あの寺は美事な天平趣味の建築だ』と云ふものがあつたら如何うだらう。

新興建築の形式は、否、すべて過去の歷史建築の形式も、趣味から規定された形式では斷じてないのだ。

相當な建築美が、趣味から規定されると考へる愚が、若し今の世にあるとするならば、ナンセンスの極致であらう。

新興建築に趣味を求めやうとすることも、亦、愚の骨頂である。

新興建築の形式は、必然的に構成さるる機能型、合理型の感覺的鉄錬の結果であるのだ。

往古、木造しかなかつた日本の建築は、機能型、合理型の感覺的鉄錬の結果、茶室の様式を生んだ。

しかし、その機能も合理も、現代のものでなく、現代生活には遠くなものとなつて來てゐる。現代生活の容器としての建築は、機能も形式も、新興建築によつてのみ滿され得る。新興建築の形式を、枯れ果てた花園からのぞき見て忌避するものは、即ち現代生活を忌避する所以であらねばならぬ。

建築界の流れに二つの形式があるわけではない。樣式建築と新興建築と兩立して、建築主の好に應じて、取捨されて行くべき性質では決してないのだ。樣式建築を踏襲した時代もあつた、しかし今は新興建築、或はインターナショナル建築に變遷しつゝある時代なのである。そこには個人的主觀は許されぬ。一部の建築家の教養時代になかつた形式をもつ建築が生れて來ても驚いたり、歎いたりする

には當らぬ。何故ならば、世間は流轉するからである。生物は生長するからである。新興建築家は枯れた花園に、華かなりし頃を忍ぶものを敢て止めようとはしない。しかし、折角のびかけた麥畑の芽をムシルことは、愼しむべきことであらねばならぬ。麥の芽は青きが故に成長する。青い色が氣にクワヌならば、見ぬが萬全であらう。

新興建築の芽は、華かではなくとも、スクスクと延び上り、やがて實を結ぶであらう。青い色は、必然的な色であり、それを感情で厭ふことは詩の世界に於てのみ容れられやう、新しき材料、從つて新しき構造法、遂に新しい形式、そしてそれを美しと見る新しい時代の心、それは麥の芽の青さである。

新興建築の形式は機能性と合理性との理論的根據から建ち上るべきものである。

（四）

新興建築の形式が單に形式の爲の形式として作られたり、趣味的迎合の爲に作られたりせぬ爲に、建築施工（設計を含む）が極めて科學的に進歩する。それは建築事業の當事者にとつて、又之にたづさはる者、社會の全關係の分野を、合理的な好結果に導くものである。

『あゝでもなし、こうでもなし』と一つの剖形をトレーニングする時間は、科學的合理性の問題に向けらるる。あらゆるエクイップメントの配管配線は、合理的に、又機能的効果を充分に豫想して素直に施工さるる

古きスタイルや、個人的趣味の犧牲となつた空間構成體に對しては、あらゆる遠慮——意匠上の外觀について——とあらゆるヤリクリの構造によつて、辛うじて設計が成立する。あらゆる配管配線の露出を厭ふ心理は、暗い部分を明る味に出すことをキラウ心理である。配管配線を保護することは勿論必要であるが隱蔽することは修繕にも不便であるのは明である。それを如何に便利に隱すかが、現代のアメリカ建築家の樣式建築に對する發明である。がしかし、それは、觀念の置所の問題なのだ。配管配線が露出されても、その配置が合理的であり、保護が確實であるならば、却て、新しき美を感ずるに違ひない。

之等科學的設備、構造を使役して古き樣式の全部又は局部を表現するのがよき建築の方針であると考へてゐるのも亦錯覺である。

新興建築の立場から云ふならばそれ等の科學的處理は機能であるが故に、それに添ふべく形式をととのへることとなる。

順序が逆である。

プランが出來てエレヴエーションを藝術的取扱に於て考へることは間違ひである。プランとセクションに對して、すべての機能を盛り上げて初めて姿をととのへることが出來るわけである。從つて、剖形や裝飾文樣を全々必要としない爲に、それをアレヤコレヤと考へる無駄を要しない。

建築にたづさはる者も、建築主や建築家の主觀から趣味的に、度々の變更をうけ、あらゆる不經濟を忍ぶ必要もなくなつて來るわけである。建築家としての態度も、亦朗かである。

何を苦んでまで、昔の職人の足跡をトレースする必要があるか。と云ふことになりはせぬか。

昔は裝飾に向けられた時間は、今、オウデイトリアムの音響の研究にも向けられやうし、採光測定の豫猶も出來るわけであらう。

最も合理的なる形態へ、機能的な表現へと發展しつゝある新興建築は、建築家の主觀的な意識を一變して、共同的な觀念によつてよき文化へと努力をつゞけることとなるであらう。

（五）

新興建築の形式は、更に他の文化に相互的に影響助長する。

機械が發達し、更に産業が發展し、又新しき交通機の發明を見るが如く、又而して、新しき機械の形式は新興建築の內容にまで動力を與へた樣に、逆に新興建築の形式は、新しき汽船、飛行船のキャビンに發展する。

更に繪畫に寫眞に、或は工藝に新しき形式を附與する。

斯くして、新しき形式美は、世界的に世界人の美意識を作りつゝあるのだ。

すでに店頭裝飾にも、小工藝品にも、新しき建築の構成美の影響を多大に見出すことが出來る。又

商業價値の限界

村野藤吾

工藝品、家具の如きは、形式からは勿論その傾向をとりつゝあるが又合理性、機能性の見解が加はり、或はその理論的根據から、建築の發展と同じ徑路を辿りつゝあることも、又新しい文化の動向と見ることも出來やう。

更に服裝、日常生活の樣式、言語形式に到る迄、眞面目に社會を考ふる者の間には、同じ一つの動きを觀取することが出來る。

只此廣汎に涉る文化の動きの方向に於て、何が合理的であり、何が機能的であるかの解釋に、多大の開きがあらはれることをいなむことが出來ない。茲に於て、甲の合理的と思ふ事柄、必ずしも乙の合理性でない場合もあらう。けれども、此大きな一つの世界的の流れは、地球上の東の一角に立つ日本の岸邊にも、すでに滔々と打よせてゐる思想であり文化である以上は、甲個人と乙個人と、或は甲建築家と、乙建築家との些少の觀念的見解は度外視して、最大公約數であるべき、普遍的な正道に投ずべきであらうと考へる。

此稿、締切間際に短時間に執筆致したる爲、茲に未定稿として發表させて戴くこととしました、從て、文中の意味のアイマイな點や、讀みニクイ點は御許しを乞ふて、擱筆します。
一九三一年六月十七日 筆者

見方によつては色々の價値が建築にもあるにちがいない。あるとすればどんなものか。

答へ方によつて種々の態度が生れて來る。

今日のところこれ等の態度はみんな夫々存在の理由と權利とを持つて居る樣でもある。

○

或る批評家が、鐵骨石造の樣式建築を無價値だと主張したとする。

今頃鐵を骨にして石の柱をおつ建てる奴があるものか!。

ローマにはそんな建築はなかつた筈だと主張したとする。

御尤も千萬!。

ローマにはそんな建築は一つもなかつた。

なかつた!。

なかつた!!。

やつぱりないものはない筈だ!。

すると、此の建物はローマの時代の建築でないこと丈けは明かになつた。何だか、ローマ風には見えてゝもローマ建築でないこと丈けは確實である。

こんな問答なら十九世紀以來いくらも繰返された。

だが。

なぜ、こんな建築が建てられなければならないかと云ふ事については、そう簡單に云へるであらうか。

執ように此の建築がローマの建築だと主張する人があつたら、その人の意識が現代人でない事丈けが明かになりはしないか。

僕はパラドツクスを云つてゐるのではない。

すると此の建築の價値は?。

沒落資本主義の……。

待ち給へまだ殘つてるものがある。

構造は!。

ローマには鐵骨石造がなかつた筈だ。

だから此の建築は虛僞であらうか……と反問して見る。

だが。

嚴として石と鐵との組合せである。

それなら此の組合は不都合であらうか。誰れが此の構造を虛僞だと斷定する權利があらうか。

科學的でない。進んだ科學的ではないと云ふかも知れない。

而し。

進步した時代だからこそこんな建築がやれたではないか。これは強辯だらうか?。

成程。合目的、生産的、國際的、などと、いくらか實證的な、科學的な、近代的な批評があるにはある。

而し。

コルは勿論、コルの亞流達は一歩もそこから出て居ないではないかいくらか近代的ではある。而し。自然科學と同じ樣に、只建築の近代的な美學丈けしか云つては居ないではないか。

そして價値については一歩も。彼れはいつも、食べない前から林檎の甘さを主張して居る丈けが異ふ丈けだ。

だが。吾々はいつでも、勝手にそこから必要な價値をエリミネートする事が出來る。

こんな事を書いてくれば際限がない。凡そ。こんな建築がいけないと云へる丈けの斷定について、又それと同じ數の疑問が呼ぶ樣だ。而し、

いけないと云ふ理由はまだ決らない。

○

宜しい。

それは雜作もないこだ！。

コルの作品と此の建物とを並べて見るがいゝ。

おまけに、コルのすばらしいお題目も。

『今や素晴らしい時代が始まつたところだ。

新らしい精神が漲つて居る。

この新精神の籠つた多くの作品が存在する。それ等は工業生産に由來する。

建築は因習の内に喘いで居る。

所謂「樣式」なるものは虛僞である。

樣式とは一時代に屬する凡ての制作を活かし特徵ある精神狀態から發生する根本原理の統一である。

現代は日一日と我々の樣式を定めつゝある。

吾人の眼は、不幸にして、これを鑑別し得ない。』

成程！いゝ詩ですな。

……。

ちえ！馬鹿にしてらあ。

あの薄つぺらな銀行に大切な金が預けられるけえ！。

○

僕は、純理的であるのにもかゝわらず、これをいくらかカリカチユアライズしてゐる事と思ふ。

だが！。

百人が百人共大衆は同じ結論に達するであらうか。誰れがこれを實證し得る權利があらうか。今のところ、大衆は何を感じてもいゝ樣に、價値についても亦何を判斷してもいゝ筈だ。

而し。

と唯物論者は云ふ。

階級的には一致してゐるではないかと。

それならなぜ、ヴエスニーンはモスコーの商業所に不必要なプレートガラスを用ひたか？。ガラスのロマンチシズムと云ふ美名（？）は？。

吾々はなぜタイルを、色を、形を觀念しなければならぬであらうか。

それなら、此の建築は蓄積資本の代表だとしたら。

○

僕は遂に、最後になつて、イデオロギーの問題にたどりついたと思ふ。商業價値の問答も亦此の邊で打ち切つてよからう。

いくらかセンチメンタルではあるが、僕は最後に次の文句を加へる。

個人主義的、自由主義的イデオロギーが行き詰つて、社會主義的のそれへ移りつゝあることを考へて見ると、その變革の容易でないことを感ずる。政治的の意味ならもつと直截にやつてのけられるかも知れない。

而しながら、吾々は今日、せおひ切れない程の遺產をせおつて此の革變にのぞもうとして居る。決して容易の業ではないとを感ずる。

一つ、一つ、あるものは淸算し、またあるものは次の段階にしまい込まなければならないかも知れない。此の驚く可き事業がしかく容易に行はれるであらうか。吾々の惱みも亦そこにあらう。如何なる科學者にも劣らぬ程の熱心さで深く深く究められねばならぬであらうが。

人はコルの建築と共に、たとへば、此の鐵心石造の、樣式建築の前に立つても亦謙讓と嚴肅の氣持ちを失つて良いであらうか。私の考察は不足であるかも知れない。（了）

訂正

六月號法學士山下壽郎氏御執筆「建築施工契約制度に就て」の五九頁最下段右より十二、十三行中

又弊害を妨げる……妨げぬ……」を

「防げる……防げぬ……」と訂正致します。

新興建築材料としてのアルミニウム (上)

葛野壯一郎

——加工の容易なる事、輕量な事及び其色澤が時代の嗜好に適するの故を以て、建築材料殊に裝飾材料としての最近歐米に於けるアルミニウムの進出は注目に値するものが有る。吾國に於ては尙一般には知られて居ない様で有るが、近く日本アルミニウム製造所に於ても建築材料としての進出が計畫せられて居るやに聞いて居る。ジュネーヴ版のレ・プログレ・ド・ラルミニウムを譯載して一般の參考に資するのは今日の場合決して無駄でない事を信ずるので有る——。

『レ・プログレ・ド・ラルミニウム』なる標題の下に發行されて居る此研究書は、アルミニウムの用途が既に充分確立せる工業の各種部門と、並に尙ほ現在實驗中なる方面をも合せて詳論して居る。極く最近迄アルミニウムは唯工業價値を持つて居るに過ぎない一つの有要なる金屬とのみ思はれて居た爲めに、此研究書も單に工業及商業上のみに關係して居ると考へられるかも知れない。然し今やアルミニウムは其獨持の性質に依つて裝飾藝術の將來に於て主要なる役割を演ずるに適して居る事が分明となつて來た。

爰廿五年の間に、殊に歐州大戰以後、全世界に涉つて社會に一變化が齎らされた。其結果裝飾藝術にも、藝術家と技術家との密接なる共同研究に依つて特色付けられ且容易となつた一つの共通變化が生じた。

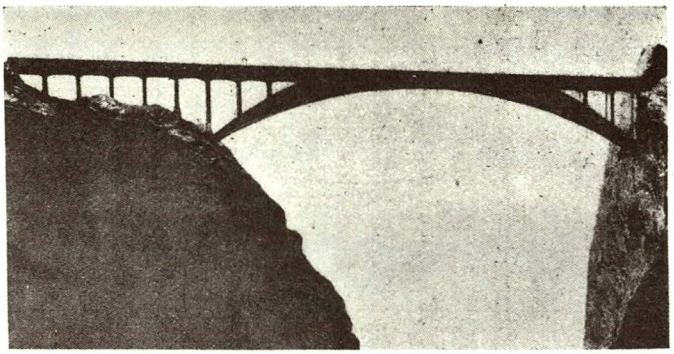
近代藝術は奢侈の要求に對すると同樣に、上品にして愼ましやかなる生活事情に適應するやう其特徵にも變化が無ければならない。又藝術の効果は常に最も經濟的な方法に依つて獲得されなければならぬ。

一つの物、一塊の金屬、一片の木材に就て、其れに藝術的價値を與へ藝術家の推賞に價する性質又は特徵の一つは其の光澤、其色合又は其琢磨性で有る。然し此琢磨は永續せず、色澤は消失し、木材の如きは所要の目的に役立たないし金屬は銹びる。

裝飾の近代的効果を得る爲めには常に專門的考慮を運らす事が大いに必要で有る。元來裝飾用の材料は專門的性質を多分に具備する必要が有り、殊に職人の藝術的熟練が減退しつゝ有る現在にあつては一層大切で有る。實に美を憧がるる欲望の强烈なことは今日と雖も毫も昔日と變りは無い。唯其れが格一的となり標準化されたに過ぎずして是れが爲めに美が昔日より反つて一層容易に實現し得られる樣になつて居る。然して材料はより加工し易く、より良き結果を與へ得るものなることが必要とせられる。

近代の裝飾家は金屬自躰の性質に調和したる單純な型態と見えを張らない意匠とに依つて加工したる金屬を使用して、美の一新要素を創造した。昔日も職人は金屬を使用して居たので有るが、然し所望の裝飾的効果を得る爲めに、彼等は餘りに錯雜し餘りに纖細なる意匠に依賴した。今や金屬の線自體に單純美の存する事が認められ是を結合する事に依つて其表面の光澤の効果を引き立たせることが出來る。

吾等は稍皮相の時代、スピードの時代に生を享けて居る。其れは出來得る限り明確に精密に根本的要素を表明せんと試みる。比較的最近に發見された白金屬は、斯かる表現に理想のメディアムなりと多數人に考へられて居る。此白金屬の中、今日最も廣く使用されて居る物は即ちアルミニウムで有る。色は銀に似てプラチナムの如く稍帶青色の暈が有り、其仕上方



（スヰス西瑞）ザルジナ•トーベル橋鋼型

法の如何に依つて各種の色調を帶びしめる事が出來る。アルミニウムの表面を研磨すると帶青色暈は次第に明らかとなり、面に於ける光線の反射能力が一層強くなる。サンドブラステング（砂の吹附け）にて仕上た物は此反射能力が減じて、艶消し硝子に似たダルフィニッシュ（曇つた仕上）となる。カーボランダム飛沫に依る仕上法、或はアノディック•コーテング（陽極塗裝）に依る時は灰鉛色調を帶び、金屬刷毛にかけるか或は金剛砂で磨擦する時はサテン•フィニッシュ（繻子仕上）となる。其れはローマン•ゴールドが金に對すると同一の關係を普通のアルミニウムに對して持つ物で有る。

吾等が近代藝術及び近代建築藝術が裝飾の目的に對して金屬を使用する場合、如何なる性質が要求せられるかを考へる時、アルミニウムを置いては他により完全に一層より申分なき性質を具備する物は他に無い事が明らかとなる。近代趣味は銀及び金、ニッケル及び銅に於けるけば〳〵しき調子や華麗な色彩に厭きて來た。アルミニウムは帶青白色にして、合金素材の量を加減する事により濃淡自在となる。又明るい光澤からサテン•フィニッシュに至る迄容易に光度を變化させ得て然も其光澤を保久し得る。各種のロールド•フォーム即ち板金、帶、構造型體及び管等の形にて、アルミニウムは藝術の現代的傾向の特徴で有る明快なる線を表はす事が出來る。又彫像、薄浮彫及び建具金物に於ける如きキャスト•フォームにては型の極く微細な點迄現はし得る格好な材料で有る。純アルミニウム又はアルミニウム合金は啻に外觀上裝飾的なるのみならず、近代裝飾金屬に必要なる各種の性質を具へて居る。

冶金學上の性質から考察するとアルミニウムは疑ひも無く建築に必要な諸性質を具備して居る。容易に加工しモールドシリヴェットシウエルドし得る爲めには、其れが脆弱で無い事が必要で有る。今や工業に用ひられるあらゆる金屬中アルミニウム及び其の合金の或物が是等特別の要求を充たし得る性質を持つて居る。即ち軟弱の狀態に於て加工し得て、而も最後の形態に於て物理的抵抗力を持つ性質で有る。如何なる裝飾材料と雖此性質を欠けば役立たない。

近代藝術は單純なる線にて其特性を表現する故に、選ばれた金屬は容易に加工し得られる物で無ければならない。又金屬の選擇には使用し得る形態の多様な事を必要とする。恐らくは白色、黃色、赤色又は灰色の金屬にしてアルミニウム程種々異つた形態にて加工し得られる物は有るまい。アルミニウムは板金、薄板、角棒、丸棒、線條、ジョイスト、構造型體、サンドパーマネント又はダイカステング、フォージング、スクリュー、リヴエットとして生産せられる。各部分熱加工も亦冷却加工も自由で有る。商品としてのアルミニウム及び其の一層簡單な合金は鋼鐵及び靑銅よりも更らに大なる粘性を具へ、其結果何等破損する事無しに大なる歪みに耐へる事が出來る。又中間の熱操作をせずして多數の連續的フォージングに堪え、且つ合金の各狀態に應じて各種の展性度を示す。

アルミニウムの熱加工に於て主なる要素は溫度で有る。此要素は明らかに生産される型態如何に關連するが、而し一般には金屬が其伸展度を得可き最高溫度を表すのである。普通鋼鐵の加熱操作に用ゐられる裝置はアルミニウムの加熱加工にも使用せられる。實際此金屬の熱加工は元々鋼鐵の作業に造られた工場で行はれて來たので有る。

アルミニウムの構造物の各部分

はウエルデイング又はリヴエツテイングにて組立て得る。半田附は濕氣に直接當らない表面の瑕を被覆する場合の外は推奨出來ない。半田附せられた繼目は抵抗力弱く若し此繼目が濕氣に合ふ時には恐ろしき電氣分解作用を起すので有る。今日行はれて居る鎔接方法としてアーク・ウエルデイング、トーチ・ヴエルデイング、スポツト・ウエルデイングが完全にアルミニウム及び其合金に應用し得られる。緣端を接合するフウジョン・ウエルデイングは普通アルミニウムの薄板に應用せられる。鑄物はウエルド・ロツドとトーシュを使用するか又は鎔接の部分に溶解金屬を注いで鎔接せられる。

アルミニウムの構造物を鋲からくりする爲めにはアルミニウムの鋲又は鋼鐵の鋲が使用せられる。鋼鐵鋲は鋼鐵構造の普通の裝置を用ゐて、アルミニウム板に加熱して打ち込まれる。鋲の熱は周圍の板に何等惡結果を及ぼさないが、然し出來得可くんば機械打ちとして熱度の高まるを防ぐ必要が有るアルミニウムの鋲は樂々と鎚で打ち込む事が出來る。然し同金屬の或特性の爲めにアルミニウム鋲打込作業は鋼鐵の其れとは稍異なるアルミニウムは力の吸收力大なる爲め同徑の鋼鐵鋲に要するよりも一層大なる鎚を使用しなければならぬ。實驗の結果に依れば壓搾方法が最もアルミニウムに適する事が分つたアルミニウムの加工過程は適當の器具を使へば毫も困難で無く容易に加工し得られる結果實に經濟的である。此事實は同金屬を他の重金屬類に比較する時特に著しく分かる。アルミニウム用の裁斷機は鐵用の物より長いカツテイング・エツヂを持つ。鋭く尖つた緣は斷面をオイル・ストーンにて磨擦して得られる。多くの場合是等の器具は硬質木材に使用する物と少しも變りはない。一般には急速に且つ絕えず給水して切斷するのが最良の結果を得る方法で有る。

アルミニウムの强度は單に物理的性質に因るのみならず、化學的性質にも歸因するので有る。アルミニウムの合金は現に大氣及び煤煙の侵蝕に抵抗する。其れは貴金屬に於ける場合と比較し得るので有る。他の金屬即ち靑銅とか鍛鐵の如きが、雨に打たれて石或は大理石面に錆や綠靑の見惡しき條痕を止むる如き場合でもアルミニウム合金は、如上の特質に依つて建築の前面の鑄造薄浮彫其他の裝飾意匠に適應する。

ロールド・フオーム及び鑄造に於てアルミニウムの得る高度の光澤は塵埃や汚物の推積する機會を無くするのみならず、假令推積しても降雨が其表面を洗滌すると再び光輝燦然たるものが有る。通常金屬の大氣中殊に惡天候に曝されて生ずる酸化作用は、恐る可きハンデキヤツプで有る。此酸化作用は外觀を損するのみならず、同時に雨の作用に因り生ずる可溶性着色鹽類のため周圍の材料に長い條痕を止めて其外觀をも損するので有る。此救治の唯一の方法は其金屬面にペイントを塗附するので有るが、此ペイントの塗附は度々塗換へを要する爲めに次第にペイントの層を生じ遂に浮彫の効果を損する。加之塗換へには費用を要し且つ見苦しき足場を要するので有る。亞鉛の如き酸化作用の鈍い通常金屬には、近代藝術の金屬に要求する光澤輕快等の裝飾的性質を毫も具備して居ない。(未完)

フリッツ・ヘーゲル氏の近作

村野生

最近(ヘーゲル氏より送られた寫眞(挿繪參照)によると、兼て建築中のシユプリンケンホフの建物がいよ〳〵完成したらしい。僅か一年もたゝないうちに、ハンブルグの海岸通りは立派なビルヂング街に改造された事であらうが赤黑い煉瓦張りのビルヂングや、倉庫斗り居並んでるあの附近を考へると

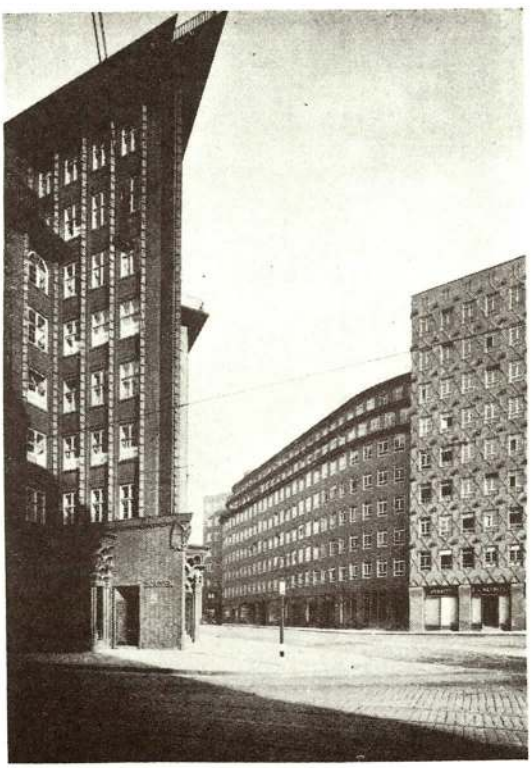




何となく「花」があつて欲しい。

有名なチレーハウスが此の附近の中心と云つてもよく、それと向ひ合せて此の建築が建てられて居ると、氏一流の手法が、見る人にも歩く人にも異狀な壓力を感じさせる。

ヘーゲル氏の作品を、殊に、斜めから氏の手法を見てると、まるで熱情と精力の昏倒を感じるし、どす黒い、謂はゞ、獨逸的な神秘さがうかゞいよる様にも感ずると評したことがあるが、一躍天下に美名をはせたチレーハウスは勿論のことお得意の煙草工場などを見てると、何かしら壁の全面がキリキリ舞をしてる様である。そして、氏は自分の意匠に必





新興建築座談會

石川純一郎
高橋榮治
中西六郎
本間乙彦
小川安一郎
永澤毅一
長谷部鋭吉
村野藤吾（五十音順）

要な材料を氏獨特の手法によつて用意して居る樣だし、何かにつけて特異な感覺を持つてゐるらしいところは、一面、氏の藝術家としての强さがうかゞわれる。彎曲した窓硝子や、鐵色のブリックが時として金箔をなすりつけられて居るのを見るが、一體に、大膽で奔放で、精力的とでもいおうか、將に氏の風ぼうに接する樣である。氏に於ては、合理、科學有機などゝ云ふ樣な近代建築の合言葉は俗論であるらしいそして、氏は將に、氏獨特の合理と、有機と、科學とを持つてゐる樣にも思われる。ハンブルグ アメリカン ラインの建築にも關與したと云へば、氏は北獨の商卑地、ハンブルグの商勢に相應しく、建物に商業的な價値を觀念する點に於てはメンデルゾンなどとは異つた味があることは勿論である。かく書いて行くうちに氏の存在は僕等が考へてる樣な獨逸的な明快な建築的傾向とは別に獨自な地位にあつて自分をすてない樣である。表現派と一口に云てしまへるかどうかは知らないが、氏の事務所が殷盛をなして居る原因も亦そこにあると云へよう。

本間 一寸御挨拶を申上げます今晩は皆さん御多用中の所わざわざ遠い道を御出で下さいまして大變有難うございました。實は今晩の催しは、協會の雜誌建築と社會の七月號を新興建築號として出すことになつてゐますので、この新興建築について、皆樣の豐富なる御見聞、御意見をいろ〳〵と承はりたくつてお集まり願つたやうな譯でございます。どうぞ成べく最近の歐米御旅行中御覽になりました又は御氣附になりましたお話をお聽かせ下さらん事をお願ひ致します。さうして座談會の形式としまして司會者を一人選んだ方がよいと思ひますが——僭越ではございますが、私から指名さして頂きましても宜しうございませうか。

小川 そりや差支へないでせうどうです……

本間 實は葛野さんがけふお見えになる筈だつたんですが未だにお見えにならぬものですから豫定が狂つたのです……

中西 私は別にそれに對して反對はありませんが、協會の方で——主催者の方で司會をして頂いたらと思ふのです。たゞ夫れだけの御注文であります。

本間 それでは主催者の側としましては、村野さん、高橋さん、私の三人なんでございますが、村野さんは最近お歸りになつた許りですからお話して下さる方に廻つて頂きまして……

村野 ぢやけふは御招待の方に廻りますかね。（笑聲起る）

本間 では高橋さんに一つお願ひしたいと思ひます。

高橋 つまり進行係と言つた譯ですね（笑聲）……それぢや私進行係を仰せつかりまして——何ういふ方法で始めますかね。

本間 今も一寸考へましたのですが、初め旅行の時と同樣に或方面を定めまして、例へばシベリヤから歐羅巴を通つて、アメリカへ廻るとか、逆にアメリカから歐羅巴へ廻るとかいふ風にして、成るべく新しい建築物なり傾向なりの視察談を先きにお聽かせ願ひまして、それからそれを一括したやうなお話に這入つて頂いたら如何ですか。その方が順序立つて宜いと思ひますがね。

村野 さうすると先づ日本を出發點として、シベリヤを通つて段々移つて行きますかね。

中西 シベリヤに新しい物が無かつたら何うします。

小川 イヤ、それよりか散漫と何か話すことにしたら。つまり自分は何所〳〵を廻つて來たけれども、その中で何所が一番良かつたとか、この國に新興建築が發達してをつたとか、或は何所が我々の豫想以外に良かつたとか、拙かつ

たとか云つた風に、散漫と話した方が良くはないでせうか。何うでせう。餘り順序立つと厄介ですよ。

村野　それが、進行の模様で、アメリカに飛んだり、シベリヤへ飛んだりしても宜いぢやないですか。

小川　さうです。兎に角漠然とやつた方が宜いでせう。彼所が何うだつたとか、此所の方が少し違つてをつたとか何とか、マア漫談的に話された方が、或は却つて時間の經濟であり、皆に行き渡りやせぬかと思ふんです。

村野　併しそれは新興と云ふ意味をもつと深く行きますか。唯單に漠然と視た事を言ふだけにするか、新しくさへあれば……

高橋　新興建築の定義から議論してゐると時間が足りなくなりますから、それはあとで……（笑聲）

永澤　マア目新しいと云ふ位の所で行きませう。

高橋　ぢや、何か村野さん、特に新興の意味に相應しいやうな建物について御初め願へますか。

村野　それぢや一つ長谷部さんに口を切つて貰ひませうかね。アメリカの建築について、長谷部さんあなた何う御觀察になつてをりますか。アメリカの建築はつまらぬといふお話でしたが、そのつまらぬ所を一つ仰しやつて頂きたいものですね。（笑聲）

長谷部　その設備の方なんかは別として、恰好の方はガツカリしましたね。

中西　それは全くですね。恰好とかいふ事が問題になるのなら、僕はアメリカなどへ實際二度と行きたくないね。けれども建築として設備といふ方から云ふたら、アメリカが一番進歩してをるね。他國のやつはどうも機械に使はれてをるやうな氣がするけれども、アメリカのやつは機械を使つてをるといふ風に感じますね。

村野　私の同じクラスメートで松ノ井といふのが居んですが、それが學校を出まして直ぐアメリカに渡つて、さうして或何とか云ふ——名前は忘れましたが、或建築事務所のマネーヂヤをして居のです。それが最近日本へ歸つて來ていろ〳〵話をしてをつたんですが松ノ井君はあの有名なバンクマンハツタン・ビルヂングのデザインに直接關係してをるのですが、それが話の序でにクライスラー・ビルヂングの話をしてをつた。で私はあんな馬鹿臭い建物が何うして良いのかと言つて尋ねたら、アメリカぢやあれが良いのだと言ふのです。つまり恰好だとか何だとかは大した問題に——問題にはするでせうけれども、我々の見る恰好ではアメリカの人達はつまらなく感ずる。何かあゝ云ふパツとした變つたやつをすれば皆ワーツと言ふのです。其所の所に商業價値が起つて來るのです。どうも我々が見て良い恰好だとか何とかいふやうな物は、アメリカでは然う大した問題にしないんです。何か變つた物が出ればワーツと云つて人氣が立ち、部屋が賃れて金になると言ふのです。其點がアメリカの建築だと言ふのですが、これは面白い觀方で、全く然うだらうと思ひます。

中西　所謂ヤンキーズムから來て居るといふ譯でせうね。

村野　然うです、アメリカニズムのコンマーシヤリズムでせうな

中西　いつか大毎の『讀者の夕』の席で今さんがアメリカの建築を批評して、さうして、餘り深い意味で見る必要はない。要するに商業價値を高めるに在ると云ふのです。つまり商業的に、それからあの摩天樓がなぜ出來たかといふ事を考へて見ると、すべて商業的な一つの競爭から出てをるのです。クライスラーが出來たのも同じ事で、さういふ事が大いに宣傳の價値がある。建物の恰好が良いとか何とか云ふよりも、只世界一といふ事が——何でも世界中に宣傳しなくちや氣が濟まぬ。或一つのコンマーシヤル・オーガニゼーションから出來てをる。そこを考へて見る必要があらうと云ふ事でした僕等にはさういふ建築といふものはどうも面白くないと思ひますねは

長谷部　全部然うなんでも無いでせうよ。松井さんあたりの話では、あゝいふ新しいやつは此頃評判が悪いと云ふ事です。で或一部の人は少しく堅いものを好む人があるのぢやないかと言ふことですが……

村野　私も松ノ井さんに會ひましたが其時の話に兎に角極端なやつはいかぬ、形は前から云へば變りつゝある。而し極端な奴はいかぬと云ふ意味だらうと思ひますね

中西 けれどもアメリカのやうな大きな國は、東部海岸と西部海岸と分けて見ねば嘘だと思ひますね。

村野 そりや然うです——併しアメリカの氣分から云ふと、ワーツと云ふ氣分で行くのでせう。

長谷部 アメリカでフランスやドイツの新しいやつを田舍風に眞似たのなどを見ると、嫌になつてしまふでせう。

高橋 けれどもアメリカでは今だにフランスのボザールの形式を可成り追つてゐるやうですね。

中西 やはりそこに歷史的建築のバックがないから、行詰つて來たんぢやないですか。丁度日本が明治初期に斯ういふ制度で來た——すべて歐米を模範にしたのと同じやうに、今迄は宜かつたけれどももう行詰つて來たんぢやないでせうか。だから何かそこに手本と云ふか、ヒントを得ようと云ふので、所謂フランスのボザールが持つてをる形式を追つた譯でせう。

村野 私もそれを聞いたのですが、アメリカの建築の變つた直接の原因はね、地域制が變つた。建築條令の改正ですな。ゾーニング・ローそれが變りまして、昔風の樣式の建築が出來にくいやうになつて來たのです。それともう一つは私の聞いたのでは、考へ方の變化は何うかといふと、やつぱりドイツが元だ。ドイツ風だけれども、小さい所は氣分はやはりアメリカの氣分ですが、さういふ風なのを眞似てをる。その考へ方の根本はドイツの影響を受けてをるといふことを建築家から聞いてをる。併し出來てをるものはアメリカの田舍風のトゲ〳〵した嫌な風が出てをるね。

中西 註文主の心持は何うでせうね。あゝ云ふ大きな會社の建物までが主としてフランスのボザールですが……。註文主の心持で建築家が制肘を受けはしないか。かういふ物が宜からうといふ註文が出て來る。それでその註文の出所が、これは勿論臆測ですが、アメリカ人は歐羅巴で何所を主に旅行するかと云へば、先づフランス、イタリーその邊が多いのぢやないか。さうするとその邊の建物とアメリカの建物と比べて見ると、やつぱりあちらの方は華やかだ。だから能く日本にでも共例があるがイヤ、フランス風でやつて呉れ、イヤ、英國のあのコッテイヂ風のをやつて呉れといふやうな註文を附けられると同樣に、勢ひフランス、イタリーのあの行き方でやつたら美しいぢやないかと云ふやうな註文が出る事になる。で斯ういふ註文に依つてやつて見ると、しまひにやはりローカル・カラーが出て、アメリカ的なものに成り下つて來るんぢやないかと思ふ。

永澤 もう一つの觀方ですが、學校の先生が大抵歐洲へ行つて勉強してをる。殊にフランスのエコール・デ・ボザール、あすこへ行つて來てをる人が多い。さういふ人がデザインするといふ事と、それからアメリカの國民性と云ふか、さういふ趣味といふことに無頓着なんではないかと思ひます。無頓着といふ一方には、何か時代的なスタイルのものがよいといふ風な事に、單純に思つてしまふのぢやないかと思ひます。

中西 要するに建築家のセイですかね。

永澤 それと國民が建築に對する趣味といふか、理解がシヤーブでないと言ふ事です。そこになるとドイツ人なんかは非常によく判つてをるのです。新しい建築なんかに對しては。

長谷部 アメリカの建築屋の趣味が低いんぢやないかね。

村野 併し私は、アメリカはあれでヒヨツトしたら、アメリカの新しい建築をクリエートするのぢやないかと思ひます、現にセツトバツクデザイルは、初期のものより今の物が纏まつてをると思ひます。

中西 要するに馴れて來たのですな。それだけ練れて來たんでせう。

長谷部 が、デテールはひどいですね。

永澤 何でもクライスラーの頂點の方は後で附けたんださうです何かほかの建物に負けるものですから……

村野 然うです。あれは私も聞きましたが、バンクマンハツタンとクライスラーとの高さの爭ひがあつたのです。松ノ井さんなんかも直接それに關係があるさうですがバンクマンハツタンはクライスラーに床の高さで爭はうとしてをるそれなら幾分高いのです。所ろ

がクライスラーは全體の高さで來いと云ふ譯です。それで旗竿だけが百尺もある。それであれをおつ建てたんださうです。であの高さの爭ひの事がニューヨーク・タイムスに出てをるさうですが、その斷片は私も見ましたが、可なりのセンセーションを起こしたと云ふことです。

永澤　何でも三十階以下の建物には人が這入らぬさうですね。で日本でなら俺の事務所は丸ビルの何階にあるんだなどと得意がるやうに、俺の所はクライスラーの何階だとか云ふ事が、辻も譽きが好いさうです。

村野　でさういふ行き方が利潤を生んで行くのですから、六十三階位迄は經濟上收支の計算が償ふのださうです。それから以上はマア廣告的に行く。ところが皆にワーツと言はすやうなものを建てゝ行くと、七十階、八十階まで位は商業的價値があつて收支計算が償ふといふアメリカの傾向ださうです。それが高いものが建てられる理由になるんださうです。

永澤　さうすると上の方はお嵩ねで張ぼてにして置けば宜い譯ですね。（笑聲起る）

村野　あのクライスラーの上を白い金で包んでしまつたといふのですが……

永澤　そりやア裝飾だけぢやありませぬか。

村野　私上まで上がつて見なかつたんですが、あの中には部屋の取れる所はありませぬか。

永澤　イヤ全部部屋があります見物席なんかありますよ。

村野　その材料は何で出來て居りますか。

石川　織とニツケルとか何かでやつた、銀色のものが使つてあります、あれは入齒、時計、萬年筆なんかにも使つてをります。建物に於てもショーウインドのフレームなどにも使つてをるやうです。

中西　あれはパリーにもあります。グラン・ブールヴアールにあるマレー・ステヴアンの設計した靴屋、それからよく方々のショーウインドや何かに……

永澤　長谷部さんは昔にもイギリスにお行きになつたやうですが舊い建物と新しい建物との對照を一つ……

長谷部　イギリスは餘り變つてをりませぬ。何所もね。只あのオツクスフオード・ストリート附近だけは違つてをりますね。

小川　それからあれからずつとこつちへ來て、シチーのロイドバンクの所が廣くなつてをりませぬか。あすこを我々が見に行つたときに、昔の英國風の建物を今度ロイドバンクが非常に新しい建築にしたんだと言うてをりましたが、どうも餘り感心しない。つまり英國は元の舊い物をやつてをつた方が宜いんぢやないかと云ふやうな感じが起つたですよ。

永澤　第一にイギリスは人の服裝からしてが舊いです。何だか黑ずんだものを着て、山高帽などを被つてをるのですから……

中西　然うですな、シルクハツトを被つて歩いてをりますからねね。（笑聲）

村野　それも綺麗な服でも着てならいゝが、汚ない服を着込んでね。

高橋　フランスあたりは何うですか近頃は新しい建築がドン〳〵出來てをりますか。

永澤　私は些とも見當らなかつたですね。

小川　私も見當らなかつたですが、此頃能くショーウインドを改造するとか、鋪裝か何かを少し新しくやつてをるやうです。併し新しい住宅は、あの薩摩會館と云ふのがありますね、あの附近の公園の向ふに新しくやつてをるだけの樣です。何でもあゝいふ新しい家があつちこつちのいろんな雜誌に載つてをるものですから、あゝいふ物が澤山あるのだらうと思つて行つて見ると澤山あるのでは無く二三位のものしかありませぬよ。

中西　全くです。日本へ來る雜誌などを見ますと、新しい物が何所にでもあると思ひますが、然うではありませんね。

高橋　本當に澤山建つのは、オランダあたりぢやないですか。

中西　マツスの上から云つたら然うでせうね。

小川　然うです、永澤さん、君と一緒に行つたあのスツトガルトあたりなんかが一番多いでせうね

永澤　ドイツのライン河に沿ふた所、殊にルール地方に沿ふた地方、あの邊に戰爭時分に近い時ですが盛んに建つたやうですね。

小川　僕はフランスで、あのコルビュジエが造つた住宅がボル

ドウ附近で見たが、あれには殆んど人が住んでをらないのは何うした事か譯が分らないですね、日本人の好みそうな新しい建物ですが

永澤 嫌だからでせうね。

本間 今でもでせうか。

小川 然うですね、私歸つてから一年經つが、あれだけが塞がるといふ事は何うか疑問だらうと思ひます、何でも家主から委託を受けて、說明旁々住んでをつて呉れいと云ふので、住んでをつた人だけです。

本間 それは何ういふ譯で住まないのでせうか。つまり建築家の考へ方が今のフランス人の考へと離れてをる爲めでせうかね。

中西 たしか何か政治的に揉めてをるとかいふんです。コルビュジエのデザインしたあれは何か政治的の關係があるとかです。

本間 コルビュジエのやつは日本人には大變に氣持が合ふのぢやないですか。

中西 然うばかりでもないですフランス人は明快な奴を好くらしいのですから、裝飾品の上から云つても、建築の上から云つても、同じ新しさが流れてをつて、何所か柔かく明るくしようといふ感じが多分に含まれてをつて、さうしてそれに成功させてをるやうに思ひます。そこになるとドイツの方は少々不便であつても合理的でさへあれば宜いぢやないかと云つた調子で、押付けるやうな感じがするのが、フランスでは少しモヂフアイされてをるのぢやないでせうか。

本間 フランスでも南と北の方は少し違やしないですか。

中西 然うです、氣候的にもさうなるでせう。

小川 確かにドイツは君の言ふやうに合理的に出來てをる。いろんな設備も合理的にやつてをるやうに思はれる。それから見てフランス人は柔かく行つてをるといふ事も、或は當らぬかも知れませぬが、合理的にも行つてをる樣に思ひます。

中西 何所の國でもさうですが新しいものが出て來たので、所謂生れ出づる惱みは附きものですから……

小川 マア要するに日本人でも同じ樣に、新しいものに新らしがりやが一寸住んで見るとどうも今迄住んでをつた習慣上住みにくいといふ感じで、餘り塞がらないといふやうな觀察をして來たやうな次第です。

村野 これは建築の方とは少し話が違ふかも知れませんが、パリでドイツのウエルクブンド例のグロピウスが指導した出品を見たのですが、ドイツの方の出品とフランスの方の出品と二つあつた、それに就いて今さんとロンドンで會ひまして話をしたときに、マア工藝美術はフランスのは尖端的の美術であらうと思ひますが、あれを見て今さんがドイツのものと比較して言ふた言葉が面白いのです。つまり『フランスのやつは美しいけれども只あれだけだらう、併しドイツのやつは一寸考へるね』と。これは一寸面白い觀察です。美しいけれどもあれだけだといふ事は一寸面白い言ひ現はし方だと思ひます、併しあの工藝品の氣分が、あらゆるフランスの一般の氣分ぢやないかと思ふのです。

中西 それとですね、フランスに就いて一般に言へることですが何かそこに流行の中心になる所があるのです、あれがつまり流行になるんです。ドイツのものぢや流行といふ言葉に當嵌まつてまで廣く擴がつて行かぬでせう。

小川 併し君の言ふ流行といふ事を大いに讃歌してをることに對しては、フランス人自身が大いに歡迎してをるやうです。殊に新しい建築を見て來ようといふので行つても、何うだ良いだらうと非常に歡迎して喜ぶ、その爲めに大いにお世辭を言ふのですが、何所へ行つてもこれは最近の非常に新しい建築だ、新しい裝飾だといふ事を讃歌して、歡迎して我々に說明もし、殊に非常に鄭重にいろんな事を案內して呉れるやうな風だが要するにさういふ事はフランス人自身が流行の尖端を行つてをる樣な氣分が隨分あるやうです。

中西 それとあの集まりは、或一派の人の集りぢやなくして、要するに今日の裝飾美術をやつてをる人々の集りだと聞いてをる。

村野 フランス派といふよりもアカデミックの立場の人でせう。

中西 イヤさういふ譯でもありませぬ。フランスでは傳統の力が相當強いです。

永澤 フランスの國民性といふ

のは保守的ぢやありませんか。傳統的と云ひますか、保守的でせう。

中西 さういふ傾きが強いでせうな。

高橋 フランス邊りでやつてをる遣り方と、ドイツ人の考へてをる遣り方と、構造に對する考へですが永澤さんは何か違つた所を御認めになりましたか。

永澤 フランスは餘り知りませんが、ドイツでは構造なんか餘り顧慮してをりません。構造は構造として研究し、建築は建築としてやつてをりまして、日本のやうに二つのものが合理的に兩々相待つて考慮されてをるやうなものは少ないやうですね。

高橋 併し建築の合理化から見て、構造も目的に從つて或程度まで建築と同時に考へる必要がありましやうね。

永澤 建物の合理化と云へばプランの合理化ぢやありませんか。

高橋 それは無論そうですが―構造は何うにでも出來ますから

中西 構造のプリンシプルと言ひますか、日本では全部アツプライするのは難かしいと思ひますね

小川 それは今の窓でも殆んどおツ放しですつかり開けて、さうして薄ツぺらな壁と煉瓦でやつてをります。

高橋 さうの樣ですね、細い丸い柱でやつてをるのがありますね

村野 ところがワイゼンホフのアーイザーフオツクスのスケール住宅群があります。あそこに行つてクラツクを注意して視て見ようといふので、氣を附けて見ましたが、コルビュジエのやつたやつは氣が附かなかつたですが。

中西 一體にコルビュジエのやつたやつは仕方が綺麗です。仕事は綺麗です。

小川 大體建築家がやつたらさういふ點は注意してをると思ひますが、コルビュジエは繪描からの出だからね、永澤君と一緒にあのスツトガルトの博覽會に行つて見たがね。非常に面白味を感じたね。君。ベルリン附近には方々這入つて見ても新しい建築が滅多に無いので憧憬れてをつたところへ、此處では至る所に新しい物が見えたので、寫眞をパチ〳〵撮つたものですが、やはり君の云ふクラツクやひびには氣が附かなかつた。

高橋 石川さんは何所を重にまわられたのですか。

石川 主にドイツです。今度は目的が然うだつたものですから。

高橋 何かドイツ邊の面白いものはありませんでしたか。

石川 ベルリン邊りでも、郊外邊りの市内は古い市街ですから、昔の建物で建詰つてをりますから自然とフロントを改造する位のものです。併し郊外なんかには新しいものが可なり……仕事は小さいですけれども、思ひ切つたものが澤山ありますね。それから市内の商店などで面白いのは、フランスなどもさうですが、五階建のうちで下の二階だけを馬鹿に新しくしてをるのなんかあります。

小川 あれなんか日本人には想像出來ませんね。二階から下一階はすつかり新しくして、それから上は其儘にしてあるですが。

中西 併し舊い市街を新しくするのなら、あれで宜いぢやないかと思ふね。見えるところだけやる、つまり舊い都市を美しく明るくして、猶且つスカイラインを綺麗に見せる爲めなら、あれで宜いぢやないかと思ふね。(笑聲)

小川 ところが今の二階から下を新しくすつかり改造するといふのと、もう少し極端んか知れませぬが、同じ家を半分だけすつかり新しくして、半分だけは舊いのを其儘置いて、平氣で使用してをるなんか、甚だ面白い現象ではないかと思ひます。

石川 上は住居建築で、下は商店建築になつてをります。

高橋 ブルノー・タウトの居るマグデブルグですが、あの町では古い家のフロントだけペンキを塗つて、いろんな色で新らしい模樣を書いてゐるのが所々あります。

中西 丁度パリーぢや荒物屋がいろんな色を塗つて、フロントを賑やかに面白くしてをりますが、それを大まかに行つてをるやうですね。私はあれを日本を出る以前に聞いて想像だけで驚いてゐたのですが、丸で都市の色が變つたんかなアと思つた。ところがこれは所謂新しい建築が澤山建つてをると誤解してをつたと全く同じ行き方でしたよ。

小川 日本に來る雜誌には、上の方の汚ない部分は消してをるやうですね。

村野 併し夜町を歩いて見ると汚ない改造しない部分は見えないですよ。さうして明るい部分だけしか燈りを點してゐないから、そこだけしか見えはしない。

永澤 ドイツのチーゲル・ハウスがありますね。あれはあなたの行かれた時にはありましたか。あの煉瓦造ですね。

高橋 北の方はすべてあの行き方です……ハンブルグには澤山ありますね。

中西 村野さん、それはあなたには一番印象が深いのぢやありまんか。ハンブルグで所謂ドイツの新しい建物にぶつつかつたといふので、ロシヤを通つて、スカンヂナビヤを通つて行つた貴方にはね

高橋 そりやアあすこを通つて行つたら、ハンブルグへ行けば能く目に着きますな。

中西 ぎごちない感じを與へるでせう。向ふの建物は何だかどんよりした、重苦しい感じをね。

村野 殆んどチヨコレート色でせう。

中西 それが想像以外であつたのは、スカンヂナビヤでした。割合に明るいですね。

小川 スカンヂナビヤの市役所は各方面から歡迎されてをりましたが、皆さん何うでした。

中西 僕はあれこそあれだけのものだと思ひますね。

村野 僕等の批評は客觀的に行かぬ。僕が若しあの建物をやつたとしたら、俺には迚も出來ない、何と言ひますか、腕としては迚も及びもつかないと思つたね。

中西 腕で及びがつかぬのか、頭で及びがつかぬのかね。

村野 つまり技術的に及ばぬ。あれだけの技術的な雰圍氣は。俺があれをやるとしたなら迚も及びもつかない、また歷史的に見てもさうだが、何所から云つても垢がないし、あれだけ複雜して置いても、置くべき所にはキチンとあるし、勿論何と言ふか、思想的な方面では感心出來ないが、腕としては僕は頭が下がるね。歷史的に見ても優れた作品でせう。

小川 思想的にも感心しましたね。

高橋 併しやり方としては舊いのでせう。

中西 さうでせうな。僕はスカンヂナビヤで、此所で外國に餘り見ない建物があるさうだがといふと、そんな物はないといふ。で市役所があるぢやないかといふと、イヤあれはあれだけだと、やつぱり斯ういふ。併し觀る價値はあるが、あれはあれだけで餘り價値はないと云ふ。勿論その言ふた人は今度の博覽會に關係してをる人です。

中西 併しあの狹い所ですから二日ばかり見たらみな見盡しますね。

村野 あれはスカンヂナビヤ特有の氣分でせう。

小川 あのエストベルヒの造つた住宅がありますね 公園の中に。私は詳細に話だけ聞いて行くことは出來なかつたが、あれは日本の公使館に買ふことになつてをつたさうです。中々良いですから、見るだけ見て行つたら何うかと云ふことだつたが、あれから想像すると矢張り面白い所があらうと思ひます。

中西 だから仕事は叮寧ですよ外國人の造つたものにしては……

長谷部 思想の方から云へば遊びが多いですね。

小川 遊びのない點から云へばコーペンハーゲンの例の丸い外角の警視廳の建物と思ひます、丁度あの角の方にある、あれです。あれは表と中と違ひますね。

村野 僕はコーペンハーゲンでは、何とかいふ教會がありましたね。あれを見て面白いと思ひました。

中西 我々には面白いと思ふがあの邊のお寺は小さいものでも、みなあんなものです。だから唯そのスケールを大きくしたゞけでせう。

村野 あれは矢張りローカルカラーの現はれでせう。

長谷部 コーペンハーゲンの市役所があれとよく似て居りますな

中西 あれが北方の色でせうな

村野 長谷部さんは何うお思ひでしたか。ストツクホルムの市役所を……

小川 僕はこれは長谷部さんの思慕せられるものだと思つた。これは長谷部さんにやらしたらこの位の事は大抵出來ると思ふてね。

長谷部 好い所がありますね、實際……

村野 さうしてあの人の趣味が多過ぎるのです。所謂教養が多過

ぎるのでせう。

長谷部　あのマツチ會社の事務所がよかつたやうでしたが……

中西　何とか云ひましたね。テンボムとかいふ人でした。さうして私にもマツチを呉れました。

長谷部　丁度日曜で中は見られなかつたけれども、噴水なんか一寸良いでしたね。

村野　ストツクホルムでは勿論市役所なんかも感心しましたが、何と言ひますか、氣持はむしろクラシカルですが、例の圖書館、あの丸い……あれは一寸感心しました。中々良い建築でしたね。

高橋　長谷部さんはロシヤにどれ位をられましたか。

長谷部　半日位モスコーにをりました。

中西　ロシヤの建築はあなた然う思ひませんか、なぜあゝ色が黒いのでせう。

村野　仕上が薄墨よりまだ小し濃い位、あれの濃淡で以て調子を取つてをる。少し青みがかゝつてをるが、印象は一寸黒いですね。

中西　だけれどもあの仕上と圖面とは能く似てをる。ピツタリ來てをります。

村野　一寸ロシヤらしい所がありますね。

高橋　一寸一種の陰慘な感じを與へるぢやありませんか。

村野　さういふ感じがありますね。

小川　と云ふと、トゲ〳〵しいと云ふ意味ですか。

中西　曰く、言ひ難しでせうね。

小川　僕は表現上の強さを持つてをると思ふ。

中西　然うだ、ロシヤ人の持つてをる氣持を。

高橋　それは從來の古い建築ですか。

中西　イヤ、新しい、ソヴキエツトになつてからの建築です。

村野　さうかと思ふとアパートの建物には白つぽい。それでも少し青みがゝつて白つぽい。

高橋　ロシヤにはドイツ邊りの建築家が行つてをりますね。

中西　然うでせう。兎に角文化的施設には各國の助力を仰いでをるやうですね。

村野　ところがモスコーの大學に行つて、モスコーの工藝學校と云ふか、あすこの先生にコルビュジエは何うかと云つて尋ねたら、あれは我々と思想が違ふと云つてをつた。

中西　例の明るい思想とドス黒い思想とだけ違ふのでせう。

村野　コルビユジエあれはブルジョア的で、我々のプロレタリヤ主義と違ふといふので、あれには資本主義的な影があると云ふのです。

中西　併し建築費はあれは幾ら位か聞きませんでしたが、それを調べて見る必要がありませうね。

村野　若しロシヤに金が出來て來れば、あれをあの儘の建築を踏襲しますかね。可なり不自由ですよ。書いたものとか、呉れたもので見ると、如何にも良いやうですが、アパートメントなんかに這入つて行くと、成程共同炊事場はありますが、迚も汚なくつてね。

中西　汚ない事はロシヤの共通でせう。シベリヤ鐵道沿線なんかと來たら實に汚ない。

村野　小さい家族に與へられてをる家は、成程小さい所に住んでをるが、この家賃は幾らかといふと、この中に住んでをるものから百ルーブル取つてをると云つてゐました。職工さんは夜業でねなかつたが、子供があの疲れた固いやうな顔をして部屋にをりましたがそれを見ると何だか些とも幸福でないやうな氣がしましたね。

小川　さうするとロシヤは内容と宣傳とは大分違ひますな。

中西　だから今は過渡期でせうね。村野さん、貴方お承知のあの女に革命後になつてから、お前等自身の感じは何うか、滿足か滿足でないかと斯う尋ねたら、返答を濁して、さうして現在では滿足してゐないが、年々良くなるだらう事を樂しんでをると言ひました。

村野　偶然中西君の案内人が僕の案内をして呉れて、ドイツ系の女ですが、その女の話では、年々五ケ年計畫を約束するけれども、少しも約束は實行されないと言うてをりました。

高橋　石川さんが向ふから歸られまして、日本の新興建築の行き方について、何かの御感想はありませんか。此度の朝日ビルなんかは新興の魁をねらつてゐられる様ですが……

石川　日本はその點は非常に好い位置にをります。ドイツでもアメリカあたりの影響を受け、アメ

リカでもまたドイツなどの良い所を採つてをる。良い所はお互ひにさうして影響を受けるのですが、さういふ點から云つて、日本はアメリカの影響はヨーロッパが受けるより早くこれを受け入れる事が出來るし、またヨーロッパのものがアメリカに影響するより勿論日本へ來るのが早く強いといふやうな狀態で、世界中の影響を受けるので、新興建築といふものが起るには最も位置としては好い所だと思ひます。

高橋　コスモポリタンと云ふ譯ですな。

石川　それと日本の國民性から云つても、新しい所を直ぐ受け入れる性質を持つてをるでせう。その新しい所に飛附いて行く性質があると同時に、そいつをたゞ新しいだけで飛附いて行くのでなしに自分の持つてをる點に共鳴する點を拾つて行く所があるのです、それはアメリカなどゝ大分行き方が違ふ。本當に藝術味のある新興建築――流行建築と云ふのでなしに美術的に起る建築を受入れるには最も良い位置にあるのですから、若い人達がもう少し努力するのが本當ぢやないかと思ひます。勿論日本の東京とか大阪邊りを歩いて向ふで感ずる新しさ位はこちらでも感ずるのですから、不足はないのですが……

高橋　新しいと云へば、學生などがやる事は最も早いぢやないですか。

永澤　新しいといふ意味にも依りますがね。

中西　兎に角私は日本は議論が多過ぎると思ひます。さうして各人の心持が素直でないから議論が多過ぎて、さうして何だか褒めるといふ事よりも建築家仲間でくさすといふ事が半分以上勝つて行くんぢやないか。批評をすると云うても褒めるのぢやなくして、何だかアラを見附けるといふ事ぢやないか知らん。これはお互ひ我々建築家として態度を變へなくちやならぬと思ひます。

小川　要するに日本の國民は非常に建築思想が一般に發達してをりますので、非常に建築家としてはやり難い――やり難いと云ふと語弊がありますが、いろ〳〵研究してやらぬと十分目的を達することが出來ない。それと同時にかういふ風に各國のいろんな新興建築を受けるのに、日本人がそれを受入れて、果してどれ位受入れて、どれ位の形式を日本の家屋に殘すかといふことも、これから研究せねばならぬ問題だと思ひます。

高橋　併し從來の新興建築はすべてヨーロッパ、アメリカから來たもので、日本で働きかけた新興建築は出來ませんでしたね、尤も今懸賞でやつてをるものがそれであるかも知れませぬが……

小川　今の懸賞は果して日本の新興建築かと疑はれると思ひますあれが當選に這入るかどうかは兎に角、もう少し日本固有の建築味を加へぬと……即ち日本の新興建築は此の通りだと。

本間　それは入選のものだけが然うであつて、落選した中には却つて本當の意味の新興建築に近いものがあつたかも知れぬ……

中西　所謂日本趣味の新興は「興る」といふ字より、工事の「工」であつて、新しく興るといふよりも「新工」と換へねばならぬのかも知れぬ。

小川　どれ位の程度が日本に於ける新興建築か。此所に集まつてをられる方は、十年二十年建築界にあり、また新興建築を各國を旅行されて見學されたんですから、かういふ人から新しい建築が出て來てこそ、初めて新興建築が出來はせぬかと非常に喜ばしい期待を持つてをりますが、どなたが見られても成程と思はれる樣な式は理想かも知れませぬが、成るたけさういふものを造つて欲しい感じがするのですが……つまり日本に於ける新興建築のタイプが出來さうに思ふのですが。

石川　それは今でもあるのぢやありませぬか。

小川　併し皆が見てこりやア良いといふものは無いのです。中西君の云ふやうにくさし合ひするかも知れませぬけれども……（笑聲）

村野　難かしく云へば、思想上の觀方と社會上の觀方との立場があるから、容易ぢやないと思ひます。頭をはつつて見ると新興にはなつてをるけれども、例へば我々の方では新興だと思つてゐても、施主の方では換へて呉れと云ふ。だから出來たものでも甲論乙駁で纏まらないのぢやないかと思ひます。同じ左翼なら左翼で理論的に

行く人でもくさし合ひをやつてをる有様ですから、丁度さういふ狀態にあるので、故意にくさすのぢやありますまいが、思想上の立場、社會上の立場に於て、批評上のバライティがあるんぢやないかと思ひます。それから最近の急激な思想上の變化もあると思ひますね。

中西　さういふ變化を受けなければ嘘だと思ひますね。マアお互ひが事務所を持つてをるが、このお互ひにフリーな立場で仕事をやらして呉れるならば、最近喧ましい『東洋趣味』といふものを造らぬと思ひます。あれを造りたいと思つてやつてをるのなら、その人は精神的に頭が左向け左してをると思ふ。左傾の方ぢやありませんよ……

小川　それぢや右向け右ぢやありませんか。

中西　右向け左かも知れぬ。丁度猫をクリ〳〵振廻して方向を迷はせたやうなものだと思ふ。

村野　日本の社會の一般が、東洋趣味を受け入れるか、入れぬかは別ですが、これをやつたら商業價値がある、これをやつた方が人が集まつて喝采をするだらうといふ、施主の方の商業價値打算の考へが、やつぱり建築家に働いて來るんぢやないかね。

小川　建築家がそんな風に働かされるのが可かぬぢやないか。

村野　經營主がこの方をやらぬと客が集まらないと云ふ事を言ふて來たなら、それを拒げるといふことも出來ないと云わけなんだらう。

小川　どうもさういふ商業的頭で設計してをる者が多い様に思ひますね。建築家がさういふ頭を有つてをるから施主が容喙するのです。

中西　だから矢張り本當の新しい建築は比較的役所方面に多いですよ。で建築家の態度は眞直ぐに進まねば嘘だと思ふ。その眞直ぐに進んでをるやつを左に曲げられたり、右に曲げられたりするのだと思ふ。

永澤　その意味で、ドイツのやつは好い意味で徹底してをると思ひますね。それを教會に應用してをる。それも古臭いカトリツクの教會が盛んにその新しい建築をやつてをる。從來のものは古臭い、中に這入ると小さい窓があつてステツドグラスがある。それが今度大きな窓をあけて明るいガラスを入れてをる。それで詣る人はやはり同じ氣分でをるやうです。さうして教會でもよくあゝいふものを建てさせるなと思ふのです。

村野　人の移る傾向を聞いて見たのですが、あれは良いやつから移つて行くさうです。それは何ういふ譯かといふと、やつぱりベルリン市内の建物を見ると分りますが、あの岩窟のやうな建物にコリ〳〵してゐるんぢやないかと思ひます。だからさういふ點から云ふと日本人はまだ建築に懲りてをらぬのぢやないかと思ひます。

永澤　ドイツ人は元の時代的な建築が好きなんぢやないですか。

石川　郊外が好きだといふ事もあるんぢやないですか。日曜でも大抵みな郊外に出て行きますよ。

村野　今迄の建築に禍を受けたからホト〳〵懲りた。だから新興建築が起るのぢやないかと思ひます。

小川　もう一つは、向ふでは建築家を非常に尊敬するといふ風があります。建築家のやつた仕事に敬意を拂つてをる。さういふ事もあると思ふ。日本などでは建築屋と云うても殆んど自分で買うてをるのだといふやうな感じを持つてをるから、餘り尊敬などしない。だからこれが此頃の流行だと云ふと、向ふでは然うかと云ふので、建築家の云ふ通り尊敬してやつてをるが、日本では言ふ通りにならぬ。で先づ永澤君の言ふやうに教會などからやるといふ事も建築家の政策だと思ふね。

本間　傳統的にさういふ事があるんぢやないですか。坊さんと同じやうな一種の風格を持つてをつたでせう。

小川　さうでせう。向ふでは、第一番にあれは誰が造つたと云ふ事を說明することから考へて見ても、建築家を非常に尊敬してをる事が分ります。日本の建築は、いろんな名建築も殘つてをるが、大抵は施主の名前だけしか殘らぬ、お城でも大阪城の秀吉とか、江戸城の太田道灌とかいふやうに。建築家としては左甚五郎だけ位でせう。

本間　さういふ事もありますね

小川　實際お城でも加藤清正が造つたとか何とか言うて、力で抑

へつけた人だけを云つて、建築屋の名前は一向ありません。向ふではそれが反對ですから、それがために大いに發達し易い條件があるのだらうと思ひます。

村野 僕は例のノイエフランクフルトのガントナー氏にあいましたときに、やつぱり建築家に施主の方でもいろんな事を言ふので、中々思ふことが出來ぬと云つてをるのを聞きましたが、併しそれが行はれるところを見ると、建築屋に施主を說く力があるのだと思ひますね。

小川 併しイタリーのミラノなどの教會は、七十何人も技師を變へたさうですからな。

本間 その點は、日本のやうに全部責任をまかさないと結局責任が輕いぢやありませんか。

小川 小さい住宅一つ建てゝも最後の裝飾まで任して呉れるものはありませぬからねこれは俺の樂しみにやるんだなどと云うてね。(笑聲)

中西 それはそれとして、向ふにをつて一番歯痒く思ふのは、例へば博覽會などの日本の出品がいつゝ同じだ。日光だとか、鳳凰堂だとか、其他同じ物を提出してをる。だから向ふの奴に日本といふとあんな物だと輕く思はれてをるのは隨分殘念です。それが今の日本では無いのですから。それに我々日本人はいつでも丁髷を結うてをるもののやうに思はれてをる。繪でも錦繪のあることしか知られぬのは殘念です。

小川 ところが外國へ行つて、世界中で何所の國へ行つたら良い建築が澤山あつて、最も十分研究されるかと云つて或西洋人に聞いた。ところが能く分つた西洋人は君等がこんな所へ來るのは間違つてをる。あなたの國、即ち日本に一番研究すべき建築が澤山ある。何所へ行つても、世界のあらゆる建築が日本にあるぢやないか。だから建築の研究なら日本に歸られたが宜いと言つたさうですよ。

村野 それは皮肉ぢやないですか。

小川 イヤ、日本に居つた人ですが、餘程世界中の建築を見て來た人です。

中西 兎も角も國が遠過ぎますよ。日本は、孤立し過ぎてをる。だから私はいつか建築の雜誌に、日本に世界的建築家が出ないといふ事を書いたですが、其れに國境を取除かねば、もつと自由にせねば可けませぬよ。それは國境で一番大きな力を持つてをるのは稅關吏ですが、どうもその稅關吏にあたる人の頭を改良して掛らなくちや駄目でさ。(笑聲)

石川 カフエーやレストラントで、どこか感心したやうな新しいものはありませんでしたか。

小川 さうですネ、ドイツではフエビナを見ました。感心ぢやありませんが、一番新しく思つたですね。それからフラスンではリドーといふ所へ行きました。あすこでは設備が完備してをつたが、新しいと云ふほどでもない、マア中位でせう。

村野 全體としてドイツは盛んでせうね。

中西 ドイツが一番盛んですねさうして今迄のパリーのお株をベルリンへ奪つて來ようとするのぢやないか。外來客誘致といふ點から、今迄なかつた所にまで、十分な設備をして世界の人を呼ぼう——呼ぶために深甚の考慮、計畫をしてをるやうです。カフエー、ダンスホールなど……

小川 あれは國策ぢやないですよ。お互の享樂を自由にするためでしよう。

中西 兎に角もうヨーロツパ人は、もうパリーはお終ひだ。これからはベルリンだと言うてをるからねゝ

小川 さうすると何うしても新しいものゝ中心を、東京なり大阪邊りに造らぬといふと、新しい建築が發達しないといふことになりはせぬかね。

本間 一つ觀光局へ建議したら何うか、カフエー、ダススホールのウント新しいものを造つて、外客を吸引するといふ風にしたら何うかと……

小川 日本の今のやつてをるやうなカフエーやレストラントを建築屋がやつたら迚も出來やせぬ。建築屋の云ふものは採用しないらしいな。建築屋が設計してこれをやらうと云ふと、迚も監督も出來ないし、何にもされないと言うてをる。それはいろんな方面に影響するからだらう——物資から、期限なんかにも或は左右されると思ひますが、それだから建築屋が遠

ざかつて、廣告屋の様な者が出張つてやつてをる。そしてそれが普通に新しいカフエーやレストラントだ、新しい建築だと思つてをる様ですから非常に誤解されてをりますね。

本間 あれも時代相でせう。段々金をかけた建築でないと見榮えがしないといふ事になりませう。

中西 さうです、さうなつてをりますね。

小川 カフエーも少し金を餘計かけた所には、矢張り大分這入るといふ風になつて來たやうですから、マアその間には段々建築家が買はれて來るといふことになるでせう。

中西 別して大阪はさうでせうが、あゝいふ風な所へ氣の小さいものは這入れませんそしてすべてに驚かされてしまふ。

村野 日本のカフエーは昔の飲食店の進化したもの、あれから變化したものだ。

中西 それとお茶屋の座敷とが變にこんがらがつて來たのですね。

本間 またそれが受けるんだから面白いね。道學者が幾ら憤慨しても受けるんだから仕様がないね

小川 君のデザインぢやカフエーが出來ぬと言つたね。

村野 僕等の言ふのは本格的ですな。ヨーロツパ風のカフエーやレストラントの眞似は出來るけれども、日本のカフエー、レストラントは出來ぬ。そこにやつぱり一つの理由があるが、撤回するより仕方がない。繪描見たやうな、ナンセンスのやうな建築でないと仕方がないでせう。併し段々清算はされつゝあります。

小川 マアそれも時期の問題だ

中西 それと僕が憤慨してをる事はどこかで言つたこともあるがパリーで一九二七年だつたか、二八年だつたか、向ふで例の住宅問題と都市計畫とを取扱つてをる國際的な展覽會があつた。十何回目かの展覽會がパリーであつた、その時に僕は行つた。日本の旗も飜つてをるから、何か日本の物があるだらうと思つて見ましたが、いつまで經つてもない。英國だとかドイツだとか、オランダとか、ロシヤまで大きいやつを出して場所を取つてをる。ところが見ると向ふの方に和文があるから、あるぞと思つて行つて見ると、甚だ貧弱なもので、中心に來てをるのは朝日新聞の何とかいふ、日本を紹介した英文雜誌のビラが張つてあるさうして横手に東京の地圖が貼つてある。地圖の一部を赤く塗つてこいつが防火地區だといふことが英語で說明してある。都市計畫紹介の意味で出したんだらう。ところが都市計畫を行つてゐるのは東京だけでない、それにそんな貧弱なものを出して、如何にも日本では都市計畫は小さいもので、こんな貧弱なものしかありませんと云ふやうな風に、パリーの展覽會で人の眼に觸れしめてをる。そして一方に新聞社の廣告を出して、尙ほ詳しい事は大使館まで行つて聞いて呉れとそれも英文で書いてある。誰があんなものに就いて大使館まで行つて聞きますものか。で每日新聞の特派員の方がをられたので、あなた方もつと大使館あたりに注意して鞭韃して呉れぬかと云ふと、それよりもこれはあなた方が日本へ歸つてから不平を言ひ輿論を喚起して頂かぬと駄目だといふ。實際もつとあゝいふ國際的の展覽會などには突つ込んで行かねばならぬと思ひます。外務省や大使館あたり丈けでやればよいではないか。それに少しもそれをしないものだから、博覽會でも日本のものはいつも貧弱だ。只在來の千篇一律のものを出してをるに過ぎない。だから小さい國のパヴヰヨンでも建築圖集に出してをるのに日本のものは出ない。

石川 そして日本のものは能く見當違ひのものを出す。ドレスデンの衛生展覽會にお茶だとか、富士山を出してをりました。あゝいふのは開催の趣旨が徹底せぬのだと思ひますな。

中西 だから好い機會に、もつと日本といふものを知らしてやつたら宜いと思ひますね。

小川 それは係員が悪いのだ。それこそ建築學會とか其他學界のものが乘出せばよい。

中西 ところがさういふ事には學界の者が手控へをするのですからな。

小川 實際面倒臭いからね。

中西 何か利益が伴つて來ぬとやりませぬよ。

村野 もつと深い意味で關係せぬと……どうも日本は孤立してを

るからぢやないですか。

中西　だからもつと國際的に擴げねば駄目だと言ふのです。

本間　どうも餘り距離がへだつてゐるからぢやないですか。例へば日本で博覽會がある、さうして東京だとか大阪だとか名古屋が對立した時には、莫大な金を入れて競爭的にやつてをるのです。それにいざ外國のものとなると金をかけない。

中西　だから今私の言つたやうに、地圖だけで、これだけ燒けて今度やるのはこれだけ、これが防火地區だといふやうな事しか出さない事になる。防火地區なんかは一向西洋人にはピンと來ないからね。

本間　中西君の國境を取りのけろと言ふよりも、日本人にもつと國境のある事を知らせろと言つた方が適切だと思ひます。つまり對岸の火事のやうに思うて、なげやりになるのでせう。

村野　例の中西君のバウ・ハウスで、日本の住宅の合理的な方面の講演をした事を聞いて、實に嬉しかつたですよ。

永澤　それは何時頃です。

中西　昨年の五月の掛りです。

本間　今囘取君の希望として、外國の新興建築の目星しいもの、それから次いで日本の新興建築と目すべきものゝお話を願ひたいと言つてるですけれど如何でせう。

村野　日本はやめたら何うです。（笑聲）

小川　それはさつき言つたやうに色々あるのですが、どれが新興建築と言ふべきか、判らぬですからね。

村野　長谷部さんプレーメントに乘つて行かれたそうですが、大變感心されたさうですが……

長谷部　大變綺麗ですな。

石川　ミトロの寢臺には大變良いのがあるさうです。

中西　イール・ド・フランスは一九二七年竣成で、フランスの當時の裝飾になつてをります。さうすると今日の日本の新造船の問題ですが……

小川　フランスでそれの姉妹船の內部裝飾を引受けてをるといふ所の……いろんな室內裝飾のデザイン——工藝品、壁掛、嵌板、其他のものを製作してをるところを見たですが、中々行亙つたものだ。それが出來上つたときにはどんなものが出來るかまだ判らぬが、其のデザインを關係の各工場に分擔してやつてをつた。漆を塗る所、椅子を作る所、敷物、織物、クツションとかいふやうなものをやつてをる所をみな連れて見せて呉れたが、これは丁度フランスのやり方は日本の裝飾屋と同じで、家具造作は別だが家庭の工業として造らしてをるらしい。さうして日本で見る樣に事務所へ皆クツションなどを持つて來て、そして特に仕方を教へて居る、此所は何うして呉れ、斯うして呉れといふ風に指圖してやつてをる。丁度私の行つたとき三十前後の女の人がやつて來てをつたが、やはり家庭工藝品でやつてをるといふ事ですが、それは日本などでやつてをるのと少しも變らぬ。マアあの室內裝飾品から見ると多分相當なものが出來上らうと思つて想像して歸つて來ましたが、さうすると一九三〇年式になるかも知れませぬ　さういふ事を見ても非常に新しいやり方をやつてをる。そして中々凝つてをりますね。纏らぬので分らぬけれども部分品を見ても想像がつきますね。

中西　別してあちらの航路は宣傳價値を持つて來ぬと乘つて呉れませんからな。

村野　僕等がプレーメンに乘つたときには、ドイツ人は二等に乘つてをつたが、一等には殆んど見なかつた　アメリカ人とドイツ人が主でしたが……

小川　アメリカ人だけぢやありませんか、一等に乘つてはしやいでをるのは……。

村野　然うでせうな。

長谷部　私の乘つた時にはドイツ人も一等に居た樣でしたが……

中西　ドイツ人といふのも、それはアメリカで働いてをるドイツ人でせう……。

小川　アメリカから英國に着いた人の話に依れば向ふから來ると迚も憤慨に堪えぬ事がある。殊にアメリカの女なんかと來たらとても傍若無人なんですとさ。

永澤　これは船の裝飾に關聯した事ぢやありませんが、ドイツで感心したのは、活動寫眞館の中の裝飾です。暗い所に光を採つて、暗い所を適當に見せて行くところ壁のあかりを見せる。それから壁

の面とか、それに使ふランプとかそれからキヤスト・ライト……投げる明りです。さういふものに非常に工風してをるやうですね。そこはアメリカへ行くと大きな活動寫眞はありますが、さういふ所は考へてをりません。

中西　ロキシーなどは大きいけれども、只大きいだけで、やつぱりアメリカの行き方はたゞ大きい事を見せるだけです。

村野　それに金は掛つてをる樣だが、張ぼてが大分あるですね。（笑聲）

永澤　煉瓦石造のものでも材料其儘を出す。或はコンクリートでも何でも、光で裝飾として映つて來る。

小川　ドイツでヘフナーのダンスホールですが、天井を光と引込み天井を造つていろ〳〵に變へる一回濟むとまた變つた天井が出て來るといふやうに、光の變化と引入天井で色變化した裝飾を現はしてをりましたね。

永澤　さうですね。

小川　日本でも引く天井位にして、色を變へてやつて見たら面白いと思ひますが……。

石川　建築家ばかりでなく、電氣方面の專門家がいろ〳〵やつて見ると面白いでせうね。

小川　ガンバスに天井を描いてやれば、薄くつて何枚も出來ると思ひますな。

長谷部　天氣のよい時にはそして青空にしてゐますね。

村野　さう〳〵。ローマにもあるし、ミランにもあります。やつぱり天井を明けてしまつてをりました。

長谷部　ローマには露天の活動寫眞がありますので、暑い時には氣持がよいですよ。

永澤　オランダのアムステルダムの北の方と云ひますか、あの邊に新しい建築が澤山出來てをりますな、競技場の近くに……

村野　住宅ですか。アパート、商店ですか。

永澤　タイルでみな張つてあります。

村野　オランダのあの建築を見たときには失望したね。

中西　一九二七年にオランダへは旅行したのですが、兎に角、マツスの上からみて驚きましたね。

小川　たゞオランダはあれだけタイルを使つてやつてをるが、あすこのは煉瓦を使つてをりませんね。さうして如何にもリツチに見へて、安つぽく見えませぬ。金持のやるやうに比較對照されたのですか……。

村野　この節は盛んに家が建つてをりますね。

中西　外國では中產階級以下の者は、此頃の施設として住宅には惠まれてをりますな。我々には幾ら金を儲けてもあれだけの家には這入れませんよ。

小川　オーストリーのウイーンのこつちの方、ドナヴ河の沿岸なんかのものもそんなに惡いとは思ひませんでしたね。今頃やつてをるやつは合理的にやつてをると思ひますね。

中西　それから西洋人は一般に見て、全部が全部でありませんが所謂サイトを選ぶにうまいですよさうしてサイトにフキツトしたデザインをしてをりますよ。

村野　フランクフルトの長屋でも、裏にあれだけの空地を取つたら、十分晴々してよいでせう。あゝいふ事は日本では迚も出來ませんよ。

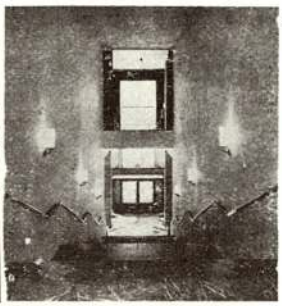
本間　地價が安いからでせうなもしたら、さう澤山取れませんよあれはもう少し何とかして住宅を發達させようと思ふならば、地價をもつと安くせねばいけませんよ

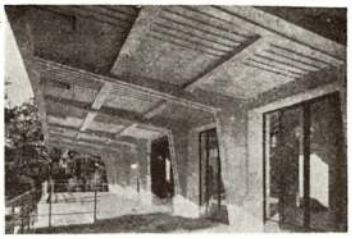
高橋　それぢや此邊で一つ打切りまして……

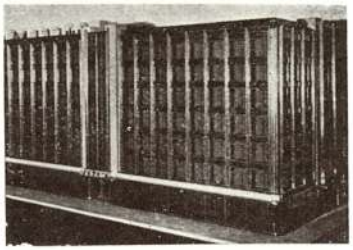
小川　併し各方面に亘つて、思ひ〳〵に見られた澤山な事について、皆さんの見られた所を伺つて自分の見て來た以外の事を知り得て、ます〳〵西洋をよく視たやうに思ひまして、誠に有益でした。

高橋　今晩は暑いのに拘らず御遠方までお出を願ひいろ〳〵お話を伺ひまして有難う御座いましたこれで座談會を終ります。


1


3


4


5


2


7


6

1—4 瑞典**オスロー藝術倶樂部** 設計　ブラツクスタツト＋ムンテ・カース兩氏 5—7 **シユトラウメル**氏最近作品模型
5　**アタムス・ビル**（伯林ライプチツヒ街）　6　**エスダー・ウンド・ジツクホフ**（伯林ゲソツツルード街）
7　**サラマンデル・コンツエルン**（伯林）

切　取　線



ヨーギヨーセメント
品質均一優良　輸送至便
ヨーギヨー高級セメント
早期高強度　脱枠迅速

登録商標



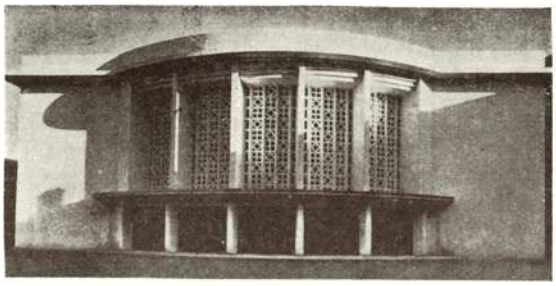
LION BRAND

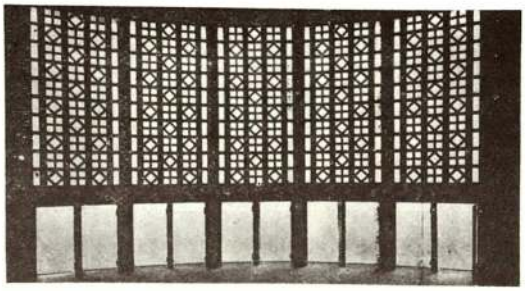
資本金　五百万円　年産　貳百廿万樽

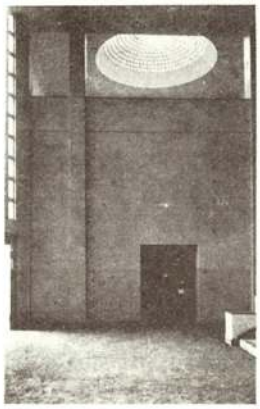
大阪窯業セメント株式會社
大阪市北区堂島濱通二丁目
電話北百一一〇至一一三番

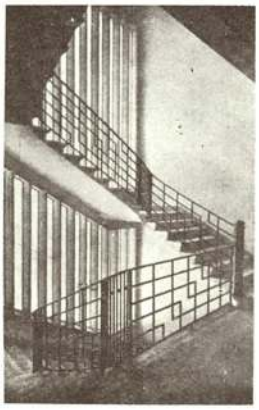
工場　大阪市港区南恩加島町
電話　桜川一一七七・二六〇九・二八四三

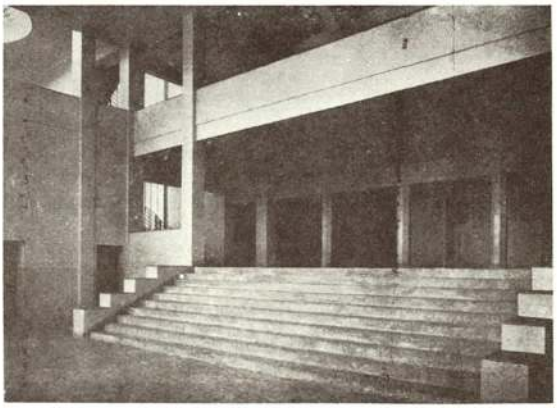
東京出張所　東京市神田区表猿楽町
京都出張所　京都市二条駅前











佛國　リヨン　公會堂クロア・ルース　　設計　ミツシエル・ルー・スビツツ氏

切　取

最新、最良、最廉價

米國チヤンバーリン會社製

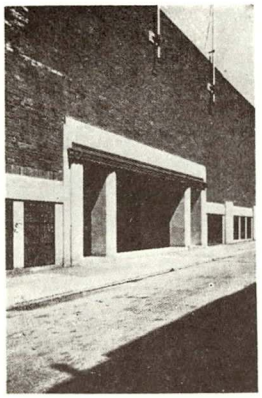
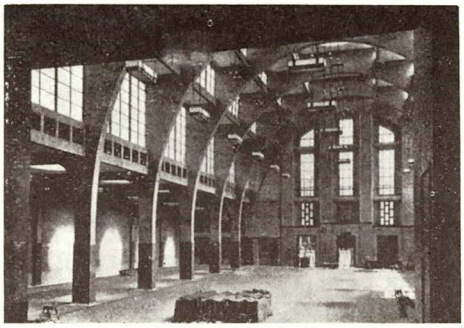
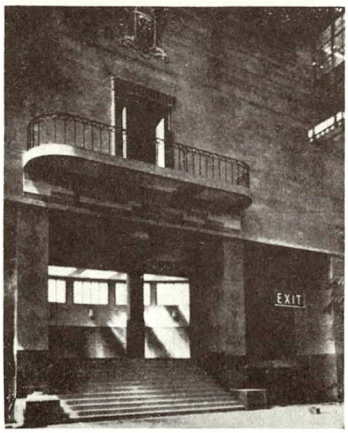
ロール　スクリーン

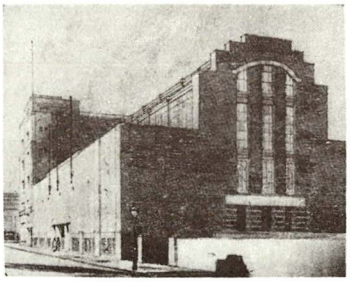
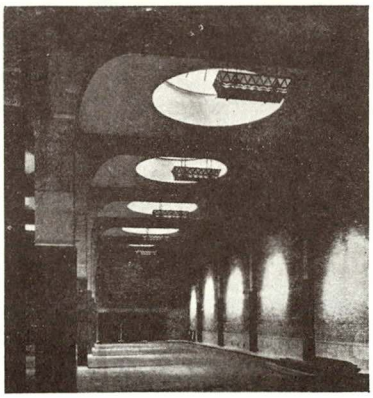
御報次第實物見本御覽に供すべく候

大阪市西區土佐堀船町三二番地

日本チヤンバーリン商會

電話土佐堀八一五六番

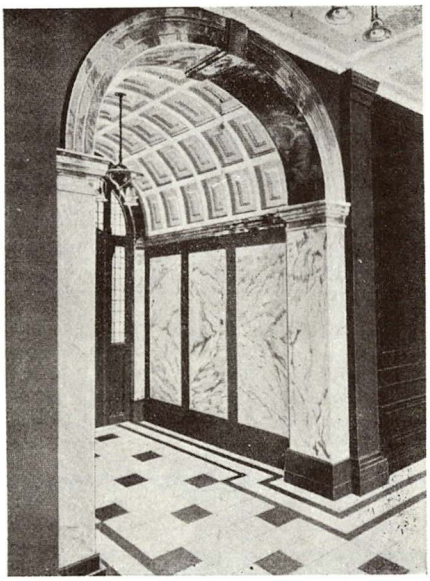





英國　倫敦　帝室圖藝館　　設計　イーストン＋ロバートソン兩氏

切取線

DUNLOP RUBBER FLOORING





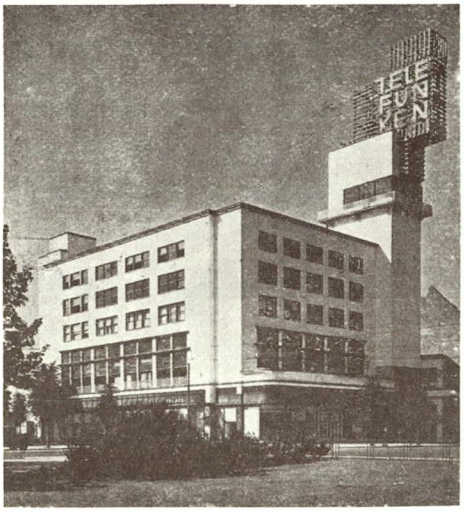
弊社製ゴム床敷は既に數多の官衙、會社、汽船並に諸家庭に敷込まれ、快適なる其の感じは御使用家各位の御滿足御賞讃を得つゝあります。
御必要に應じ何時にても社員を派し詳細に亘り御要求事項を御說明申上げます。

神戸市脇之濱
ダンロップ護謨(極東)株式會社
各地出張所

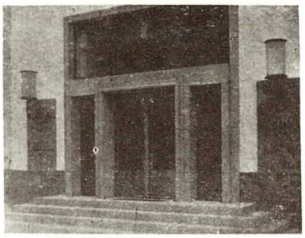
ダンロップ護謨床敷

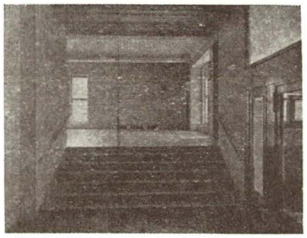












獨逸 伯林 ライヒスカンツラー廣場 事務所　設計 ハインリツヒ・ヒエトラウメル氏

切取線

純國産日金印シリンダー錠

シリンダー錠の種類及寸法

種類	寸法		
	ケース	バックセット	フロント
五〇一號	長一四五粍 巾九二粍 深二八粍	六三粍（二吋半）	長二〇三粍 巾三二粍（一吋四分ノ一）
五〇二號	長一四五粍 巾九四粍 深一九粍	六七粍（二吋八分ノ五）	長二〇三粍 巾二五粍（一吋）
五〇三號	長一〇六粍 巾七〇粍 深一六粍	五〇、五粍（八分ノ七吋）	長一四八粍 巾一二二粍（一吋）
特殊安全裝置付五〇四號	長一四五粍 巾九四粍 深一九粍	六七粍（二吋八分ノ五）	長二〇三粍 巾二五粍（一吋）
一〇二號	長一〇八粍 巾八六粍 深一九粍	六三粍（二吋半）	長一五二粍 巾二五粍（一吋）



◆◆商工省奬勵金受領
◆◆優良國産品推奬

◆◆價格低廉機能優良
◆◆至便至利安全無比



◆合鍵絕無、盜難除完全生命財産の安全無類
◆ボタン一つの作用にて外部よりは鍵無くしては開扉不能なるも内部よりは鍵を用ひずして開扉自由なる故地震火事等の非常時に安全且便利至極
◆貸事務室、アパートメント、ホテル、住宅玄關、應接室用として絕好必須
◆不體裁なる棒鍵に代ふるに優美高雅なるニッケル製鍵となる
◆五〇四號は特殊裝置を施し安全の上にも更に安全の構造となつて居りますから重要室、女關用として天籟の福音
◆マスター鍵は御希望に應じます

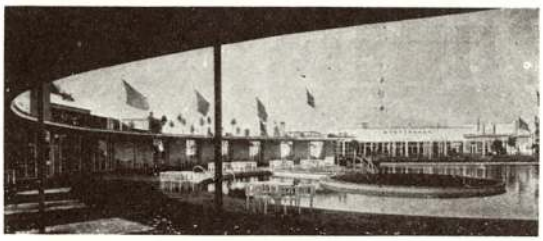
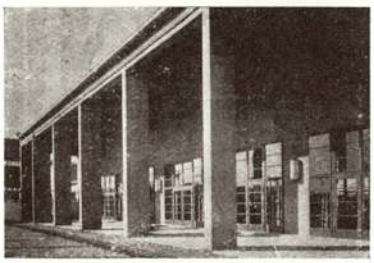
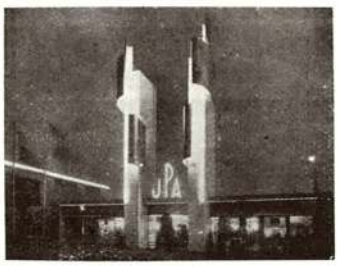
特徴及用途

本社 大阪市西淀川區大仁東二丁目
電話土佐堀(41)五八五〇番二八五番 五八六番四一〇六番

出張所 東京市丸ノ内有樂町報知ビル
電話丸ノ内(23)四九七二番 三六〇四番

日本金具株式會社





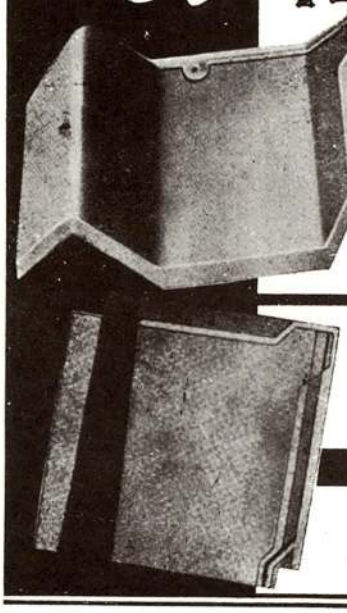

國際毛皮展覽會 IPA・1930・ライプチツヒ

御取寄申込

高松式昭和

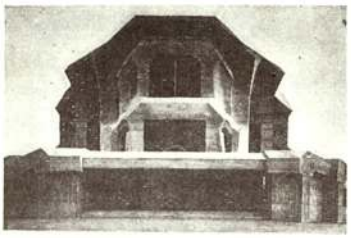
營業品目
各國產日本瓦
同色瓦
昭和瓦
敷瓦壁地張瓦
洋スパニッシュ瓦
伊太利瓦
フレンチ瓦
其の他瓦全般

製造
販賣
施工

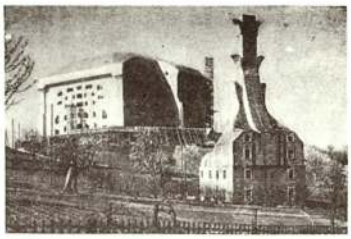


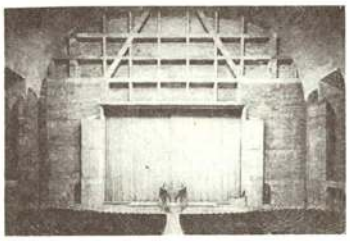
高松菊治郎商店
大阪市末吉橋通四丁目三十一番地
電話船場(83)九四一番

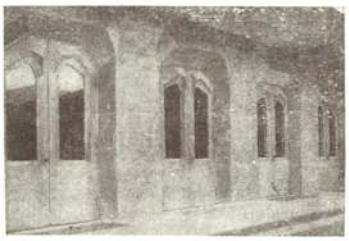
代理店　工材社
大阪市西區京町堀通一丁目四十番地　電話土佐堀(44)五八〇九番

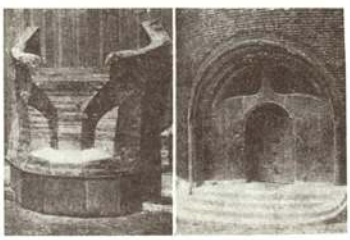












8





9



瑞西　ムアテゴテアナ劇場ハツドルナ　8–9　住宅（ハウス・ザユルデック）　設計　ルドルフ・シユメイナー氏

切取線

最新發明　防水工事界之革命

專賣特許

セメファルトプライマーに就て

發明者　阪口芳三郎

防水工事の施工に際し從來アスファルトをコンクリートに完全に密着せしむるにはアスファルトプライマー（アスファルトを輕油等にて稀釋したるもの）をコンクリート面に塗布しこれに依りてコンクリートとアスファルトとの密着を容易ならしむる方法を採り來りたるも該方法は某國人の有する特許權（特許第四八六三號）に抵觸するものにして讒者の等しく患ひつゝある處なりしが發明者は此コンクリート面にアスファルトプライマーを塗布する事の前述の如く既特權に抵觸する事は吾が國防水工事界にとりて由々しき問題なる事に留意し何等該特許權に觸れずして爾一層有効且つ施工簡易なるプライマーを發見する事に努力し遂に今回優秀なる理想的プライマーの本邦獨自最初の特許權を穫得するに至れり。

次に從來のアスファルトプライマーは次の如き缺陷あり。

1、コンクリートが完全に乾燥せざる場合はこれに塗布する事を得ず即ち水氣の爲浮上りてその用を爲さざればなり。（施工能率低下）

2、アスファルトプライマーは塗布後猶相當時間の經過を待たざれば防水工事を施工することを得ず。（施工能率低下）

3、アスファルトプライマー塗布後防水工事前に於て降雨等ありたる時は洗ひ流さるゝ處あり。（膠着性不足、防水能力不備）

4、コンクリートとアスファルトとの密着力弱し（膠着性小）

セメファルトプライマーはアスファルトと最も完全に融合する特性を有し且つ以上の缺陷を補ふべく案出せられたるものにして次の特徴を有す

1、特性　コンクリートに水氣あるもアスファルトを完全に密着せしむ。

2、施工能率の增進　塗布後一時間内外にて防水工事を施工することを得。

3　防水性　セメファルトプライマーはそのもの自身にて大なる防水能力を有するを以て塗布後降雨等の爲絶對に洗ひ流さるゝことなし。

4、膠着性　セメファルトプライマーはコンクリート内部へ迅速に浸透し、且其上に塗布したるアスファルトと強く結合する故にコンクリートと防水層とを完全に膠着するものなり。

5、施工簡易　セメファルトプライマーは淡褐なる液體にして乾燥早きが故に刷毛引きにて施工最も簡易なり。

別途使用　本劑は防濕防蟲の特性を有するが故に建築物床下等に塗布すれば衛生上最もよし。

2、右の外（糊が非常によくつく）の特性をも有する爲リノリウム下塗布用として最も推賞さるべきものなり。

發賣元

工材社

本社　（大阪市西區京町堀通一丁目四〇番地　（電話　土佐堀五八〇九番）

出張所　（東京市芝區南佐久間町二丁目三番地　（電話　芝二五〇六番）

建築工事の計劃と實施

（2）

渡部圭吾

三、實施と標準の維持

計劃が終りまして愈々現場に出ることになりますれば、工事施工といふ戰の火蓋が切られたのであります。社會奉仕といふ錦の御旗の下に、眞一文字に豫定計劃を進めなければならぬのであります。戰爭に尤も有効な砲火とも稱すべき、先きに制定した標準を維持することに努力しなければなりません。主腦者は常に戰線を統一しなければならないのであります。一部が出過ぎても又一部が遲れ過ぎてもいけないのです。全體が調和して進行しなければならないのです。又一人の努力よりも共同の努力で進まなければならないのであります。

吾々の『ビジネス』を戰爭にたとへたのでありますが全く戰爭と同一であると稱してよいのであります。それで戰爭の駈引上手即ち現場に馴れてゐるといふだけでは決して成功するものではないのであります。主腦者はその著書の一節に、「科學的經營の形式を以て科學的經營の眞髓即ち根本觀念を誤解してはいけない全く同一なる形式である場合に於ても、惡結果を惹起し又は非常な良結果を生ずることがある、即ち科學的經營の根本觀念と結ぶ時には最も良好なる結果を生ずべき形式も誤りたる觀念と結び付く時は失敗に導くべし」と述べてをり、又「科學的經營の眞髓（註一）は一種の觀念であつて、之と四つの根本原理（註二）との結合に過ぎない」と說いてゐます。即ち如何に科學的經營法の形式を整へても、科學的經營の眞の精神に依つて管理しませぬならば、決して成功するものでないと云つてゐます。然もテーラーが科學的經營の實行に當りまして、その意氣の旺盛であつたことは多くの非難と迫害とに堪えながら斷じて其の主義を曲げなかつたことを見ても解かるのであります。

例へば或る作業を合理的に研究し、之に最も適當した職工を選擇し、更に指導や訓練を完全にいたしましても、監督と職工との間に融和を缺いで居り、職工自ら奮勵して工事を完成せんとする意氣がなかつたならば、決して成功するものではありません。又監督が單に賃銀切下の爲めにこの手段を利用せんとする不純な考へを有つ場合などは、決して良成績を擧ぐることが出來ないのでありまして、管理の合理化を期せんとする純粹にして燃ゆるが如き熱意こそ成功を生み出す母の役をなすものであります。

註一、テーラーの科學的經營の眞髓

科學的經營の眞髓とは、雇主及被傭人をして最大の繁榮をなさしむることである。最大の繁榮とは會社又は其の所有主に對して多くの利益を齎らしむることのみでなく

事業が各方面に亘り持續的にしてよく發展してをることを意味するのである、之と同じ意味で、凡ての被傭人の最大繁榮と云ふのは、其の同一階級の人々より高き賃銀を得ることのみでなく、更に重要なる點は最大の能率あるものとすること、即ち凡ての勞働者に其の生來の才能に適せる仕事を與へ、出來得る限り多量に仕事をなし得るものとすることである。

註二、テーラーの四つの根本原理

a、眞の科學の利用
b、科學的の人選
c、職工勞働者教育及科學的使用
d、經營者、勞働者の間に於ける親密なる友誼的協調

四、現場管理

管理と云ふことは先きに述べました工事の計劃や標準を、少しの故障もなく、遲滯もなく、完全に遂行し反復して行ける樣に、計劃や標準を現實化すべき頭の働かせ方と仕事の取扱方とを意味するもので、之れには、戰術にも匹敵すべき形式的な條項と、先きに述べました合理的管理の根本精神の體得と、之れを實行せんとする意氣とが含まれておるのであります。

次に項を分ちて是等の形式的條項を說明いたしませう。

1　命令と指圖

命令は相手方にはつきりと徹底せしめなければ、其の目的を達しないものであります。命令の仕方は簡單明瞭に、然も能く要領を得てゐなければなりません。又管理者は威嚴なくして其職能を全うする事が出來ませんからその態度は嚴肅であり、且命令通りにしなければならない方法でなければならないのであります。尙命令者は下請や職工に對して信用がなければなりませんが信用を得るには凡ての行爲が彼等を信服せしむるものでなければならないのであります冗言と輕率の態度とは命令を發する場合の禁物であります。尙從來は世話役やその代表者によく口頭で物を言ひ付けたのでありますが主要命令を言ひ聞かした上更に指令傳票に依つて傳へることが一層合理的であります。是等の傳票には、愼重に研究せられた命令（作業の方法）が、順序正しく、要領よく、簡單に記載せられてをらねばなりません。又重要さの程度に應じて色を替へた指令傳票を發することもあります。その文章は平易で誰にでも解るものであり、文章も又小學校を卒へた者には誰にでも解る程度のものでなければなりません。然もこの傳票は、作業の始めに於て、必らず之に從事する凡ての人に配布さるべきであります。

命令は、目で知らした上に、耳で知らしめる方が有效であり、更らに心の底にまで命令を浸み込ませることがよいのであります。それ故、最も重要な命令は、この三段の方法をとることが必要であります。例へば職工を呼び寄せて指令傳票を渡すと同時に、よく言ひ聞かせ更に賞罰を附することなどが其の一例であります。

次に指圖の一例としまして混凝土打工事機械の使用に關する指圖書を御覽に入れます。

（A）「ミキサー」に關する注意

1、据付

「ミキサー」の据付には地盤の硬軟により適當なる基礎を作り先づ「ベツドフレーム」を水平に而も正確に据付け出來る丈け其の動搖を防ぐ方法を取るべし。

ロ、圓滑運轉

a、「ドラムローラー」の中間軸や捲揚軸の各軸其他注油部分の油壺には砂塵の混入或は油孔の閉塞等なきや否やにつき時々精細なる檢査を行ひ注油を怠るべからず尙「グリースカップ」を備ふる場合には「キヤップ」の紛失を防ぎ「グリース」の補給を忘る可らず。

b、「ドラムギヤー」及原動機の「ピニオン」に適當に「グリース」を塗布する事を忘るべからず。

c、「フラクションクラッチ」の働きを檢査し「サイドローダー」の上下運動を自由ならしむべし。

d、齒車、其他摩擦部分に砂又は混凝土等の嚙み込まるゝは機械の壽命を短くするものなれば注意すべし。

e、「ドラム」中間軸、原動機の据付を平行ならしめ且各所締め附「ボールト」の弛緩せるものを時々締直さしむべし、機械運轉の場合に騷

音甚しきは何れかに故障あるものと知るべし。

f、「ドラム」の回轉速度は其の外周に於て一分間二百尺内外なるべし、速度の大なるは混合の工合悪く、遅きに過ぐるは能率のあがらざる結果となる。

g、溢れたる混凝土の堆積により「ドラムローラー」の回轉を阻止することあるを以て下部の見悪き部分は特に注意すべし。

e、「ミキサー」及昇降機に限らず凡ての機械は手入れ及掃除を完全になし得る様据附くべし。

ハ、給水

給水管と自動給水槽との斷續は三方「ゲートバルプ」に依るものなれば給水槽に給水したる場合は、水槽上部の空氣孔より流出するに及びて斷水すると同時に「ドラム」内に給水する裝置となり尚一定の水量を給水する時は自動的に停止するものなれば之等の操作が完全に行はれ居るや否や充分に點檢すべし、特に「レバー」と「ホース」との關係三方「ゲートバルプ」摺合せ悪しき爲めの漏水、水量指示裝置と實際水量の關係を調査し調整すべし。

ニ、雜

a、「サイドローダー」の底部を叩く事は禁止すべし。

b、混凝土工事一時間以上休止の場合又は終了の場合には水にて（砂利を入るゝは可なるも栗石、玉石等を入るゝは絶對に禁止すべし）掃除すべし。

c、機械に現場修繕をなし能はざる故障ある時は直ちに機械部に報告し其の指揮を仰ぐべし。

（B） 昇降塔に關する注意

イ、混凝土昇降塔は安全なる基礎の上に（軟弱なる地盤なる時は杭打ち捨土臺又は混凝土打とすべし）垂直に設立し各所取附「ボールト」等落なく控綱等は「ステー」金物により完全に取り附くべし。

ロ、建方終了の上は「ローラーバケツト」釣枠漏斗、各所「シープ」「タワーブーム」流樋等完全に取附け支障なきや否やを點檢すべし、流樋は規定の勾配（四寸以上六寸以下）とし臺附金物、タコ金物、「タツクルブロツク」、「ワイヤーロープ」等にて完全に「ブーム」より釣り下ぐべし。

若し「ケーブル」線により多數の流樋を釣らんとする時は其設計を計劃部に依頼し其の太さを決定すべし。

控綱の尻は風壓其他の荷重に對し完全に支へ得るものとし（小なるものは杭打根搦附とし、大なるものは混凝土打とすべし）「ターンバツクル」、「クリツプス」共規定に從ひ正しく堅く取附け尚隨時檢査し得るものとすべし。

ハ、「ホイスト」は其の索引力に堪へ其の震動を少なからしむる方法を講じたる土台の上に据附くべし、其他据附及運轉等に對する注意は「ミキサー」の場合と同一とす。

ニ、「ミキサー」及「ホイスト」は雨雪に對し適當の保護を講ずべし。

ホ、「フロアーホツパー」は出來得る限り混凝土打場所近く据附け又混凝土運搬車通路は出來得る限り作業中混雜せざる様又押し易き様配列せしむべし。

2 協調

土木建築工事は各種の作業を逐次連絡結合せしめて、始めて出來上がるもので、各個の作業には、必ず之を管理する人と、作業に從事する幾人かの勞働者とがあつて一の團體となすものであります。

現場主任の最も重要なる責務は各作業を擔當する職員、各作業の執行者たる下請人及其の使役する勞働者、此の三者の間をうまく連絡調和せしめ、何等の故障なく工事を進めて行く事であります。又現場の各係員は現場主任や同僚とよく協調し自己擔當管理する作業が他の作業の邪魔にならぬ様に心掛け、且つ其の擔當作業に就ては迅速に而も正確に進行するやうに計らなければならないのであります。

現場各作業を互に協調して進行せしむる第一の要諦は、各下請人をして、其の請負つてゐる作業に

取掛かる前に、先づ大體の期限を示して綿密な工程表を作成せしむることであります。現場主任は此の工程表を仔細に研究して、更に之等を取纏めて一つの統一せる實行の工程表を作り、之に依つて、下請人や勞働者をして互に協調努力せしむるのであります。

工事現場に於きまして、工期を延引する主なる原因は一つの作業を終り他の作業に移る場合の手待と、必要な時期に必要な材料が來ないための手待とに基因するものでありますが此等は何れも連絡協調の足りない爲に起るのであります。例へば混凝土打が終了した場合に、工事が休止狀態となる樣な事は屢々見受けるのでありますが之は混凝土打作業と其の後の作業との間の協調を怠つたことに基因するのであります。

以上の如く部下や下方職工と協調して進行しなければならぬことは勿論でありますが、先きにも述べました通りに設計監督者、工事施主、監督官廳、交通運輸關係者、近隣關係者等に對して、色々の交涉すべき問題が澤山起るものでありますが、これ等の事は豫め對策を講じ得らるゝものもありますが突發的に起る問題もなかなか多いものであります。これに對して一々その衝に當り、工事の進行を順調ならしむるためには、誠意を以てよく協調し、圓滿なる關係を持續しなければなりません、寧ろ機會ある度毎に工事のため有利なる援助を得るやうに努力しなければなりません。

これ等のことのためには、施工者として最も大切な工事材料や施工方法のことは勿論、構造及意匠設計に關する知識も必要であります、更らに所屬官廳、會社の組織系統をも知つてゐなければなりません。近隣關係、交通運輸關係等に關してはこの方面の法律常識や取締上の規則等も承知してゐなければなりません。

3 指導と訓練

イ、指導

在來の作業が專ら熟練的技術によつて營まれたのに反しまして現時の作業に於ける一大特色は科學的の技術によつて營まれる部分が次第に多くなりました。即大工事が益々多くなりましたため、大量を製出する作業を目標とするやうになり、從つて理智を要求することが益々增大したことであります。それ故今日では、作業に投ぜらるべき人的の能力も、單に勞働力のみでなく業務(技術員並に事務員)能力と稱せらるべきものが新たに附加へられることになつたのであります。

工事數量が多くなつて來て、理智が作業に加へらるゝやうになりましてから、勞働力は次第に變化して、同じ作業に從事しても、筋肉勞働を主とする執行勞働者と、精神勞働をも必要とする指導勞働者との二つに分かれる樣になつて來ました。從つて執行勞働者は、指導勞働者の指揮によつて作業に從事するのであつて、この事は昔の樣に熟練工を得られないと云ふ點もありますが、指導勞働者の如何によつては、半熟練工で足りると云ふ事も多くなつたのであります。この重大な役に當る指導職工の主なる職能は、一般從業者の個々の作業に對する指導と訓練にあるのでありますから、世話役又は小頭と呼ばれる指導職工は、各々その專門技術に堪能な者でなければならないと同時に、多數從業者を統率して行けるだけの威信、同情、公正な判斷力、强固な意志、敏捷な觀察力及一般作業の遂行に關して充分な誠實さを有する者でなければなりません。就中移動の頻繁な多數從業者に對して最も急速に作業方法を傳授し且訓練することを要するのでありますから若しも世話役や小頭等が、作業並に機械器具に對する指導が拙劣であつて不充分なる時は多數從業者は作業習得に大なる障害を來すのであります。又もし作業並に機械に關する技術的指導力が完全であるとしましても、部下從業者に對して同情の念が薄く、徒らに感情にのみ奔る時は、公正な判斷力を缺くことが多く、多數の信賴を缺ぎ折角の指導者たる任務を果すことが出來なくなるのであります。

(以下次號)

誌上講座

都市・建築・音響 (十)

佐藤武夫
中野勉

第六章 建築防音構造

(一) 一般建築物防音構造

前章第二項に述べたる如く、一般建築物内の防音構造の意義には二つのものがある。吸音構造、及び遮音構造が之である。前者はある建築物若しくはある室を基準として考ふる時には、對内的防音法であり後者は對外的防音法となる。故にある建築物に於いて防音構造が完全にせられてあると云ひ得られる爲には、對内的並びに對外的に、換言すれば吸音並びに遮音の兩構造が完全にせられなければならない。

一般建築物と云つても、事務所・病院・ホテル・アパート・學校・工場・住宅等種々なるものがあり、各その機能に從ひ防音構造の取扱ひ方にも差異があり、且つ又それ等の建築物の存在する各地域に從ひ對外的防音構造の輕重も生ずる譯である。之等の各種各樣の建築物に就いて、一樣にその防音構造を論ずることは、却つて煩雜なる故に、各々の場合に就いて簡略に之を論じたいと思ふ。

(二) 事務所建築に於ける防音

近來都市の發達と共に、事務所内の騷音が次第に問題視せられるに到つた。一般に事務所が都市の中樞の騷々しい場所に存することもその原因の一ではあるが、經濟上の關係から一室内に多數の事務員を收容すること、並びに種々なる機械設備が發達して來たこと等もその原因の一に數へることが出來る。加ふるに現代建築物は硬い耐火質の材料で仕上げられてゐる故に、殆ど發生された騷音が吸收されることがない。事務所内に於いては通常、音響に對する條件が極めて惡いと云ひ得る。殊に我國の如き夏時濕度の高い國では、窓を開放せなければならず、かくすれば外部騷音は多量に室内に入り來つて、いやが上にも事務の能率を低下せしめるのである。第四章、騷音と能率の項に於いて述べたる如く、一般に事務員の能率を低下せしめ、その健康に惡影響を及ぼす騷音は五十デシベル以上の騷音度を有するものである。アメリカに於いて調査せられたるものによれば、一般の事務所の約半數は五十デシベル以上の騷音度を有してゐることが報ぜられてゐる。東京市に於ける事務所にあつても、五十デシベルを越ゆるものは、筆者達の調査の結果よりするも少くはない。かかる事務所にあつては一日も早くその騷音を防止することが肝要である。アメリカに於いて調査せられた結果を見るに、騷音除去のために得た利益として、凡そ次の如きものが擧げられてゐる。

(一) 事務員の健康を增進し、その結果缺勤數を減じる。
(二) 事務員の氣質を改善し、執務の意思を增加する。各部門の監督者の言によれば事務員相互間の軋轢が相當減ずる。
(三) 電話の話が聞えやすくなる、長距離の電話も態々電話室に行か

ずしてデスクから掛け得られる。

(四) 面談は氣持よくなし得る上に、周圍の席にゐる事務員の妨げとならない。

(五) 絶えず喧騒なる騒音に惱まされることがないために、事務所全體を通じて一般に仕事がしやすくなる。

高級な給料を拂つてゐる事務員をば、不適當な條件の下で働かせることは明かに不經濟な遣り方と云はねばならない。それが爲に受ける損失は、防音裝置に要する費用よりも更に莫大なものがある。然らば事務所内の防音裝置は如何にすれば良いかと云へば、現在之に用ひられてゐるものは、主として吸音構造の樣である。一般の事務所建築にあつては、隣室より傳達される騒音よりも、その室内に於いて發生せられる騒音、並びに外部より傳達される騒音の方がより大であると云はねばならない。換氣及び採光の都合上窓をば全然閉鎖しておくことの出來ない現今の狀態にあつて見れば、防音の爲には吸音構造を主としなければならないことは明かな事實であらう。

吸音構造に用ひられてゐる材料としては、フエルト、アコースチ・セロテツクス (Acousti-Celotex)、アコーストリス (Akoustolith) 多孔質漆喰等がある。

フエルトは從來よく用ひられる材料である。フエルトにも多くの種類のものがあるが、最も廣く使用せられてゐるものとしては、牛羊馬等よりとれる獸毛製フエルト、獸毛石綿混合フエルト、パルプ製フエルト等がある。通常之等のものは天井、壁等に張り付けられて用ひられるものであるが、天井に張られる場合が最も多い。天井に張るには細長い木の板を縱橫に打ちつけその上に張り、更にその上に着色したモスリン又は孔のあいてる油布、又はトンチン織 (屑毛織の一種) で覆ふ。通常には換氣をよくするためにフエルトと布の間には隙間をあける。

アコースチ、セロテツクスは普通のセロテツクスに多數の細孔を穿つたもので、セロテツクスの三十%の吸音係數に對して七十%からの吸音係數を有する强力なる吸音材料である。之れはタイルの形として使用される故に、使用法も便利である上に、その上に裝飾を施したりペンキ塗とするともその効力は實際上何等の變化をしないと云ふ特徴を有してゐる。

アコーストリスは耐火質の材料をタイルとしたもので、主として輕石とセメントで製作される。

アコーストリス、プラスターはアコーストリスより改良せられたもので、普通のプラスターの如くメタルラス等に上に通常二分の一吋厚に塗つて使用される。淡灰色で殆ど白色に近く、自由に着色せられる吸音係數は二十九%である。

サナコースチツク・タイル (Sanacoustic Tile) は、金屬板に多數の孔を穿つて、その緣をば斜に折りまげ、その中に吸音材としてアスベストフエルト又はバンロツクウールを入れたもので、金屬板の表はエナメル塗りとなつてゐて、明るい清潔な感じを與へる。吸音係數は六種の型によつて異なるけれども六十%より七十五%位である。

ナツシユコート (Nashkote) はフエルトを天井、壁等に防水セメントで貼り付け、その上に特殊の織物をはり種々なる表面仕上げをしたものである。曲つた表面や、角の部分にも自由に施工が出來るし、織目を見せることもない故に好都合な材料である。表面仕上により種々なる型のものがあるが、吸音係數は二十%位より八十%位の間である。詳細は前章の第二十一表を見て頂けば明かである。

マフテツクス (Maftex) は甘草の根より製作されたもので、間仕切、壁・天井等にストラクチユラルボードとしても用ひられる。吸音係數は二十%である。

サビナイト (Sabinite) は有孔質漆喰の一種であつて、吸音係數は二分の一吋厚に塗つて二十一%である。

上記の各材料はアメリカに於いて製作され販賣されてゐるもので、此の他にも尙種々あるけれども、吸音係數の知られてゐないものは省略する。我國に於いて製作されてゐるものにも數種あるが何れも吸音

係數の知られてゐるものはない様である。

國産セロテツクスは近時我國に於いて製作されるに到つたもので、アメリカに於いて製作されてゐるものとその原料は全く同一である故に、その吸音係數等に到つても大差ないものと思はれる。

トマテツクスは木材纖維より製せられる國産防音材の一種で、淡黄色の外觀を有せるもの、近時次第に各方面に用ひらるゝに到つた。

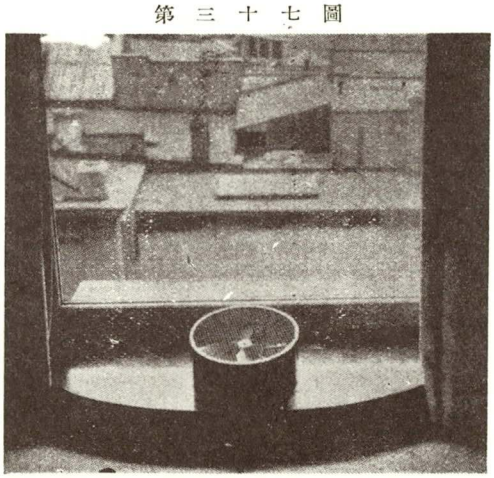
フエルテツクスはフエルトをば主要材とせる國産防音材で、外觀は暗色、最近市場に現はれた爲に未だ餘り知られてはゐない様である。

フジテツクスは木材纖維より製せられる國産防音材の一種で、外觀は淡黄色、防音材としては未だ餘り知られてはゐない様である。

以上の各材料は總て吸音性のもの、即ち對内的のものであつて、之に對して對外的のものに就いて次に述べよう。事務所建築等にあつては對外的と云つても、隣室より來たるものよりも、外部街路より來る騒音の方が大であつて、その對策としては間仕切壁を厚くして、騒音を遮斷するよりは寧ろ戸外に對する開口部、窓等に裝置を施こすことを主眼とすべきである。冬期は何れの事務所に於いても窓は閉鎖されてゐる故に、外部騒音に對しては良き條件にあるけれども、夏時は換氣の爲どうしても窓を開放しなければならないから、特別に何等かの方法を講じなければならない。近時ニューヨークの大ビルデイングに使用されて、この目的によく合致されるものとして稱讃を博してゐるものにマキシム、ウインドウ、サイレンサー (Maxim Window Silencer) なるものがある。之は單に窓臺の上に簡單に裝置されるものであつて、窓は全部閉鎖された儘使用せられる。構造の概略を云へばこの裝置の中にあるフアンにより戸外の空氣をば室内に送り込む様になつてゐるもので、その間に戸外の騒音を吸收して了つて室内には何等の騒音が入らない様になつてゐるものである。第三十七圖はそれを裝置せる圖である。

同じく窓に裝置せるものではあるが、之れとは全く別な方法のものに、國産品として防音カーテンなるものがある。之れはカーテンの一種であつて、窓を開放したまゝ使用出來るものであるが、その効果は未だ試驗中のものであり、確實なことは云へないけれども、相當効果ある様である。

第三十七圖



第五章の第二十三表によれば、一般の窓及び扉は二十五デシベル内外の減音率を有してゐるが、筆者達が最近東京市内のビルデイング内で調査せるものによれば、それらの建物内の事務室では、窓を開放した場合と閉鎖した場合とでは、五デシベル乃至十デシベル、位の差異であつた之れは一つには各室の條件及び窓等の取付方が實驗室に於けるものと實際に施工せられたるもの、間にあつては相當の相違がある結果と考へられる。今東京市の街路騒音の最も甚だしい位置にある事務所、即ち第十四表、第二十二圖により六十デシベルの騒音のある場所に位置する事務所を考ふる時には、その室内の騒音は窓を閉鎖したる場合と雖も、五十五デシベル乃至は五十デシベルとなる。即ちかゝる位置にあつては、冬期の窓を閉鎖したる場合と雖も、尚室内の騒音は事務員の能率を減殺し、その健康を奪ふ程度のものなのである。夏時に於ける被害に到つては今更云ふまでもないであらう。

今一般事務所建築の室の大いさをば、室の高さを十一尺乃至十二尺間口及び奥行をば一張間及び一張間半と假定し、一張間の長さをば二十尺前後と假定すれば、天井面積とその他の室内表面積の割合は略四對一となる。そこで今天井に吸音材料を用ひた場合、即ち室の全表面積の五分の一だけの面積に吸音材を取付けた場合を考へて見ることゝ

する。この場合最初室内に六十デシベルの騒音があつたと假定し、而かも之等の騒音は飽和狀態に達してゐるものとすると、第五章の(15)式により

$$\log E_0 = 60\,(db) = \log \frac{4P}{a \times S} = \log \frac{4P}{\varepsilon S \times 0.03} \quad \cdots\cdots (36)$$

となる。之れは室内が全部漆喰仕上げとされてゐる場合、換言すればその平均吸音係數が〇・〇三の場合とする。今この時に天井面に〇、三の吸音係數を有するセロテツクスを張つたとすると、その平均吸音係數は

$$\frac{0.03 \times 4 + 0.3}{5} = 0.084$$

となる故に。(36)式は

$$\log E_0' = \log \frac{4P}{\varepsilon S \times 0.084} \quad \cdots\cdots (37)$$

となり、この二式より室内の騒音度 $\log E_0'$ を求むる時には

$$\log E_0' = 55.6\,(db)$$

を得る。又セロテツクスの代りに吸音係數〇、七のアコースチ、セロテツクスを使用した場合には同様の計算により、室内の平均吸音係數は〇、一六四となり、室内の騒音度 $\log E_0'$ は

$$\log E_0' = 52.6\,(db)$$

となる。一般の事務室に於いては天井に吸音材料を貼るのみで、窓を閉鎖するだけの効果がある譯である。

一般に事務室と云つても、室外騒音が室内に發生される騒音に比して大なる時もあるし、又小なる時もある。前者の場合には窓の騒音防止に對する價値は相當大なるものがある故に、室内の冷房並びに換氣裝置の完備せるものにあつては、比較的低度の騒音に禍されるのみであるが、後者の場合には吸音材料の使用は絶大なる價値を有するものである。筆者達が最近調査せる東京市内の台灣銀行四階に於ける簡易保險の集計係機械室に於いては、多數の分類機を常に操作せるために室内の騒音度は七十五デシベルにも達してゐて、實に騒々しいものであつた。而かも室内では窓を開放せると、閉鎖せるとにかかはらず騒音度には殆ど何等の相違を見なかつた。かかる室内ではその騒音度を減ずるためには是非とも强度の吸音材料が必要であつて、吸音材を用ひる以外には之等騒音をば如何ともすることは、現在の科學知識を以てしては不可能であるとしか云ひ得ないのである。然しかかる室にあつては天井及び壁面の大部分に强度の吸音材を貼つても、その騒音度は略十五デシベル位しか減殺されない。即ち七十五デシベルの室では六十デシベル内外にしかなり得ないのであつて、未だ理想的な條件には相當に距たるものと云はねばならない。然し七十五デシベルからの騒音度を有する事務室は殆ど稀であつて、一般の事務室では吸音材をば適當に使用すれば、五十デシベル以下となし得るものと斷言出來よう。

(三) 病院に於ける防音構造

都市に建つべき病院建築が、都市の發達と共に次第に過重になりつつある都市騒音から、如何に防禦されねばならないかは、將來重要な研究問題の一つであらうと考へられる。病院建築に於ける防音構造も事務所建築に於ける場合と略同樣ではあるが、一は健康人に對するものであり、他は神經の常に苛立てる病人に對するものであるだけに、後者の方が更に嚴密であり、許されるべき騒音度も前者に比して遙かに低度であらねばならないと考へられる。然し現在の所病人に可とされる騒音度、即ち何等の肉體的並びに精神的疲勞を伴はない騒音度が、健康人に對するそれとどれ丈異なるかは明にされてゐない樣である。

若しも病院が非常に騒々しい場所に建てられるとすれば之等騒音に對する積極的防止策としては、單に建物の平面計畫に於いて、重要なる病室その他の室をば、戸外の騒音の影響しない位置に設けること以外にはない樣である。然しそれも敷地その他の關係で不可能なることもあり、凡ゆる場合に可能とは得ひ得ないのである。

病院の內部に於いて發生される騷音の中で、醫者、看護婦、患者、見舞客等の談聲、笑聲、足音、その他器具類を落した音等は先づ避け得られないとしても、避け得られるものとしては種々の機械、器具類の音がある。窓のガタガタ云ふ音、日覆のバタバタ云ふ音、バルブのシューシュー云ふ音、ラヂエーターのガーガー云ふ音、扉を閉める音等は設備さへ整へれば、充分に避け得られるものである。然しこの種の騷音は相當立派な一流の設備の整つた病院に於いても、屢々我々の經驗するところのものである。アメリカのある病院で、經濟上の要求により、他に離れた建物內に廣い空いてゐる場所のあるのに拘はらず第二地階に動力室を設けた所、夜の寂靜まつた頃になると、その建物內の動力室から水平距離で百七十五呎、垂直距離で七十呎も離れた遠い室にゐる患者には、恰かも隣室で操作してゐる樣なポムプの音が聞こえた。而かも實際ポムプの側に立つてゐる人にはそんなに騷々しくも思へなかつたとのことである。之れなぞは床からポムプの基礎を絕緣することを誤つた爲であつて、パイプや建物の構造體を傳はつて振動が傳波されたものと云へよう。又他の病院では相當の費用を拂つて、患者室の床をば全部覆つたけれども、五階に通じてゐるスチーム、ライザーの管には何等の注意を拂はなかつた。裸出しの一吋の管は百五十平方呎の裸出しの床よりも多くの騷音を傳達した。この場合には床を露出してパイプをばフエルトで包んだ方が廉價でもありもつと効果があつたと考へられる。

病院內部に發生される騷音にして避け得られぬものに對しては、それらの騷音が發生されたその位置で、四方に傳波されない前に減殺されることが考へられなければならない。殊に廊下等が通話管の如き作用をして、遠くの騷音を傳へる如き構造は絕對に不可と云へよう。之が爲には病院建築に適した吸音材料が考へられねばならない。病院の經營者はこの種の材料に對して常に次の如き質問を發する。即ちそれを施工して維持するにはどれ位の費用がかかるか、その結果は經費だけの價値のあるものであるかどうか、耐久的のものであるか等である。事實病院建築の吸音材料としては、よく騷音を吸收するものであると同時に維持費のかからぬものであり、衛生的である爲に洗滌のきくものであり、且つ外觀上異樣でないものであることが必要である。之等の諸條件に適するものとして米國のニヤー、ガード C.F. Neergard 氏(二)はナツシユコートA、ナツシユコートB、アコースチ セロテツクス、アコーストリツシユ、プラスター、サビナイトプラスターを擧げてゐる。

之等の材料を決定するためにニヤーガード氏は先づ維持と洗濯の標準をば、十八人の病院管理者から統計を得て定めた。その結果同氏は年に四回の洗濯と、二年に一度の塗換へが最も合理的なりと結論を下した。然し之れは多くの建築家並びに音響學者より餘り多すぎると非難を受けたけれども、同氏は病院に於いては特別な事情よりすることが多いのであつて、標準によるよりも多いであらうことを述べてゐる。

吸音材料にペンキを塗ることは相當の考慮を要する。何故なればペンキは各材料の細孔を塞ぎ、その表面を固くする性質を有するために吸音能率を著しく減殺するからである。ペンキをばブラツシユで塗る時と、噴霧吹付けとした時とでもブラツシユで塗つた時の方が吸音効果は悪い。アコースチ、セロテツクスはペンキ塗りにするとも影響はないが、その他の材料にあつては相當影響する故、ペンキ塗の場合には考慮を要する。

各材料をば石鹼水で、各回の間は十分乾燥する時間をおいて十回宛こすつたり、洗滌とペンキ塗りの價格の考査の結果ナツシユコートB アコースSチセロテツクス、及びプラスターが最も良好であることが明かにされた。理論的には吸音係數は少しく劣るけれどもアコースチカル、プラスターが最も良いことが云へよう。無機物であり建築には一般的材料であるからである。然し實驗室で見本を作るのと、實際の場合に施工するのとでは相當異なる故に、常に確實性があるとは云へない。又之を強く壓する時には濕氣が表面に滲み出て、細孔の上に薄い膜を作る故に、凡ゆる場合に於いて吸音効果が同一であるとも云ひ

得ない。且つ又プラスターは剝脫した場合は外觀上餘り良くない。故に實際に當つては、廊下及び臺所等に用ふるが良いと思はれる。ナツシユコートBは耐久的であり良材料である。アコースチ、セロテツクスは、その儘かスティンされるか、又は型で模様を押したものが多く用ひられてゐるけれども、スティンされたもの及び型を押したものは洗滌が利かない憾みがある。然しこの材料は多くの中で最も容易で廉價な維持費を有してゐる。ペンキ塗としたものは洗滌もきゝ、深い穴の中の塵埃はバキユーム、クリーナーで容易に取り除き得る。

プラスター類を除く吸音材料が總て有機物であるために、害虫、バクテリヤによる被害、及び吸音材が病菌の傳播の媒介物になりはしないかと云ふ危惧が起るのは當然であらう。然し多くの病院による統計からは、未だかゝる例は見ないことを報じてゐる。有機質の材料が害虫の巢となることは理論的には云はれてゐるが、防火建築内に使用されたものは、屢々之を洗滌することにより保護出來ることは病院の今迄によく經驗せることである。

病院の遮音構造としては、他の一般建築物の遮音構造と何等變りはない。遮音構造法の基礎的要旨としては、建物の構造體の繼續を切斷して、その間に中間媒質を入れて防ぐにある。然らざる時にはその音は空氣中を傳はると同樣にして傳はるからである。理論と實際には時として矛盾を生ずる。ある方法は時としては成功するが、ある時には失敗することもある。遮音構造は實驗室的試驗よりは、實際經驗に屬し、一般構造法の畑のものである。間仕切等に關しては試驗品により試驗されたものはあるが、床及び天井構造等に關して試驗されたものは少くない。又異なる實驗者により出された結果は、その方法の相違實驗狀態の差により非常な差がある。

遮音構造の理論的、實驗的結果は既に前章に述べた故に、本章ではニューヨーク市に建てられたある病院の平面及び施工に用ひられた方法に就き述べることゝする。

病院が靜かな場所にある時には、窓を開いた時の防音設備は必要ではないが、重量の交通機關が通る樣な場所に新しく建築される時には考慮を要する。管理部及び勤務部の騷音は出來るだけ病室から離し、看護婦室、臺所廊下等から避け得ざる騷音に對してのみ遮音構造が施工さるべきである。

建物の床全部は鋼梁で四吋厚のシンダーコンクリートで出來てゐるその上に二吋半の厚さに乾いた粗な無煙炭の燃殻を敷き、床仕上げはコルクラバー及びアスファルトを組合はせた柔いものを用ひてゐる。

病室には絶緣された吊手で吊された、吊天井が用ひられた。その中には厚いフエルトが入れられた。吊手を剛に取付ける時には遮音効果は減ぜられる。又特別な吊手を用ひた時には一般のものゝ、二倍乃至三倍の効果が得られた。この吊手と床の石炭の燃殻を併用することは上下の音の傳達を防ぐには充分の効果がある。

壁は若し二重壁とする時には、兩壁を接續しない樣に注意しなければならない。一本の釘が打たれてゐるだけでも隨分と影響するからである。又壁の頂部及び底部は施工に當つて充分注意を要する。

換氣法としては、暖房と併用して用ひられた。これは非常な効果を收めたかくの如く換氣を改良することにより、窓を開閉するための騷音の問題は自ら消滅する。

吸音材としては、アコースチ、セロテツクスが用ひられた。之れは維持費も廉く、吸音力の大なるに比して設備費も廉い故に病院用としては經濟的利益がある。

然し白色フエルトの上に膜を張つたナツシユコートBの方が外觀は遙かに優れてゐる。故に若しアコースチ、セロテツクスの上にペンキを塗つた時その外觀が良ければ、その方が吸音材として少しく利がある譯である。その他各構造材に要する單價等も記されてはゐるが、我國のそれと適應しない故に價格の問題は一切省略することゝした。

（註）

(1) 事務所の騷音防止法　東京商工會議所、產業合理化資料第一一號、昭和六年二月

(2) Charles F. Neergard, How to Achieve Quiet Surroundings.

電弧鎔接仕様書準備案

關場茂樹
Frank P. Mckibben. Consulting Eng'r. Gene.
Gene. Elec. Co. Schenectady. N.Y.

本準備案ハ余ガ六ツノ高層鐵骨建築ノ鎔接ニ關シ一様ニ使用シタル仕様書ナレドモ專ラ電弧鎔接使用ニ關スル準備草案タルヲ以テ建築法規ノ如キ種類ニ非ラザル事ヲ注意セラレタシ。

一九二九年五月十四日

第一章　定　義

【電弧鎔接法】Arc welding　電弧鎔接法トハ外部ヨリ機械的壓力或ハ鎚撃等ヲ用ヒズ電弧ニヨリ接合ヲ要スル鋼材ヲ鎔融狀態若クハ鎔融瓦斯狀態ーナシ互ニ相接續スル方法ヲ云フ。

【電弧鎔接】Arc weld　電弧鎔接トハ水素或ハ他ノ同樣ナル作用ヲナス瓦斯ヲ使用シ或ハ全ク使用セズ母體ト一電極棒或ハ二電極棒トノ間ニ起ル電弧ニヨリ生ズル鎔融熱ニ於ケル鎔接ヲ云フ。

【電極棒或ハ鎔接棒】Electrode　電極棒トハ特別ニ製造サレタル金屬線或ハ棒ニシテ電極トシテ高熱ヲ發セシムル線或ハ棒ヲ云ヒ鎔接サルベキ材片ヲ接合スル時此電極棒ヲ單ニ電極トシテ使用シ或ハ之レヲ鎔融セシメテ鎔接箇處ヲ充塡スルニ供スル線或ハ棒ヲ云フ。

【充塡金屬】Filler metal　トハ電極棒或ハ鎔接棒ノ鎔融ニヨリ鎔接スベキ箇處ヲ充塡スル金屬ヲ云フ。

【鎔接材】Weld metal　鎔接材トハ鎔接ヲ組成スル材料ヲ云フ。

【主材】Base material　主材トハ鎔接サルベキ材料ヲ云フ。

【隅肉付鎔接】Fillet weld　隅肉付ケ鎔接トハ互ニ直角ナル二平面ノ交叉線ニ沿ヒ肉付ケシタル鎔接ニシテ該鎔接材ノ斷面ハ二等邊三角形ヲナシ其二邊ハ主材ノ平面ト鎔融鎔接サレ其第三邊ハ露出サルヽモノヲ云フ。

隅肉付鎔接ノ大サハ其長サト幅トニヨリ表ハサレ長サハ兩端ノ凹窩Craters ヲ除外セル有効長ヲ云ヒ幅ハ鎔接材ノ斷面ニ含マルヽ最大二等邊三角形ノ邊ノ長サヲ云フ。

【衝頭鎔接】Butt weld　衝頭鎔接トハ鎔接ヲ要スル二主材ノ端邊ヲ互ニ相接觸セシメタル衝キ合セ接合端ノ鎔接ヲ云フ、而シテ該鎔接ニ於ケル二主材ノ端邊ハ互ニ相接觸スルコトヲ要セサルモ各主材ノ一表面ハ同一平面上又ハ平行平面上ニアルコトヲ要ス。

【連續鎔接】Continuous weld　連續鎔接トハ强度ト氣水密ヲ要スル關係ヨリ鎔接ヲ連續シテ用ヒタルモノヲ云フ。

【不連續鎔接】Intermittent weld　不連續鎔接トハ一線上鎔接セル部分トセザル部分ト交互ニアル短カキ鎔接ノ列ヨリ成ルモノヲ云フ。

【取付鎔接】Tack weld　取付鎔接トハ材片或ハ部材ヲ組合セ又ハ組立ツル目的ニ使用スル長サ短カキ點鎔接ヲ云フ。

第二章　材料ノ性質

【構造用鋼】Structural steel　本仕様書ニ於テ鋼ト稱スルハ建築法規ニ指定セラレタル構造用鋼ヲ云フ。

【電極棒或ハ鎔接棒】Electrode or Welding rod　電極或ハ鎔接棒トシテ使用スル線或ハ棒ハ軟鋼ニシテ均一等齊ナル物理的性質ヲ有シ表面規則正シク硬度一様ニシテ他ノ不純物ヲ含有スルコトナク酸化氣孔裂罅等毫モナキモノタルベシ。

線或ハ棒ノ直徑ハ指定寸法ヨリ〇・〇〇三吋（〇・〇七粍）ヨリ大或ハ

小ナル可カラズ。

熟練セル鎔接工ノ手ニ依テ使用サルル鎔接棒ハ水平面、垂直面或ハ仰向ケ位置ノ何レノ場合ニ於テモ善良ナル鎔接性ヲ有シ、如何ナル鎔接方法ニモ適用サルル特質ヲ有スル者タルベシ。

鎔接棒ノ化學的成分ハ下表ノ成分（百分率）ヲ有スルモノタルベシ。

	A級	B級（自動機械鎔接）
炭素	○•一三乃至○•一八	○•一○　超過スベラズ
滿俺	○•四○乃至○•六○	○•二五乃至○•四五
燐	○•○四五　超過ス可ラズ	○•○四五　超過ス可ラズ
硫黄	○•○四五　同	○•○四五　同
硅素	○•○六	痕跡

上表ハ普通ノ低炭素鋼裸鎔接棒ニ對スル成分ニシテ手動電弧鎔接ニ使用スル鎔接棒ハ被覆ナキ裸棒トス。

第三章　設　備

鎔接電流ハ出來得ル限リ直流トシ適當ナル自動速度調節機ヲ有スル電動機若シクハ他ノ原動機ニヨリ發電サルヽモノトス、而シテ手動或ハ機械的鎔接ノ何レヲ使用スルモ發電機ハ異ナレル電流値ニ對シテ調整シ得ラルベク・各調整裝置ハ適當ナル電壓ニ於テ一定不變ノ電流ヲ送電スルモノタルベシ。

第四章　許容單位應力

（一）鎔接ヲナスベキ接合若シクハ連結ハ死荷重、動荷重及ビ擊衝ヲ合算シタル應力ノ總和ハ下記單位應力ヲ超過スベカラズ。

鎔接材ノ最小斷面ニ於ケル應剪力	毎平方吋	一一三〇〇吋	毎平方糎	七九〇瓩
同　應張力	同	一三〇〇〇吋	同	九一〇瓩
同　應壓力	同	一五〇〇〇吋	同	一〇五〇瓩

彎曲ニ起因スル最大緣維應力ハ應壓又ハ應張力ノ何レヲ問ハズ上記ノ數値ヲ超過スベカラズ。

（二）風壓力ノミニヨル鎔接々合ニ於ケル應力及ビ風荷重並ニ其他ノ荷重ニ歸因スル合成應力ニ對シテハ上記單位應力ヲ三十三個三分ノ一『パーセント』丈ケ增加スルコトヲ得、而シテ斯クシテ得タル斷面積ハ風荷重應力ヲ加算セザル時ニ得タル斷面ヨリ小ナル可カラズ。

（三）鎔接連結ヲ設計スルトキ偏心荷重ニヨリ生ズル彎曲應力ニ對シ幾分ノ餘裕ヲ附シ之レヲ設計スベシ、但シ隅肉付鎔接ヲ設計スルトキ鎔接ノ二鎔融邊ニ於ケル合成應力ニヨリ生ズル彎曲偶力ニ對シテハ餘裕ヲ取ルコトヲ要セズ。

第五章　製（ウヰーダマシツヅ）作

（一）鎔接サルベキ表面ハ鋼線製刷毛、平削鑢或ハ鑢打ニヨリ浮キ皮、錆、塗料其他ノ不　物ヲ除去シタル清淨ナルモノタルベシ。但シ『リンシード』油ノ薄キ塗布面ニ對シテハ鎔接以前ニ除去スルコトヲ要セズ。

（二）鎔接ヲナス工手ハ鎔接鐵骨ノ指定セラレタル鎔接ノ種類ニ對シ充分經驗アルモノタルベク、仕樣書ニ明記セル要求ニ從ヒ水平面垂直面或ハ仰向等如何ナル種類ヲ問ハズ均等性ノ鎔接ヲナシ得ル者タルコト必要ナリ。

（三）鎔接材ヲ堆積シタル後ハ鋼線製刷毛ヲ以テ其表面ヲ淸淨ニスベシ、而シテ其鎔接ハ均一ナル斷面積ヲ有シ鎔接材ハ平滑ニシテ重疊ナキ羽狀班ヲ呈シ氣孔及ビ鎔滓等ナキモノタルベシ。

隅肉付或ハ衝頭鎔接ノ緣或ハ端ノ肉眼檢査ニ於テ主材ニ喰ヒ入リタル優秀ナル接鎔ヲ表ハスモノタルベシ。

（四）電弧鎔接ニ使用スル電弧ハ優秀ナル鎔接ヲ得ベキ適當ナル長サヲ有スルモノタルベシ。

【徑十六分ノ三吋（四粍半）ノ鎔接棒ヲ以テ鐵骨ヲ鎔接スルトキ電流一七五乃至二〇〇『アンペアー』電力二十乃至二十二『ボルト』ニテ電弧ノ長サハ八分ノ一吋乃至十六分ノ三吋トス。徑四分ノ一吋鎔接棒ヲ用フルトキ二五〇アンペアー若シクハ以上十八乃至二十六『ボルト』

ニテ電弧ノ長サハ十六分ノ三吋乃至四分ノ一吋トシ徑十六分ノ一吋鎔接棒ニ對シテハ四〇『アンペアー』一五乃至一八『ボルト』ニテ電弧ノ長サハ約十六分ノ一吋トス。

低炭素鋼鎔接棒ヲ用フルトキ弧長短カキトキハ『ビシ〳〵』音ヲ發シ、其長サ長キニ失スルトキハ鋭キ爆音ヲ續發シ、隅肉付ノ周邊ニ火花ヲ撒キ散ラシ『シュッ〳〵』音ヲ發スルモノナリ。

（五）次表ハ鎔接棒ノ大サヲ選定シ或ハ電流ヲ調節シ以テ優秀ナル鎔接ヲ得シ職工ノ指導トシテ作リタルモノナリ。

鎔接棒直徑	鈑ノ厚サ	アンペアー手鎔接
1/16″	up to 3/16″	50—75
3/32″	up to 1/4″	75—100
1/8″	3/8″ up	100—150
5/32″	1/2″ up	150—200
3/16″	5/8″ up	175—225
1/4″	3/4″ up	200—250

但シ同一徑ノ鎔接棒ヲ以テ異ナレル厚サノ鈑ノ鎔接ニ用ユル事差支ヘナキモ、厚サノ厚キ鈑ニ對シテハ多量ノ電流ヲ要スルモノナル事ニ注意スベシ。

（六）機械鎔接ヲ使用スル時電流ハ手鎔接ニヨル上記ノ數値ヲ超過スベカラズ、但シ機械鎔接ニ於テ必要アル場合ニハ下文ニ仕様セル鎔接職工ノ資格ニ從ヒ增減シ得ルモノトス。

（七）組立テ取リ付ケ及ビ組合セ部材ノ各材片ヲ鎔接スル時ハ各材片ハ眞直ニ且ツ密着セシム可ク充分ナル締釘其他適當ナル締付ケ方法ヲ以テ互ニ之レヲ緊締スベシ。

（八）鎔接中ハ高熱ニ歸因スル應力或ハ膨脹並ニ收縮ニ因スル應力ヲ最小ナラシムベク充分注意スベシ。

第六章　鎔接士（エルダース）ノ資格

【衝頭鎔接】鎔接士ハ第一圖ニ示ス如ク二鋼鈑 12″×3/8″×0′—9″ ヲ複V型衝頭接合ヲ以テ 12″×3/8″×1′—6″ ノ鈑ニ鎔接シタル四枚ノ供試材ヲ提出スベシ、但シ上記四供試材ノ內二試材ハ水平面位置ニ於テ鎔接シタルモノ他ノ二試材ハ接合ヲ垂直トシタル垂直位置ニ於テ鎔接シタルモノトス。

各供試材ハ主材ノ厚サニ等シクナル迄鎔接部ヲ機械ニヨリ平削シタル後標準幅二吋ノ供試片ヲ作リ抗張試驗機ニヨリ之レヲ試驗シ、其平均抗張力ハ一平方吋四五〇〇〇听ヨリ小ナル可カラズ、而シテ其最低値ヲ四〇〇〇〇听トス。

【重襲鎔接】鎔接士ハ第二圖ニ示ス四個ノ重襲鎔接試材ヲ提出スベシ但シ、重襲材ノ大サハ 6″×3/4″×8″ トシ一枚ノ六吋端ヲ他ノ一枚ノ六吋端ノ上ニ二分ノ一吋丈ケヅリ重疊シ六吋端ヲ圖示スル如ク隅肉盛鎔接スベシ、而シテ鎔接ヲ終リタル時ハ氣溫ニテ冷却シ裏面ノ鎔接ヲ施サヾル六吋端ニ楔ヲ入レ之レヲ引キ離シ破壞シタル時鎔接部ノ破壞面ハ不規則ナル剝裂狀ヲ呈シ光輝アリテ緻密且ツ一樣ニ組織立テル結晶若シクハ纖維狀鎔接ヲ示シ毫モ虹彩アル色ヲ呈セザルモノタルベク鎔接材ト主材ハ充分鎔融シタル狀態ヲ呈シ隅肉盛ハ其直角隅迄完全ニ透入 penetrate スルモノタルベシ。

【隅肉盛鎔接】鎔接士ハ第三圖ニ示ス如キ三個ノ鎔接供試材ヲ鎔接シ之レヲ提出スベシ、但シ各供試材ハ二主鈑 4″×1″×1/2″ヲ二分ノ一吋ノ間隔ヲ置キ全長二十四吋半ノモノトシ、二添接鈑 3″×3/4″×0′—6″ ヲ對稱的ニ表裏ヨリ締メ付ケ、平面位置ニ於テ二個ノ 3/8″×2 1/4″ノ三角隅盛鎔接ヲナシ其兩端ノ四窩ハ之レヲ充塡スベシ、而シテ鎔接ハ添接鈑ノ外方ヨリ出發シテ中央ニ向ヒ斯シテ隅肉盛內側間隔一吋半ヲ殘スベシ。以上ノ作業ヲ終リタル時ハ其裏面ヲ再ビ上記ノ寸法ニ隅肉盛鎔接スベシ。

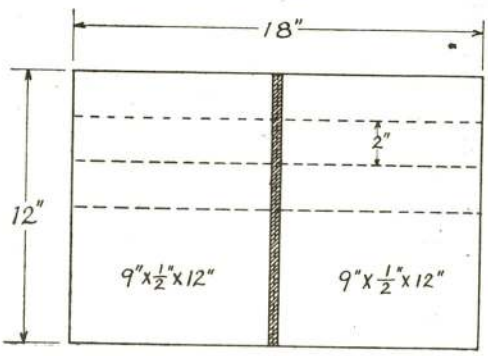
鎔接材ヲ堆積スル時凹窩ハ隅盛ノ斷面ト一樣ニナル迄充塡スベシ、而シテ使用鎔接棒ノ直徑ハ十六分ノ三吋トス。

此等ノ供試材ハ八分ノ三吋隅肉盛鎔接ノ橫ノ剪斷强度ヲ檢スル爲メ抗張試驗機ニヨリ之レヲ試驗シ隅盛ノ最小斷面ニ於ケル强度ハ平均每

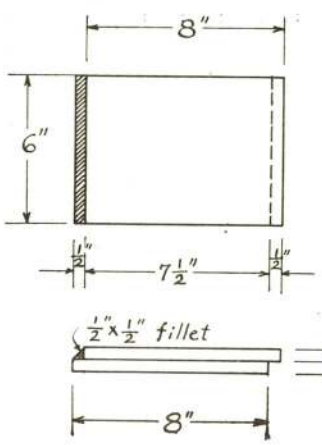
平方吋四四〇〇〇听ノ破壊強度ヲ有シ最小値三八〇〇〇听以上ノモノタルベシ、而シテ破壊片ハ鎔材ノ透入ヲ檢スル外鎔材中ニ鑛滓氣孔等ノ有無ニ關シ嚴密ニ檢査スル事ヲ要ス。

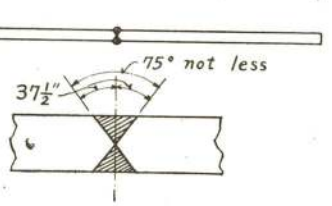
【隅肉盛鎔接ノ横ノ剪斷強度試驗ハ該鎔接ノ最モ適切ナル試驗方法ニシテ隅盛ノ最小斷面ニ於ケル破壊強度四四〇〇〇听最低三八〇〇〇

第一圖

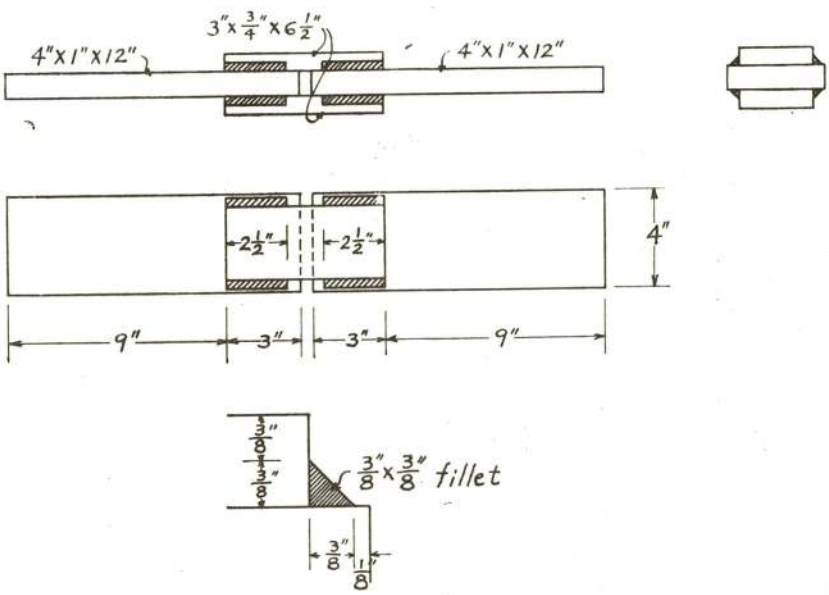


第二圖





第三圖



ニ充分ナル連續若シクハ不連續鎔接ヲ以テ鎔接スベシ、支承端或ハ集中荷重ヲ受ケタル點ニ於ケル補剛材ハ其兩端ヲ上下突緣ト密着セシメ之レヲ鎔接スベシ。

（ハ）　鈑桁突緣ヲ形成スル材片相互ノ連結或ハ腹鈑ト突緣トノ連結ハ應力ヲ傳播スベク連續若シクハ不連續隅肉盛鎔接ヲ以テ鎔接スベシ

听ハ餘リニ低キヤノ批評アレ共現今ニ於テハ上記ノ數値ハ鐵骨構造仕樣トシテ充分ナル値ト見ル事ヲ得ベシ、

第七章　設　計

【鈑桁】　鈑桁ハ隋率法ニヨリ其大サヲ決定スベシ、但シ近似突緣面積法ニヨリ設計スル場合ニハ腹鈑面積ノ六分ノ一ガ突緣面積ノ有効部分トシテ加算スル事ヲ要ス、而シテ此ノ場合腹鈑ニハ毫モ孔ナキモノトス。

（イ）　腹鈑ノ添接　腹鈑ノ添接ハ其兩側ニ添接鈑ヲ以テ添接スベシ。

（ロ）　補剛材　鈑桁ノ補剛材ハ山型鋼或ハ平鋼ヲ用ヒ其上下突緣ト接觸スル部分ハ之レヲ鎔接シ腹鈑トハ應力ヲ傳播スル

不連續隅盛鎔接ノ長サハ凹窩ヲ除キ二吋ヨリ小ナル可ラズ而シテ其純間隔ハ連結或ハ接合サルヽ材片ノ最モ薄キモノノ十六倍或ハ四吋ヲ超過スベカラズ。

（ニ）『スロット』鎔接ハ蓋鈑ヲ互ニ連結シ又ハ他ノ部材ニ連結スルニ用ヒラル。

【工型桁】 理論的計算ニヨリ設計サレタル連續工桁及ビ鈑桁ハ、桁ガ受ク可キ彎曲應力ニ抵抗スベク其連結ヲ計算設計スベシ。

（イ）不連續工桁及ビ鈑桁ヲ支承スル鎔接連結ハ桁ノ撓曲ニヨリ生スル副彎曲應力ニ對シ計算設計スベシ。

（ロ）桁ヲ支承スル坐角（シートアングルトオ）ノ趾ガ桁ノ腹鈑或ハ柱ニ鎔接サルヽ時、山型鋼ガ磨損セル輾機ニヨリ輾壓サレタル結果或ハ其他ノ事由ニヨリ圓緣頂ヲ有シ間隙アル場合ニハ其間隙ニ鎔接材ヲ堆積シ、然ル後設計ガ要スル鎔接量ヲ堆積スルカ若シクハ趾ノ圓緣ヲ直角ニ平削シテ之レヲ除去シ所要ノ隅盛鎔接ヲナスベシ。

【構（トラス）】（イ）隅盛鎔接ニヨリ連結サルヽ抗張材ニ在テハ其總應力（橫斷面積ト許容應力トノ相乘積）ニ抵抗スルモノトシテ設計スベシ。

（ロ）對稱的橫斷面積ヲ有スル抗張並ニ抗壓材ニ在テハ隅盛鎔接ハ部材ノ主軸ニ對稱的ニ鎔接スベシ、而シテ不對稱的應力配賦ニ對シテハ相當ノ餘裕ヲ取ル事必要ナリ。

（ハ）不對稱的橫斷面積ヲ有スル部材、例ヘバ山型鋼ノ如キ者ノ連結ニ在テハ所要隅盛鎔接ノ長サハ部材ノ重心軸ニ關シ力率ヲ取リ之レヲ決定スベシ。

【柱】（イ）集成部材或ハ單一ナル輾壓材ヨリ成ル柱ハ主體ハ勿論綾釘綴鈑等ハ塡隙鈑ヲ除キ四分ノ一吋厚ヨリ薄キ材料ヲ使用スベカラズ。

（ロ）柱端ハ其中心軸ニ直角ニ削面スベシ。

（ニ）柱ノ添接ハ出來得ル限リ添接鈑ヲ使用シ隅盛鎔接ノ適當量ヲ以テ之レヲ柱主體ニ鎔接スベシ、而シテ若シ塡隙鈑ヲ要スル場合ニハ是亦適當量ノ隅盛鎔接ヲ以テ連結スベシ。

總テノ場合ニ於テ柱ノ添接ハ締釘ニヨリ柱主體ニ精確ノ位置ニ配置締結シ、添接ヲ要スル柱ノ幅異ナル時ハ特ニ其中心軸ヲ精確ニ一垂線上ニアラシメ後之レヲ鎔接スベキモノトス。

（ホ）集成柱ノ各材片ヲ連結スル隅盛鎔接ハ全長ヲ通ジテ連續又ハ不連續鎔接トス、而シテ不連續鎔接ノ場合ニ於テ柱ノ端ニ於ケル隅盛鎔接ハ少ナクトモ柱ノ幅ニ等シキ長サヲ有セシメ殘餘ノ部分ニ於ケル不連續隅盛鎔接ハ二吋ノ長サヲ有シ純間隔ハ四吋ヲ超過スベカラズ。

（ヘ）綾釘及綴鈑ヲ柱ニ使用スル時ハ普通ノ鐵骨建築法規ニ仕樣セル如ク、鋏ニヨリ鉸鋏セラレタル綾釘及綴鈑ト同强度ヲ有スル樣隅盛鎔接ニヨリ鎔接スベシ。

【鎔接並ニ締結（ボルテイング）】（イ）擊衝ヲ生ズル動荷重ニヨリ働カル、主部材ノ連結並ニ交番應力ヲ受クル部材ノ連結ハ之レヲ鎔接スベシ。

（ロ）鎔接鐵骨ニ於ケル柱、鈑桁、及構ノ各材片或ハ部材ハ總テ隅盛鎔接ニヨリ鎔接スベシ。

（ハ）四階以上ノ鎔接鐵骨ハ總テ柱ノ添接及ビ工桁或ハ鈑桁ト柱トノ連結部ハ少ナクトモ三呎以內ノ部分ハ鎔接スベシ。

被覆用ノ小ナル鐵骨ニ在テハ其工場或ハ現場連結或ハ普通鐵骨ト稱セラル、鐵骨ノ副部ノ材連結、例ヘバ母屋、胴差シ、扉窓用枠其他ノ橫綾構連結ニハ締釘連結ヲ用ユル事ヲ得。

二階或ハ以上ノ鐵骨建築ニハ建設中各部材ヲ其位置ニ精確ニ鎔接ヲ以ヲ連結スル準備工法トシテ締釘ヲ使用スベシ。

（ニ）出來得ル限リ連結又ハ接合ハ仰向鎔接ヲ要セザル樣之レヲ設計スベシ而シテ鎔接ハ剪力或ハ直接應力ヲ受クル樣設計スベシ。

（ホ）衝頭鎔接ハ構ノ主要應張部材ニハ使用スベカラズ、但シ副部材或ハ對風結構ノ部材連結ニハ之レヲ用フルコトアルベシ。

（ヘ）各鎔接ノ長サヲ計算スルニハ二分ノ一吋ヲ凹窩ニ對シテ加算スベシ。

（ト）隅盛鎔接ノ長サガ其幅ノ四倍ヨリ小ナルモノハ連結用鎔接トシテ採算セザルモノトス。

【衝頭鎔接】（イ）衝頭接合ニヨリ應力ヲ傳播スベキ厚サ四分ノ一吋若シクハ以上ノ主材ノ鎔接端ハ單一V型若シクハ複V型ニ斜削スベシ。

（ロ）單一V型ニ於テハ六十度ヨリ小ナラザル開口ヲ形成スル樣各端ヲ三十度ヨリ小ナラザル樣斜削スベシ、而シテ其接合部ハ適當ナル方法ニ於テ其裏面ニ鈑ヲ當テ後鎔接ヲナスベシ。

（ハ）複V型鎔接ニ在テハ各材片ノ各端ハ三十七度半ヨリ小ナラザル角度ニ斜削スベシ。

（ニ）總テ單一又ハ複V型衝頭接合ニ在テハ斜削サレタル緣端ハ八分ノ一吋乃至十六分ノ三吋丈ケ隔離シテ之レヲ鎔接シ、厚サ四分ノ一吋乃至十六分ノ七吋ノ者ニ在テハ一層ニ鎔接シ、二分ノ一吋乃至十六分ノ十一吋厚ノ者ニハ二層、四分ノ三吋乃至一吋厚ノモノニハ三層ニ鎔接ス。

（ホ）總テ上記ノ接合ハ單一V型ニ在テハ百分ノ二十、複V型ニ在テハ兩側百分ノ十五ヲ超過セザル範圍內ニ於テ餘分ニ堆積補强スベシ

【重襲鎔接】厚サ四分ノ一吋乃至十六分ノ七吋鈑ノ重襲接合ニハ一層ニ隅盛鎔接シ、二分ノ一吋乃至十六分ノ十一吋厚ノ者ニハ二層、四分ノ三吋乃至一吋厚ノモノニハ三層ニ隅盛鎔接ヲナスベシ。

隅盛鎔接ノ斷面ハ出來得ル限リ二等邊三角形ヲナス樣隅盛鎔接シ、其最小邊ハ隅盛鎔接斷面ノ前記寸法ヨリ小ナル可カラズ。

二ツ或ハ二ツ以上ノ層ニ堆積スル鎔接材ハ次ノ層ヲ堆積スル前、其表面ヲ鋼線刷毛ヲ以テ充分淸淨ニスルコト必要ナリトス。

【製圖】製圖面ハ工場及ビ現場鎔接共總テ明瞭ニ之ヲ記入スベシ。

第八章　鋼ノ保護

鎔接スベキ鋼ハ鎔接後ニ於テ防腐塗料ヲ塗粱スベシ工場ニ於テ鎔接サル、鋼材ニシテ鋲或ハ締釘ニヨリ建設サル、者ニ在テハ工場鎔接ノ終了後適當ナル或ハ指定サレタル塗料ヲ塗粱シ建設ノ後第二回若シクハ三回ノ塗布ヲナス。

現場ニ於テ鎔接サルベキ鋼材ハ工場鎔接終了後「リンシード」油ヲ一回塗粱シ建設或ハ現場鎔接終了ノ後指定ノ塗料ヲ二回塗粱スベシ。

他建築ニ使用サル、鋼材ノ構成部分ヲ共ニ結合又ハ連結シ、又ハ組ミ合セニ對シ鍛鐵工締結工及ビ其他ノ工法ト混合シテ之レヲ用ヒ或ハ全ク之レニ代リ使用スルコトヲ得ベシ。

但シ右鎔接ハ本案中第三章乃至第七章ニ規定セル方法ニ從ヒ之レヲナスベシ。

（二）瓦斯切斷ハ建築ニ用ヒラルヽ構造用鋼ノ部材又ハ其一部ノ製作ニ於テ切斷或ハ鋸切リ工ニ代用スルコトヲ得。

但シ右切斷ハ本案第八章ニ規定セル方法ニ從ヒ之レヲナスベシ。

第二章　定　義

電弧鎔接並瓦斯切斷仕樣準備案

亞米利加鎔接協會建築條例委員會ハ最近構造用鋼ノ鎔接並ニ瓦斯切斷ニ關スル建築條例ノ追加案ヲ完成シ、協會ハ本案ノ廣ク採用セラレンコトヲ希望シ其實行ニ對シ之レヲ保證セリ、勿論本案ハ協會委員長ノ主旨ニ基キ條項ヲ可成的簡單ニシ其實行ヲ容易ナラシメ且ツ在來ノ舊習ヲ打破スベク審議決定シタルモノナリ。

起草委員名省略

一八二九年五月

第一章　一般應用

（一）鎔接ハ旣ニ建築條例ニ記載サレタル鋼工桁、鈑桁、構、柱其

亞米利加鎔接協會ノ既ニ採用シ且ツ發表セル鎔接ニ關スル字句ノ定義ハ本案中ニアル字句ノ定義ト全ク同一ナルモノナレドモ便利ノ爲メ最モ普通ニ使用サルヽ字句ノ定義ト其應用ハ次ノ如シ。

（一）鎔融鎔接（Fusion Welding）　トハ機械的壓力又ハ鎚撃ヲ使用スルコトナク熔融狀態ニ於テ若シクハ熔融瓦斯狀態ニ於テ金屬ヲ接合スル方法ヲ云フ

但シ本案中熔融鎔接ハ電弧及瓦斯鎔接ノ二法ニ限定サルヽモノトス。

（二）根（Root）　根トハ鎔融鎔接ヲ施セル橫斷面限界ノ底部ニ於ケル帶狀部ヲ云フ

（三）喉（Throat）　喉トハ根ヲ通ズル直線ニ沿ヘル鎔接部ノ最小厚ヲ云フ。

本案中隅肉付（Fillet）ノ喉ハ其橫斷面ニ於テ作ラレタル直角二等邊三角形ノ直角頂即チ根ヨリ弦ニ至ル垂直距離ヲ云フ、而シテ衝頭鎔接（Butt weld）ノ喉ハ接合サルヽ材片ノ最モ薄キ部分ノ厚サヲ云フ。

（四）隅肉付鎔接（Fillet weld）　トハ三角形ノ鎔接ニシテ其喉ハ接合サルヽ部分ノ表面ニ約四十五度ヲナス平面上ニアリ、而シテ隅肉付鎔接ノ大サハ鎔接サルヽ相隣レル緣邊ノ幅ヲ以テ表ハサル（單位糎）

（五）衝頭鎔接（Butt weld）　衝頭接合ノ喉ハ少ナクトモ接合サルヽ一材片ノ表面ニ約九十度ヲナス平面ニアルモノトス、而シ衝頭鎔接ノ大サハ其純若シクハ補剛ノ爲メ盛肉付ケセザル喉ニヨリ表ハサルヽモノトス。（單位糎）

（六）鎔接長（Weld length）　トハ鎔接ノ總斷面積ガ連續セル長サヲ云フ。

但シ鎔接兩端ニ於ケル凹窩（Craters）ハ上記鎔接長サニハ含マザルモノトス。

（七）本案ニ於テハ總テ鎔接ノ寸法ハ其大サト長サトニヨリ表ハサルルモノトス。

（八）瓦斯切斷　酸素ノ化學的手段ニヨリ高溫ノ鎔融鋼ヲ作リ、切リ口若シクハ切斷部ノ緣邊ヲ燃燒スル事ナク均等ナル切リ口或ハ切斷ヲ得ル方法ヲ云フ。

第三章　材料

（一）本案中ニ使用サルヽ構造用鋼ハ一般建築條例ニ指定サレタル規格品トス。

（二）鎔接棒（Electrodes）　鎔接線若シクハ棒ハ亞米利加鎔接局ノ指定セル規格品ノ一若シクハ同等以上ノ優秀品タルベク、熟鍊セル鎔接職工ノ手ニテ水平面、垂直面或ハ仰向ケ位置ノ何レヲ問ハズ容易ニ且ツ善良ナル鎔接可能性ヲ表ハスモノタルベク、鎔接棒ガ規定セラレタル强度ヲ有スルヤ否ヤニ付キ其試驗成績ヲ提出スベシ。

第四章　許容單位應力

（一）建築法規ニヨリ制定セラレタル荷重ニヨリ設計ニ算セラレタル應力ハ次ニ列記セル許容單位應力ヲ超過スベカラズ。

鎔接喉ノ通ズル斷面ニ於ケル應剪力　一平方糎ニ付キ　七九〇瓩

同　上　應張力　同　九一〇瓩

同　上　應壓力　同　一〇五〇瓩

彎曲ニ歸因スル最大緣維應力ハ應張若シクハ應壓ノ何レニ於テモ上記ノ數値ヲ超過スベカラズ。

（二）材片ノ斷面若シクハ材片配置上ノ關係ヨリ偏心荷重ヲ起シ之レニ起因スル彎曲應力ニ對シテハ鎔接スルニ際シ幾分ノ餘裕ヲ附シ之レヲ設計スベシ。

第五章　設計

（一）鎔接鐵骨ヲ設計シ又ハ之レヲ監督スル技師或ハ建築士ハ鎔接ニ關スル事項ニ就テ最モ精通シ且ツ經驗アル者タルベシ。

（二）鈑桁　鈑桁ハ桁ノ隋率法若シクハ突緣面積法ノ何レカニヨリ計算スベシ

但シ突緣面積法ヲ鎔接鈑桁ニ適用スルトキハ鈑桁腹鈑ハ孔ナキヲ以テ腹鈑面積ノ六分ノ一ヲ突緣面積ノ有効部分トシテ加算スベシ。

補剛材ハ鋼角若シクバ平鉄（フラットバー）ヲ使用シ上下突緣ト接觸スル部分ヲ鎔接シ、腹鈑トハ應力ヲ傳播スルニ充分ナル樣連續或ハ不連續隅肉付鎔接ヲナスベシ。

突縁ヲ組立ツル各材片或ハ突縁ト腹鈑トノ連結ハ應力ヲ傳播スルニ充分ナル様連續若シクハ不連續隅肉付鎔接トスベシ。

（二）工型桁　理論上ヨリ設計セル連續工桁或ハ連續鈑桁ノ鎔接連結ハ計算應力ヲ傳播スルニ充分餘裕アルモノトシ、不連續桁ノ連結端ハ彎曲ニ歸因スル副應力ノ生ゼザル様注意設計スベシ。

（四）柱　組合セ材ヨリ成ル柱ノ各材片ヲ連結スル隅肉付鎔接ハ何レモ連續又ハ不連續鎔接トナスベシ、若シ鎔接ニ不連續鎔接ヲ使用スルトキハ柱ノ底端ニ於ケル各鎔接長ハ少ナクトモ柱ノ幅ニ等シキカ又ハ大ナルベシ、而シテ其中間鎔接長ハ四糎ヨリ小ナラズ其間隔ハ有効（クリアー）十糎ヨリ小ナル可カラズ。

柱ニ使用スル隅肉付鎔接ノ大キサ、長サ及ビ其間隔ハ柱ノ每單位長ニ於テ建築法規ガ制定セル如ク鋲結强度ト同等ノ强度ヲ有スルモノタルベシ

綾釘（ラティスバー）及ビ綴鈑（タイプレート）ヲ柱ニ使用スルトキハ建築法規ガ制定セル如ク鋲結强度ノ夫レト同等ノ强度ヲ有スル様充分ニ鎔接スベシ。

（五）衝頭鎔接　衝頭鎔接ニヨリ應力ヲ傳播スベキ厚サ六耗半又ハ以上ノ材片ノ縁端ハ必ズ勾配ニ切リ取ルベシ、單若シクハ複V型接合ニ於ケル各部切リ取リ勾配ハ三十度ヨリ小ナル可カラズ、即チ斯クシテ作ラレタル開口部ハ六十度ヨリ小ナラザル角度ヲ有セシムベシ。

單或ハ複勾配鎔接ニ對シテハ勾配ハ四十五度ヨリ小ナル可ラズ。

鎔接作業ヲナス以前ニ一材片ノ縁端或ハ各部ノ表面ハ他材片ノ縁端或ハ各部表面ヨリ少ナクトモ一粍半ノ間隔ヲ有セシムベシ

總テ衝頭接合ハ鎔接材片中厚サノ最モ薄キ者ノ表面ヨリ幾分高クナル様鎔接部ニ餘分ノ鋼ヲ鎔融推積シ補强スベシ、此ノ補强推積ノ高サハ鎔接材片ノ厚サノ最モ薄キ者ニ對シ

（イ）單V型或ハ單勾配衝頭鎔接ニ在テハ百分ノ二十

（ロ）複V型或ハ複勾配衝頭鎔接ニ在テハ百分ノ十二・五

ヨリ小ナル可カラズ。

第六章　製作（ウオークマンシップ）

（一）鎔接施工者ハ建築依頼者ノ要求セル鎔接事項ニ關シ工事ニ使用スベキ鎔接方法、材料及ビ其設備ヲ明示シ仕様サレタル鎔接事項ニ對シ最モ完全ニ施工スベシ。

（二）鎔接棒ハ建築法規ニ指定セル規格材料タルベシ。

（三）鎔接ヲ要スル各材片或ハ部材ノ表面ハ錆塗料其他ノ汚物ヲ除去シタル清淨ナルモノタルベシ而テ新規材片又ハ部材ニ鎔接スル際『リンシード』油及ビ此レト同種ノ薄キ塗布面ニ限リ之レヲ除去スル必要ナシトス。

（四）建設ニ際シ或ハ鎔接作業中各部材或ハ材片ハ充分之レヲ締結シ鎔接ニ際シ其正確ナル位置ヲ保タシムベシ。

第七章　建設（エレクション）

（一）建築用鋼材ノ鎔接ヲ要スル部分ニハ塗料ヲ施ス可カラズ。

鋲鋲或ハ締釘ニヨリ建設サル、部材ニシテ工場ニ於テ鎔接サルル部分ハ工場鎔接作業終了ノ後指定ノ塗料ヲ塗布スベシ、而シテ現場ニ於テ鎔接サル可キ部分ハ工場製作終了後『リンシード』油ヲ一回塗布スベシ現場建設並ニ現場鎔接終了後ニハ仕様書ニ指定セル塗料ヲ塗布スルモノトス。

（二）高サ九米以上ノ總鎔接鐵骨ハ一時部材ヲ正確ナル位置ニ設置スル爲メ各連結並ニ接合部ニハ必要ナル建設用締釘或ハ其他ノ方法ヲ以テ充分緊締シ各處寸法ニ毫モ相違ナキコトヲ確メタル後之レヲ鎔接スベシ

第八章　瓦斯切斷

（一）瓦斯切斷ハ最モ優秀ナル方法ヲ以テ之レヲ施工スベシ。

（二）瓦斯切斷縁ハ平滑ニシテ其切斷線ハ精確ナルベシ。

（三）瓦斯切斷ハ鎔接サルベキ母體ノ準備作業トシテ使用サルベク其切斷縁ハ切斷終了後平削スベシ。

（四）瓦斯切斷ハ縁邊ノ平削ニ代用スルコトヲ得ズ。

（五）應力ヲ受ケツヽアル部材ニ於ケル瓦斯切斷ハ之レヲ嚴禁ス。但シ瓦斯切斷ニヨリ切斷サルベキ部材ノ所要强度ヲ減少セザル材片ノ除去或ハ製作錯誤ヲ修理スル爲メ詳細部ノ除去ニ使用スル場合ニハ此ノ限リニ非ズ。

（六）瓦斯切斷法ヲ以テ部材ニ鋲孔若シクハ締釘孔ヲ穿ツ可カラズ

新刊紹介

（高橋榮治記）

○西洋建築史參考圖集　上册

建築學會參考圖刊行委員會編

四六倍判　表紙紐綴
寫眞及圖六一頁　價一、三〇
昭和六年五月　建築學會發行

教材として標準の參考圖を提供しやうといふ趣旨で、曩に日本建築を刊行し、今回新に西洋建築に及んだ。この上册に收むる所は古代エジプトから中世ゴシツクに至る各時代の代表的建築の寫眞及圖面である。此種のものは兎角多種に亘る外國書よりの轉寫である爲稍もすると內容蕪雜の觀を與へ易いものにかゝわらず、本書は割合に體裁よく仕上つてゐる、編書の努力見るべきものがある。

○橫濱市中央卸賣市場建築圖集

橫濱市役所建築課編

四六倍判　クロース裝
アート紙五八頁　價一、八〇
昭和六年一月　東京新建築社發行

主任技師峯彌太郎氏が同工事を詳述され圖面及寫眞豐富。

○和蘭陀舘集

洪洋社編

四六倍判　紙帙入
圖版二十四枚　價一、二〇
昭和五年十一月　東京洪洋社發行

一九三〇年アントワープ博覽會に於けるオランダ特設舘の寫眞圖集設計者はアムステルダムのウイイデフエルト氏。特殊な形態と色調とで世評ありしもの、藏田周忠氏が解說してゐる。

○吾等の住居

宮田莊七郎氏著

四六判　布裝　本文八八頁
平面集五〇　價一、三〇
昭和六年六月　東京洪洋社發行

小住宅研究の手引と銘打つてある住宅を建てる素人の參考用といふ平面計畫から構造設備を明快に述べ、小住宅の平面圖を多數添へる

○病院醫院の建築と其の設備

大澤源之助氏著

菊判　クロース裝　二〇六頁
挿圖一七七圖　價三、〇〇
昭和六年六月　東京鳳鳴堂發行

事務所建築と相並んで近時急激の進步の途にあるものは病院建築である。然るに何等の見るべき參考書のなき今日、本書の出現は誠に慶賀に堪へぬ。特殊な建物の研究調査は斯界の向上の段石である。豐富な資料は眞面目な調査と相俟つて病院醫院設計者に與ふる利便は蓋し大なるものがあらう。

近刊豫告

目下本協會編輯に於て編纂中の諸書

○世界最新建築圖集

四六判　上クロース裝　橫綴
アート紙一〇〇頁　價〇、五〇

一九二九年—一九三〇年度に亘り本協會編輯が、努力して蒐集せる歐米諸國の最新尖端建築の寫眞集本書によつて建築界最近傾向を知るべく、將來向ふ所をうかがひ得る。

○學校建築圖集

改訂增補第三版

四六倍判　厚紙裝　價一、〇〇

小學校より大學校に至る各種の學校の圖面を網羅蒐集せるもので建築家教育家より好評を受けたるもの。此度最近建設の分數種を增補して萬全を期した。

『建築と社會』昭和六年度特輯計畫

新年號（一月發行賣切殘本なし）
震火災と建築（二月發行賣切殘本なし）
保健と建築（三月發行賣切殘本なし）
小住宅（四月發行濟殘本あり）
鄉土建築（五月發行賣切殘本なし）
建築事務（六月發行濟殘本あり）
新興建築（七月發行濟殘本あり）
建築と都市問題（八月發行豫定）
小住宅（冬の卷）（九月發行豫定）
小賣店・百貨店・市場（十月發行豫定）
映畫館と劇場
高層建築

本年の特輯計畫は右の通りであります、特輯題目のうち御研究のものはどし〳〵御投稿下さい、歡迎致します、原稿の締切日は前の月の十三日です、なほ八月は「建築と都市問題」九月は「小住宅」十月は「小賣店・百貨店・市場」に就て夫々特輯の豫定です。

『建築と社會』編輯部

本誌定價表

冊數	定價	郵稅
一冊	五拾錢	貳錢
十二冊	六圓	貳拾四錢

廣告掲載料金

普通紙	一頁	一回	一五・〇〇	円	
普通紙半頁	一回	八・〇〇	円		
普通紙（前附第二頁）	一頁	一回	四五・〇〇		
普通紙（前附第二頁）	一頁	一回	四〇・〇〇		
普通紙（後附第一及最終頁）	一頁	一回	二五・〇〇		
アート紙（中插）	半頁	一回	二〇・〇〇		
表紙二	一頁	一回	六〇・〇〇		
表紙三	一頁	一回	五〇・〇〇		
表紙三	一頁	一回	八〇・〇〇		

昭和六年六月廿七日印刷
昭和六年七月一日發行（毎月壹回一日發行）

發行兼編輯人　兵庫縣武庫郡今津町浦風五六番地　鷹取陽
兼印刷人　大阪市東區內淡路町一丁目七番地
印刷所　大阪活版所　大阪市西區土佐堀通一ノ一大同ビル
發行所　社團法人　日本建築協會　電話土佐堀四二六五番　振替口座大阪三九、九七五　大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店　柳々堂書店　電話土佐堀二四四〇番　振替口座大阪二二〇八四番

御購讀の向は本會直接又は特約店へ振替又は爲替で前金御拂込を願ひます。



高麗橋郵便局外觀

天七有樂座新築工事概要

位置 大阪市東淀川區天神橋筋七丁目

敷地面積 205.33坪

建物面積

地　階	48.36坪
一　階	131.80坪
中二階	12.45坪
二　階	88.69坪
合　計 延面積	281.8坪

起工及竣工

起工
昭和5年12月15日
竣工
昭和6年4月15日

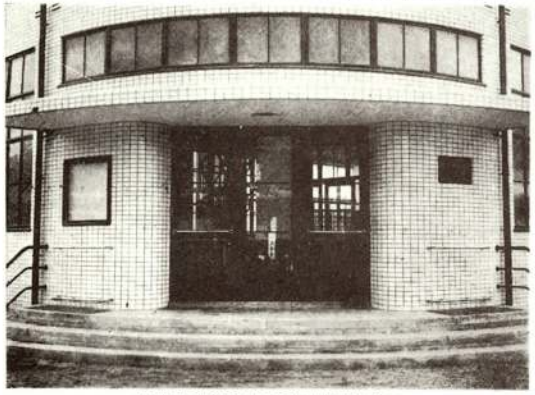
構造大要 鐵筋混凝土一部木造地階付二階建

建築樣式 ライト式を加味せる近世式

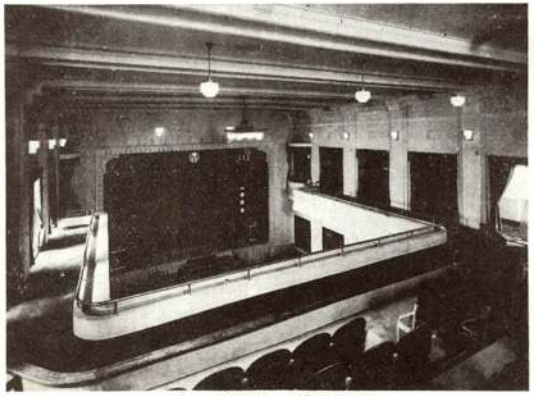
設計監督
岡部建築事務所



天七有樂座外觀



高麗橋郵便局正面玄關出入口



天七有樂座二階觀客席



天七有樂座觀客席

大阪（東區高麗橋一丁目）・**高麗橋郵便局**　設計 遞信省營繕課　施工 株式會社大林組

大阪（東淀川區天神橋筋七丁目）・**天七有樂座**　設計 岡部建築事務所　施工 三木元組



外觀



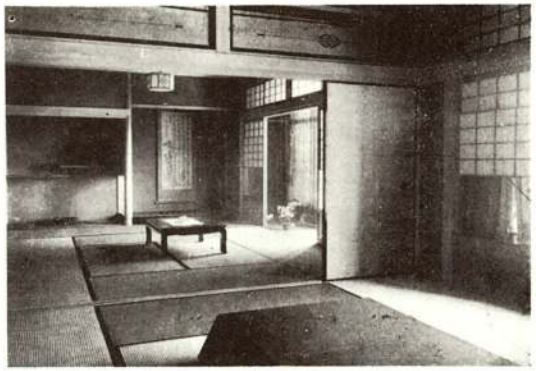
一階出荷入荷部



來客休憩室



事務室



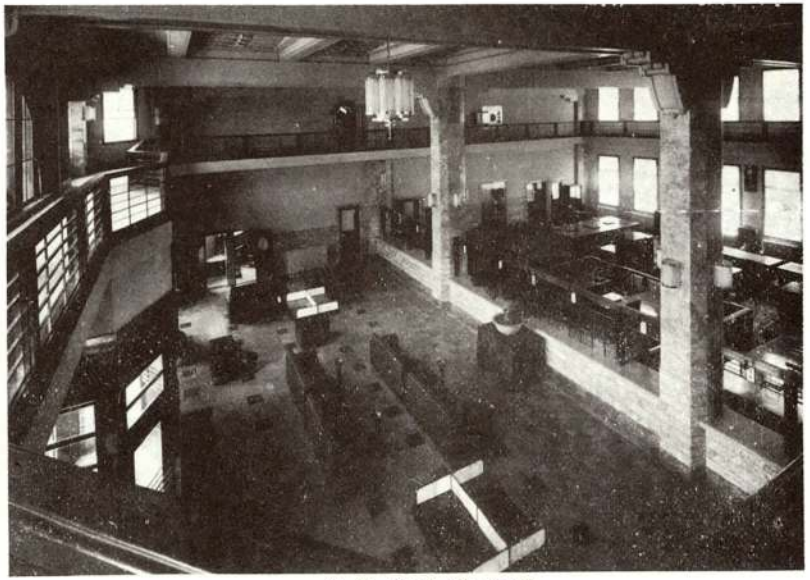
來客食堂

大阪(東區安土町四丁目)・野呂克商店

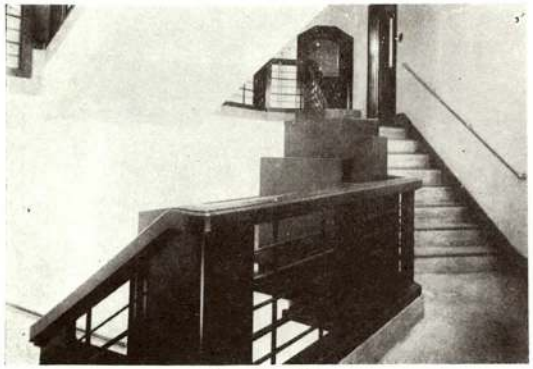
設計　小笠原建築事務所　　施工　株式會社大林組



外觀



一階客溜及營業室



階段室



重役會議室



頭取室

廣島縣農工銀行本店建築工事概要

位置 廣島市上流川町八十五番地ノ一

坪數 敷地 四百四十七坪八合九勺　建坪 二百四十八坪七合一勺六才　延坪 七百七十八坪六勺

主體構造及外裝 鐵筋混凝土造花崗石張　地階共四階建一部五階

竣工 昭和六年四月

設計 增田建築事務所　**施工** 合名會社竹中工務店

廣島(上流川町)・廣島農工銀行



透視圖



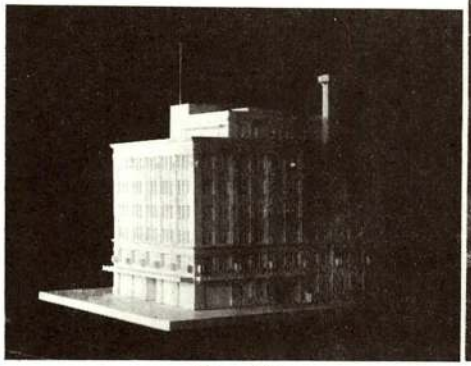
一階　客用第一階段及客用エレベーター

越前屋新築工事概要

位置	横濱市中區伊勢佐木町一丁目廿九番地
坪數	敷地350坪　建坪300餘坪　延坪2000餘坪
階數	地上七階、地下一階
主體構造	鐵骨鐵筋コンクリート造り
外裝	外部壁體釉掛特製「タイル」及「ブロック」を使用し根石廻り總て花崗石を使用す 窓及び出入口は「スチールサッシュ」「スチールドアー」並に「スチールシャッター」を設く



外觀



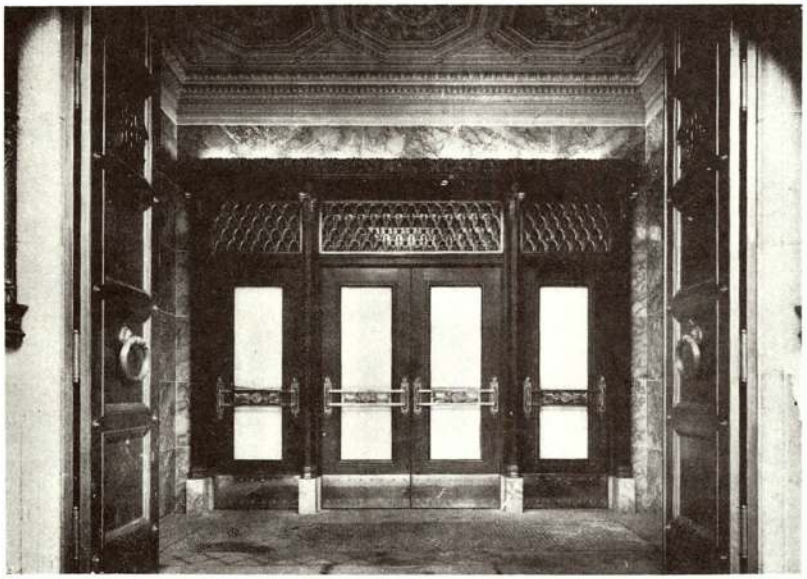
模型



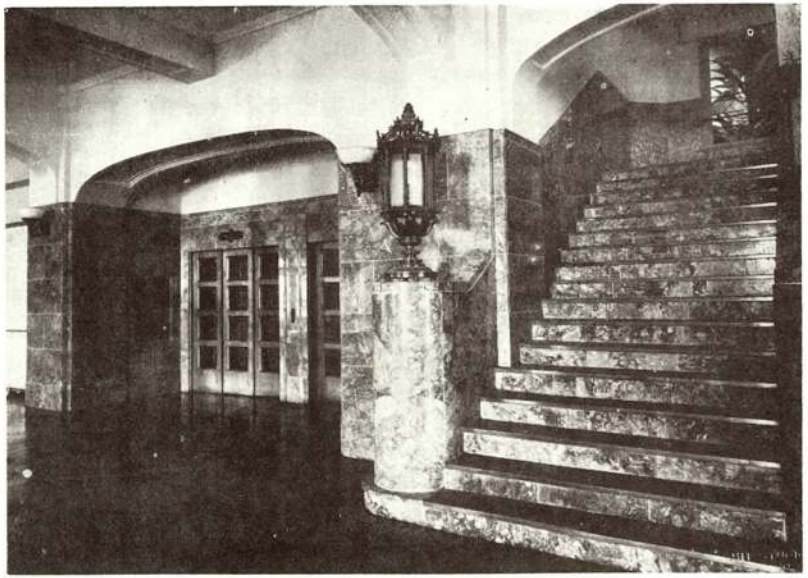
一階　床中央模樣

横濱(中區伊勢佐木町)・越前屋　(1)

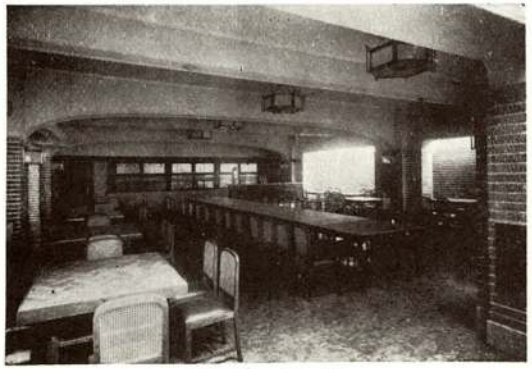
設計施工　株式會社大林組　　設計者　大林組設計部　毛利泰三氏



正面玄關（伊勢佐木町側）



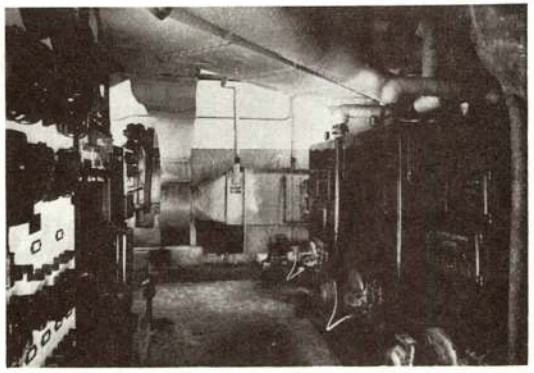
エレベーターロツビー及客用第二階段



地階食堂



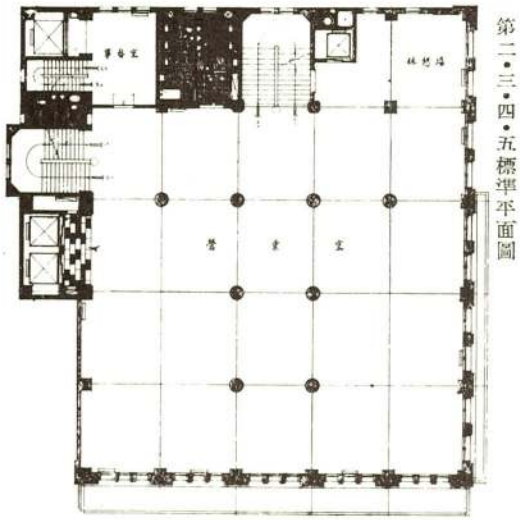
六階食堂

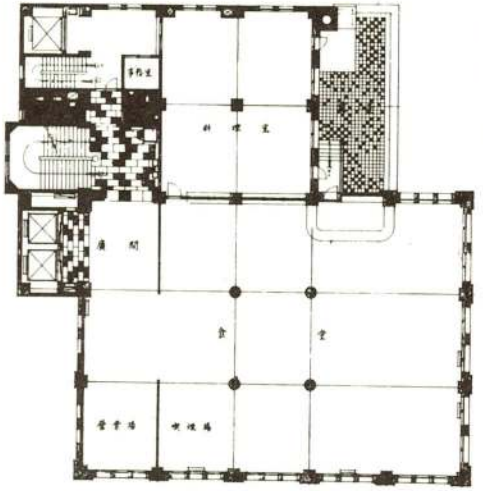


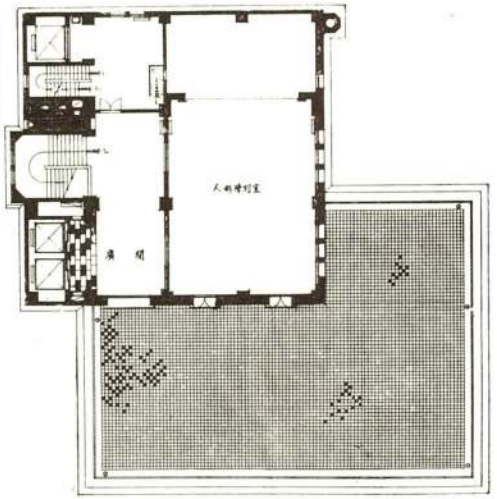
地階機械室

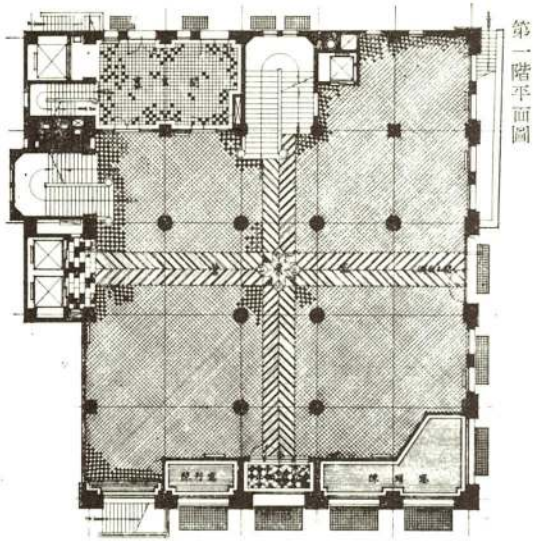
横濱（中區伊勢佐木町）**·越前屋**（2）

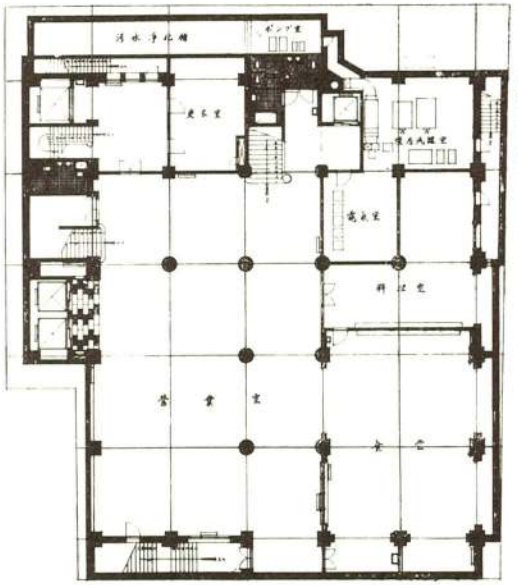
設計施工　株式會社大林組　　設計者　毛利泰三氏

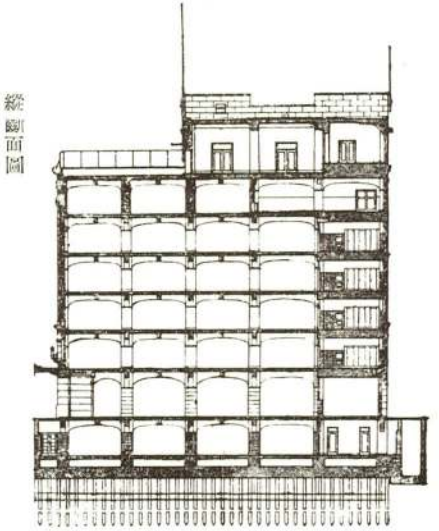












橫濱(中區伊勢佐木町)**•越前屋**　（３）

設計施工　株式會社大林組　　**設計者**　毛利泰三氏

夏 蚊蟲 ロールスクリーン

近來模造品多數あり本品御指定ありたし

Rolscreens
The Ideal Screen For Casements

特許第74197號



(登錄證型)

日本總代理店

島貿易株式會社建材部

本店 大阪市東區高麗橋四丁目
電話本局自五〇四〇—至五〇四七番

支店 東京市日本橋區平松町
電話日本橋 二四番 三一六九番 三一六八番

書は蠅、夜は蚊と

夏は閑靜な郊外の住宅に在つても中々に快よき休息は出來かねます。これ我が優美輕便な**ロールスクリーン**の御使用を切に御薦めする所以であります。

從來病院や郊外住宅や又は料理場などで、窓の設備中最も苦心して來たものは實に**スクリーン**の問題であります。凡そ傳染病の豫防とか、夏期蠅や蚊や、其他色々の虫類が飛込んで來るのを防いだり、又工場地帶で煤煙防止の必要な場所などには、是非共此の**スクリーン**の用意をして置かねばなりません。

然るに此迄のものは、何れも取扱上の不便や、不體裁の點や或は又、不經濟などの點で、其必要を生ずる都度、頭痛の種となつて居たものであります。

此の久しい間の、難問解決の使命を果たすものこそ、實に我が**ロールスクリーン**の出現及び提供であります

建築と社會第十四第輯七號

廣告目次

ア
有山組……一四
安藤組大阪支店……一四
旭硝子株式會社……五五
淺野スレート株式會社……二七
淺海商店……五〇
阿部鐵工所……四四

イ
池田建築事務所……一一
池田谷建築事務所……一一
池田組……一四
伊藤建築事務所……一一
石川商會建材部……五七

エ
榮進社……二五

オ
オリエンタルメタル製造所……四九
オキナ商店……四八
大阪ヒトロライト工事合資會社……二八
大阪製鎖所エレベーター部……一五
大阪窯業セメント株式會社……三
大阪伊丹商店……四六
大阪橋本組……一五
大林組……一五
大倉土木株式會社大阪出張所……一四
大野製作所……一
大平工業所……五八
小笠原建築事務所……一一
奥村重兵衛商店……四〇
岡部建築事務所……一一
岡本工務店……一五
置盛建築事務所……一一

カ
片岡、石本建築事務所……一一
關西ペイント株式會社……二九
葛野建築事務所……一一
龜谷開作商店……一六

キ
木下謹三商店……四六
桐田商會……四七

ク
クロースルーフキング製作所……六八
國枝工務所……一二
熊取谷熊次郎商店……一六
久保田組……一九
黒川化學工業所……六九

コ
鴻池組……一六
駒井喜鐵工所……一六
工材社(阪口芳三郎)……八
後藤商店……二二
宏昌大理石工作所……一九

サ
佐伯組……一七
佐久間建材工業所……二〇
佐渡島西店建材部……三二
笹岡家具製飾店……三六
三機工業株式會社……表紙二
三稜社……二八
阪本商會大阪出張所……三八
澤田合名會社……七二

シ
清水榮二建築事務所……一二
清水組大阪支店……一七
城口研究所大阪支店……五九
設樂建築事務所……一二
島貿易株式會社建材部……九
集成社塗料部……三五

ス
須賀商會……四三
住江織物合資會社……二二

ゼ
錢高組……一七

ソ
宗建築事務所……一二

タ
竹中工務店……一七
大正エレベーター製作所……六三
田中昌司商店……三六
田村商會……二四
田島工業株式會社大阪出張所……七〇
高松菊治郎商店……七

ダ
ダンロップ護謨株式會社……五
WCフラッシュバルブ製作所……五二
大元塗料店……六三
大和工業株式會社……七五

テ
寺井洋家具部……三八

ト
朝永建築事務所……一二

ナ
ナンコク商事株式會社……三一
中村建築事務所……一二
中川辰藏店……一八
内外土木建築材料合資會社……五六
南滿鑛業株式會社……六八
南滿建材工業所……三四

ニ
日本チャンバーリン商會……四
日本ドアーチェック製作所……六二
日本パイプ製造株式會社……六二
日本ペイント株式會社……三九
日本セメント防水劑製造所……五〇
日本木材工藝株式會社……七四
日本建築紙工株式會社大阪出張所……四五
日本金具株式會社……六
日本工劑株式會社……七三
日本石綿盤製造株式會社……三〇
日本碎石合名會社大阪出張所……六四
日本銅製建具株式會社大阪支店……六五
西原衛生工業所大阪支店……五一
西孫南店建築金物部……三七
新田ベニア製造所……七六

ノ
野村建築事務所……一二
野澤幸三郎商店……六〇

ハ
橋本建築事務所……一三
原科建築事務所……一二
原商事株式會社……五二

フ
古塚建築事務所……一三
藤木工務店……一八
藤田商會……二六
藤井製作所……六一
富士洋紙店……二一

ホ
本間建築事務所……一三

マ
眞水三橋建築事務所……一三
松村組……一八
松本商店……六六
万年スレート株式會社……三四

ミ
ミナト製作所……四二
三井物産株式會社……二三
宮島康夫商店……七一

ム
村上建築事務所……一三

モ
森本建築社……一八

ヤ
安井建築事務所……一三
山中商會……五三
山泰商店……四五
矢橋大理石商店……二六

ヨ
横河工務所……一三
横河橋梁製作所……四一
米本商店……五四
米山製作所……六七
米野商店……四二

ラ
ラバロイド商會……三三

レ
玲光社(木內眞太郎)……五四